

ネパール国
養蚕振興・普及プロジェクト
中間レビュー報告書

平成 21 年 8 月
(2009 年)

独立行政法人 国際協力機構
ネパール事務所

**ネパール国
養蚕振興・普及プロジェクト
中間レビュー報告書**

**平成 21 年 8 月
(2009 年)**

**独立行政法人 国際協力機構
ネパール事務所**

序 文

独立行政法人国際協力機構は、ネパール国（以下、「ネパール」）と締結した討議議事録（R/D）に基づき、技術協力プロジェクト「養蚕振興・普及プロジェクト」を2006年12月から5年間の予定で実施しています。

この度、当機構は協力期間中の活動実績等について、ネパール側と合同で総合的な評価を行うとともに、今後の対応策等を協議するため、2009年6月2日から6月17日まで、当機構農村開発部水田地帯第三課長伊藤 耕三を団長とする中間レビューを実施しました。

本報告書は、同調査団によるネパール政府関係者との協議及びレビュー結果等を取りまとめたものであり、本プロジェクト並びに関連する国際協力の推進に活用されることを願うものです。

終わりに、本調査にご協力とご支援をいただいた両国の関係者に対し、心から感謝の意を表します。

平成 21 年 8 月

独立行政法人国際協力機構
ネパール事務所
所長 丹羽 憲昭

目 次

序文

目次

写真

プロジェクト位置図

略語表

中間レビュー評価調査結果要約表

Summary of the Mid-Term Review Results

第 1 章	中間レビューの概要	1
1 - 1	中間レビューの背景・目的	1
1 - 2	プロジェクト概要	1
1 - 3	合同評価調査団の構成	2
1 - 4	調査日程	3
1 - 5	主要面談者	4
第 2 章	プロジェクトの実績	5
2 - 1	投入実績	5
2 - 2	活動の実施状況と成果の達成度	8
2 - 3	実施プロセス	11
第 3 章	評価結果	13
3 - 1	評価 5 項目による分析	13
3 - 2	結論	17
3 - 3	PDM の改訂	17
第 4 章	提言	19
4 - 1	提言	19
付属資料		21
1	ミニッツ・合同評価報告書	23
2	改訂 PDM (和文)	81
3	日本語評価グリッド	83
4	質問票回答	93

写 真



Salang VDC：同村では農民組織化が進み、桑園が共同で管理されている。



Nalang VDC：農家の蚕室内に掲げられたJT/JTAによる管理シート。



Nalang VDC：農家の蚕室内。蚕の密度は高い。



Nalang VDC：繭乾燥施設は未だ稼働していない。早期の稼働が望まれる。



Sangkosh VDC：同村では養蚕が始まったばかり。写真はトウモロコシ畑横に植えられた桑。



Kumpur VDC：農家の蚕室。建設費 15,000NRS のうち 12,500NRS はドニベシ支場からの補助金とのこと。



Baireni VDC：一度村を出て戻ってきた篤農家の蚕室。同氏は過去、16箱の蚕を飼育していたことがある。



コパシ養蚕試験場：プロジェクトへの関与方法について、協議を実施。



コパシ養蚕試験場：過去の協力によって供与。



コパシ養蚕試験場の真向かいにある民間企業の座繰り工場。女性達は技術を過去の研修で身につけた。



ドニベシ支場：農家から購入された繭。品質は村やシーズンによってムラが大きい。写真は Salang のもの。



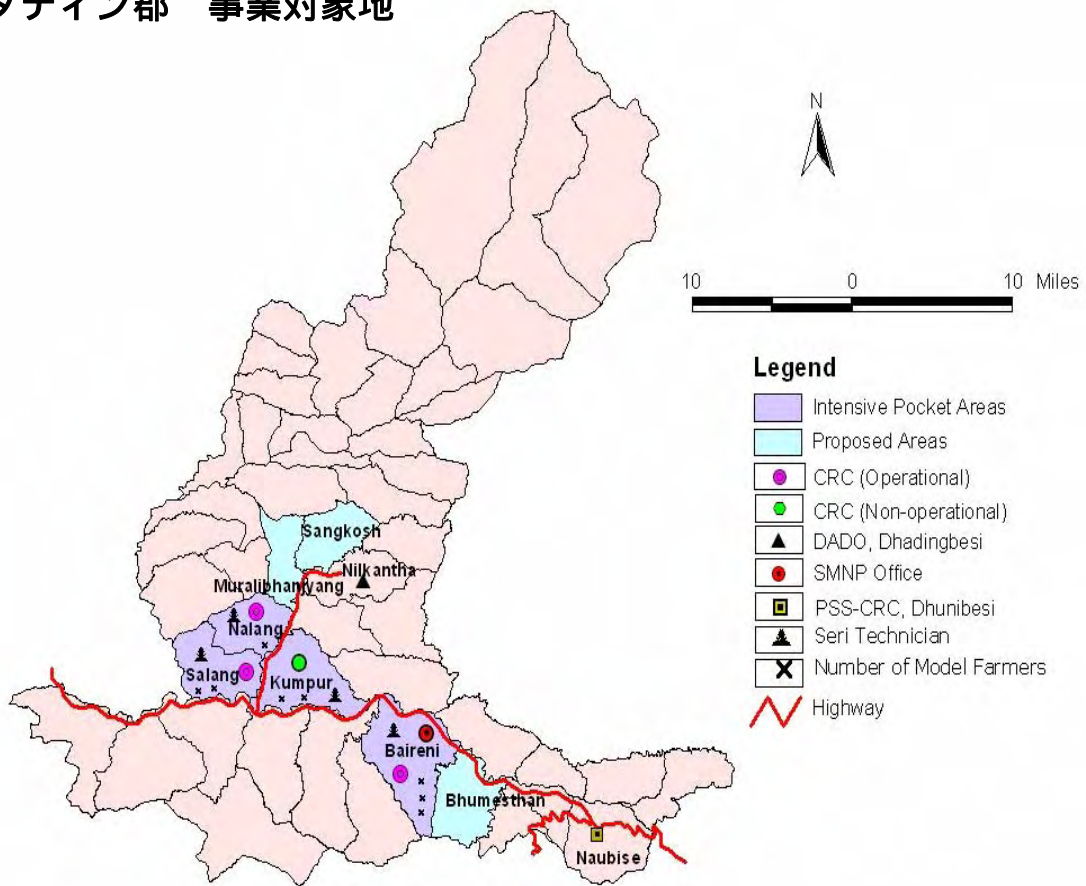
ドニベシ支場：座繰り研修用機材。上の民間企業も同じものを入手し、使っている。

プロジェクト位置図

ネパール全図



ダディン郡 事業対象地



略 語 表

C/P	Counterpart	カウンターパート
CRC	Community Rearing Center	村落支援センター
DADO	District Agricultural Development Office	郡農業開発事務所
DOA	Department of Agriculture	(農業協同組合省) 農業局
DOIED	Directorate of Industrial Entomology Development	(農業局) 産業昆虫課
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JT	Junior Technician	普及員
JTA	Junior Technical Assistant	普及員補
MOAC	Ministry of Agriculture and Cooperatives	農業協同組合省
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
NRS	Nepalese Rupee	ネパール・ルピー
OJT	On-the-Job Training	実地研修
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画表
PPP	Public Private Partnership	官民パートナーシップ
PQCPPP	Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project	養蚕振興・普及プロジェクト
PSS-CRC	Parental Stock Seed Cocoon Resource Centre, Dhunibesi	ドニベシ種苗親繭資源センター (ドニベシ支場)
RCC	Regional Coordination Committee	地域調整会議(ダディン郡)
SDD	Sericulture Development Division	養蚕試験場
SDP	Sericulture Development Program	養蚕振興計画
TADA	Travel Allowance & Daily Allowance	交通費日当
VDC	Village Development Committee	村落開発委員会

US\$ 1 = NRs.74.69 NRS. 1 = JPY. 1.29 (2009年6月)

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ネパール	案件名：養蚕振興・普及プロジェクト
分野：農業	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：JICA ネパール事務所	協力金額（評価時点）：
協力期間	2006年12月から2011年11月まで
	先方関係機関：農業協同組合省（MOAC） 農業局（DOA）産業昆虫課（DOIED） 日本側協力機関：農林水産省
他の関連協力：	
<p>1 - 1 協力の背景と概要</p> <p>ネパールは就業人口の65%が農業に従事し、国民総生産の約40%を農産物が占める農業国である。ネパールの国土は山地が多くを占め、耕作可能地はほぼ開墾されていることから、多様な地形と気候を活かし、養蚕をはじめ、果樹、茶等の付加価値の高い換金作物の生産が求められている。</p> <p>ネパールの養蚕は、開始から30年と歴史が浅く、1戸当たりの桑園面積は群馬県の約3分の1、1ha当たり繭生産量は約4分の1、1戸当たり繭生産量は約14分の1と非常に低いレベルである。</p> <p>また、生糸品質の面でも国際規格A格程度（インドは2A～3A、日本が4Aで、ネパール産生糸より高品質）となっており、国際市場の需要に答えられていない。繭生産性が低く、繭品質が悪い直接の原因は、適切な技術を提供できる技術者・普及員や稚蚕共同飼育所などの施設が不在のため、温湿度管理技術、病気の防除技術、給桑（きゅうそう）技術、上簇（じょうぞく）技術さらには選繭（せんけん）技術が農家に導入されていない、という理由が挙げられる。</p> <p>ネパール政府は現在まで、農家への繭生産技術指導から繭の購入、繭乾燥・生糸生産までを一貫して担い、蚕糸業の振興に主導的な役割を果たしてきた。これまでネパール農業協同組合省はドナー・NGO等からの支援を得つつ、養蚕農家の技術リソースとなる各地の支場の整備、製糸機械の導入、日本から導入した新しい蚕種の系統保存・蚕種の安定生産・供給を軌道に乗せるなどの面で一定の成果を挙げてきた。しかし、生産された繭は低品質で、さらにその繭から政府工場で生産される生糸は低品質且つ生産コストが嵩むため、隣国の中国・インドから輸出される生糸と比較し、国際競争力を持つことができない。生糸の公定価格制度と相まって、政府が生産する生糸はデッドストック化する傾向にあり、繭から生糸を生産すればするほど政府は赤字を増やす構造になっている。</p> <p>この現状を踏まえ、本案件はネパールの養蚕農家の収入向上を上位目標におき、技術協力プロジェクトを実施する。プロジェクトは、村落レベルにおける普及員・農家等への優良繭生産技術の指導と、組織化による品質向上のための実践的取り組みを通じ、収入向上の基礎となる優良繭の生産を実証する。</p>	
<p>1 - 2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良繭及びシルク生産のモデルがネパール国内で展開される。 ・改善を通じて、養蚕農家及び蚕糸業関係者の収入が向上する。 <p>(2) プロジェクト目標（本中間レビューにて改訂）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（旧）養蚕農家グループと政府普及員/NGO/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルク生産活動が実証される。 ・（新）養蚕農家グループと政府普及員/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルクの生産モデルが実証される。 <p>(3) 成果（本中間レビューにて改訂）</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)（旧）優良繭生産及び繭収穫後処理に関する標準手法が確立する。 （新）普及員の能力強化を通じて、養蚕農家グループの能力が強化される。 	

<p>2)(旧)農家及び政府普及員・NGOスタッフの繭生産技術並びに繭収穫後処理に関する能力が向上する。</p> <p>(新)市場開拓のための政府、民間企業、農家グループ間の協力関係が構築される。</p> <p>3)(旧)政府・NGO・民間セクター間の連携が強化される。</p> <p>(新)政府、農家、民間企業間の連携のための産業昆虫課の能力が強化される。</p> <p>(4)投入</p> <p>日本側：</p> <p>専門家派遣：長期専門家派遣 延べ2名、短期専門家派遣 延べ6名</p> <p>研修員受入：第3国研修 延べ9名</p> <p>機材供与：1,251,000円(2009年3月時点)</p> <p>ローカルコスト負担：21,454,000円(2009年3月時点)</p> <p>ネパール側：</p> <p>カウンターパート：13名</p> <p>ローカルコスト：予算表が提示されているのみで、プロジェクトへの投入は不明</p> <p>その他：土地及び執務室等提供、光熱水費等</p>

2. 評価調査団の概要

調査団	<p>日本側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤 耕三 総括 (独)国際協力機構農村開発部水田地帯第三課長 ・木内 信 養蚕振興(独)農業生物資源研究所 昆虫科学研究領域長 ・樫田 泰明 計画管理(独)国際協力機構ネパール事務所 所員 ・土井 弘行 評価分析 フリーコンサルタント <p>ネパール側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mr. Ram Krishna Shrestha, Coordinator Senior Agricultural Officer, Monitoring and Evaluation Division, Ministry of Agriculture and Cooperatives(MOAC) ・ Dr. Haribabu Tiwari, Team Member Senior Agricultural Economist, Agri-business Promotion and Statistics Division, MOAC ・ Ms. Sabnam Shivakoti, Team Member Agricultural Economist, Planning Division, MOAC ・ Mr. Prakash Bista, Team Member Agriculture Extension Officer, Planning Section, Department of Agriculture(DOA) ・ Mr. Rajendra Koirala, Team Member Agricultural Economist, Monitoring and Evaluation Section, DOA
-----	--

調査期間：2009年6月2日～2009年6月17日

評価種類：中間レビュー

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) プロジェクト目標

生産された繭の国際規格はA格以下とされており、生産された繭の品質は依然十分ではない。また、優良繭の生産性についても、農家及び繭の飼育時期によって大きく異なっており、平均値も高いとは言えない。このため、プロジェクト後半においては、新技術の導入や実証は行わず、普及に重点を置いた事業を展開し、技術普及率の向上を図る予定である。また、品質の向上には品質向上のためのインセンティブが不可欠であり、このためプロジェクトでは繭品質の公平公正な評価の導入や民間企業との連携を目指している。これまでに、民間企業が年間150

kgの乾繭を政府を介して購入した例があるが、制度の整備や民間企業が持続的に参入できる環境が必要であり、プロジェクト側から C/P 機関に対して働きかけを行っているところである。

(2) 成果

成果 1:

プロジェクト前半においては、養蚕農家への技術指導が行われ、優良繭生産のための技術は、ある程度養蚕農家に理解されており、3ヶ所の共同稚蚕飼育施設もコミュニティで利用されている。このため、今後は技術指導や技術導入から技術普及制度の改善に移行していくとともに、現在は1種類のみとなっているマテリアルの開発・配布を行っていく予定である。普及員の品質チェックについては、制度化されているため実行率は100%であるが、それが品質向上を牽引する段階までは至っていないようであり、プロジェクトではC/P機関に対して改善の提言を行っていく予定である。また、シルク商品開発関連活動については、オリジナルシルク作製技術の普及・発展について、ナラン村とサラン村で座繰り糸の生産が行われたものの、市場にすぐに繋げることができなかつたため、これら農家の座繰り技術をうまく利用する方策を検討するとともに、商品開発活動において、民間企業との協働活動に取り組み始めたところである。農民間におけるシルクマーケットへの理解度が低いことから、この活動は今後のプロジェクトの重点の一つとも言える。

成果 2:

現在、農民の組織能力の向上を図るため、NGOを活用した調査活動が行われており、NGOによる世帯調査は7つの村(村落開発委員会/VDCs)で実施されている。しかしながら、養蚕農家の組織化については、5つのVDCsでグループ化が進んでいるものの、2つのVDCsではグループ化が進んでいない。これは、同2VDCsにおいて養蚕が本格的に導入されていないためであるが、本プロジェクトは政府・農家・民間企業が連携を行うモデル構築が目的であり、同2VDCsへの養蚕の導入については、産業昆虫課が推進していくことと整理すべきである。

他方、C/P及びJT/JTA向けの研修については、計画に従って実施されている。養蚕農家向け研修については、6回実施されており、うち1回はシルクモビライザー向けの導入研修、5回は座繰り研修である。また、適宜、TOT(Training of Trainers)が実施されている。但し、これら研修の成果がプロジェクト運営に十分に反映されていないことが問題点として挙げられる。今後は、プロジェクト前半の成果を踏まえ、技術マニュアルを用いたカスケード方式の研修システムが構築される予定である。

成果 3:

JCCは5回開催されているが、RCCはドネベシ支場において1回開催されたのみであり、今後、定期的を開催することによって、プロジェクトの活動状況、問題点及び課題を共有しながら連携を推進していく必要がある。特に、民間企業の参入を図っていく上で、三者(政府、農家、民間企業)における定期的な会議が重要となる。

また、事業の円滑な推進のためのモニタリング手法の開発については、モニタリングの基礎データとなる養蚕関連統計が未整備であるため、プロジェクト内に作業チームを立ち上げ、養蚕関連統計の整備が行われているところである。

3 - 2 評価結果の要約

(1) 妥当性

ネパールでは養蚕農家の繭生産性は未だ低く、ネパール産シルク関連民間企業及びシルクマーケット自体が十分に発展していない。本プロジェクトは、これらの現状の問題点を解決することを目指しており、プロジェクトの実施は妥当である。また、受益者のニーズ、ネパール国の政策、日本側の援助政策に合致してい

ること、日本の過去の経験が生かせることから、妥当性は高い。

(2) 有効性

受益者に便益がもたらされつつあるものの、蚕糸業への民間投資の推進環境の整備等の外部条件が満たされていないことや、PDMの内容が明確ではないことが指摘できる。改訂されたプロジェクト目標である、「養蚕農家グループと政府普及員/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルク生産モデルが実証される。」は、合同評価チームの提言が適切にプロジェクト及び外部条件に反映されれば、プロジェクト終了時には達成されることが見込まれる。

(3) 効率性

日本からの投入は計画通りに行われており、運営指導の提言に沿って業務調整員配置等の追加的措置を行っているものの、海外研修を受けたカウンターパートが異動している点、JT/JTAの協力不足、稼動していない施設がある点等については、効率性は低い。

(4) インパクト

民間企業の参入例となることや、繭の流通システムの確立が期待される。また、養蚕は、単に収入源となるだけでなく、蚕糸業に係る関係者の雇用促進、特に、農村女性の就業機会を提供することが見込まれる。

(5) 自立発展性

先方政府の政策・制度が不十分な点、組織・財政の脆弱性等が問題点として挙げられるため、今後のプロジェクト活動・政策提言を通じて産業昆虫課による改善が期待される。技術面については、これまでの協力によって、養蚕技術の実証については、一定程度の成果が出ており、技術マニュアルの配布とカスケード方式の研修によって技術を末端まで届けるシステムが構築されれば、効果が持続していくことが期待できる。

3 - 3 効果発現に貢献した要因

これまでのところ、D. D. Textile Pvt., Everest Paper Pvt., M. M. D. S. Group等の民間企業が年間150kgの乾繭を農家から購入するまでに至っている。このことは、生産された乾繭の需要が増加していることを意味し、プロジェクトの効果発現への貢献が期待される。

3 - 4 問題点及び問題を惹起した要因

延べ9名のカウンターパートが第3国研修を受けている。しかし、研修の成果を生かしたプロジェクト運営のための具体的な実行計画は、研修を受けたカウンターパートによって作成されていない。

また、研修参加者のうち、3名のカウンターパートは他の部署へ異動となっており、研修の効果がプロジェクトの実施に生かされていない。

13名が長期専門家及び短期専門家のカウンターパートとして配置されている。しかし、フルタイムカウンターパートは、実質産業昆虫課職員1名となっており、それ以外のカウンターパートについては、専門家と常時活動を行なう体制ができていない。加えて、カウンターパートが他の部署へ異動となったケースがあること、また、プロジェクトダイレクターとなるべき産業昆虫課(DOIED)の課長職が空席になっている。

PDMがプロジェクト関係者間で十分に共有されていないこと、プロジェクト活動の実施段階で、プロジェクト関係者間の意志疎通ができていなかったことによる誤解から、活動が計画どおりに進まないといったことがあったとの報告がある。プロジェクト内部の協働モニタリングや意思決定の仕組みが欠けている他、C/Pが果たすべき役割が明確になっていない等の問題点がみられる。

3 - 5 結論

プロジェクト開始から 2 年半が経過し、一定の成果が発現していることが確認された。また、今後特に注力すべき課題についても明確になり、日本側・ネパール側での共有がなされてきており、プロジェクト目標達成のための取り組みが本格化したと言える。

しかしながら、中間レビューをプロジェクトフレームワークの改訂の機会と捉え、PDM・PO の改訂を行うことで、より効果的な成果の発現を目指す必要がある。新 PDM においては、国内支援委員会にて合意されている今後の方向性に従って、官民連携、カスケード方式研修システムの構築、モニタリング評価システムの構築（加えて、日本側の目標として、これら活動を通じた政策提言）に焦点を絞ることが主な点として挙げられる。これらの改訂を行うことで、プロジェクト目標は達成されるものと期待できる。

3 - 6 提言

(1) 民間企業の誘致

政府はこれまで繭生産から生糸生産までを担ってきたが、養蚕が産業として持続するためには、農家や民間企業の参入が必要であり、そのためには、政府による民間参入のための環境整備と蚕糸業全体の行政管理が必要である。プロジェクトにおいては、バリューチェーン調査等による情報分析等の観点から協力を行うが、政府においても、繭/生糸販売窓口を産業昆虫課に設置するといった積極的な活動が望まれる。

(2) 農民組織化の重要性

プロジェクト前半においては、技術面の改善に注力してきたが、今後は農民組織化をはじめとする社会開発的活動により重点を置くことが求められる。農民組織は、カスケード方式の研修の受け皿となるだけでなく、組織形成自体が DADO、銀行、NGO 等に支援要請を行うといった、農民の能力向上に資するため、必要に応じて、農民組織の協同組合化についても検討を行うべきである。

(3) 先方政府による養蚕アクションプランの策定

産業昆虫課は、政策策定のためのワークショップを開催し、養蚕振興政策案を作成しているが、その施行と同時進行で、具体的なアクションプランの策定が望まれる。プロジェクトにおいては、統計やモニタリング評価方法の改善を行い、アクションプラン策定に必要な統計情報等の整備を行う形で協力を行う。

(4) PDM の共有

過去、関係者間におけるプロジェクト基本計画の共有が不十分であったため、各自が役割を十分に理解しておらず、円滑な活動の妨げになった経緯がある。新 PDM については、ネパール語訳も行い、関係者全員で十分に共有すべきである。

(5) 予算措置

プロジェクト活動に係る先方負担分のローカルコストが十分でなく、対象地域の一部への普及活動が行えないといった事例が報告されており、十分な予算措置が望まれる。なお、先方政府からは、プロジェクト目標の達成の阻害要因が予算不足であるなら、短期的な特別予算（場合によっては、2KR 見返り資金も検討対象となる）の措置も検討したいとの声がある。

(6) ホルマリン代替消毒剤の導入

過去の運営指導において提言され、第二回 JCC で合意されていたホルマリン代替消毒剤の導入については、試行的な活動は行われているものの、具体的な輸入手段等についての検討がなされていない。迅速な対応が必要である。

(7) 養蚕振興モデルの構築

本プロジェクトは、対象地域において繭生産・生糸生産のモデルを構築することを目標とし、その後、先方政府の自助努力によって他の地域への展開を想定している。プロジェクトの残り期間においては、このコンセプトをより明確に認識し、モデル構築に専念することとし、対象地域を現行の7VDCから、養蚕が浸透しておりモデルとなる可能性を十分に有する5VDCに絞ることとする。

Summary of the Mid-Term Review Results

I. Outline of the Project		
Country: Nepal		Project title: Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project (PQCPPP)
Issue / Sector: Agriculture		Cooperation scheme: Technical Cooperation Project
Division in charge: JICA Nepal Office		Total cost:
Period of Cooperation	December 2006 to November 2011	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Agriculture and Cooperatives (MOAC) Department of Agriculture (DOA) Directorate of Industrial Entomology Development (DOIED)
		Supporting Organization in Japan: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
Related Cooperation:		
<p>1. Background of the Project</p> <p>In Nepal, around 65% of the employed population is engaged in agriculture, which generates around 40% of Gross National Product (GNP) of the country. Nepalese land is characterized by its high ratio of mountainous area coverage and arable land is almost completely exploited. Therefore, production of high value added crops (like sericulture, fruit cultivation and tea cultivation) with utilization of various geographic and climatic conditions is expected to be promising.</p> <p>Sericulture in Nepal began around 30 years ago and has a short history compared to those of other countries. The mulberry (for feeding silkworm) plantation area per a household is 1/3, cocoon yield per Ha is 1/4, and production per household is 1/14 of those of Gunma prefecture, an advanced area in sericulture in Japan. These facts indicate the low productivity of sericulture in Nepal. Further, the quality of raw silk made in Nepal is "Grade A" in most cases, where else Indian silk is Grade 2A-3A, Japanese silk is Grade 4A. This shows that the low quality of Nepalese silk does not respond to the expectation/needs of the international market. The direct reasons of low productivity and quality come from the absence of technician and extension workers to provide appropriate techniques and the absence of facilities for taking care of young silkworm properly. Consequently, techniques such as temperature and humidity control, disease prevention, mulberry feeding, cocoon mounting, and cocoon selection are not applied properly at the farm level.</p> <p>The Government of Nepal has been playing a leading role so far on the development of the domestic silk industry by carrying out the introduction and instruction of cocoon production, cocoon procurement, drying and production of raw silk from the procured</p>		

cocoons. The Ministry of Agriculture and Cooperatives of the Government of Nepal have made several achievements on sericulture development (cf. establishing branch offices in several regions, introducing reeling machines, preserving new varieties of silkworm from Japan, silkworm egg production and distribution, etc.) with support from donor agencies and NGOs. Still, the quality of the produced cocoon remains at a low level and leads to not only the low quality of raw silk, but also a high cost; more than that of the market price. Accordingly, Nepalese raw silk can not compete against Chinese and Indian silk which are also imported to Nepal. Together with the officially fixed pricing system, the raw silk made by the Government is not likely to be sold. This means that the more the Government produces raw silk from low quality cocoon, the more deficit emerges.

Based on the analysis of the current situation, the Technical Cooperation Project is implemented with its aim at the increase of income of seri-farmers as its Overall Goal. The Project will carry out extension activities for high quality cocoon production toward extension workers and seri-farmers at the grass-root level and practice cocoon quality management through organizing seri-farmer group activities. The activities are expected to verify the “Quality Cocoon Production” model that is fundamental for income generation.

2. Project Overview

(1) Overall Goal:

- The model for quality cocoon and silk production are replicated to other parts of Nepal.
- The income of seri-farmers and workers around serifarmers is increased through the improvement.

(2) Project Purpose: (Revised as a result of the Joint Mid-Term Evaluation Study)

- The Quality Cocoon Production in the target/model area is verified through capacity building and strengthening of the linkage among serifarmers groups, Government technicians, NGOs, Private entrepreneurs and other stakeholders (Original as of 27th May, 2009).
- The quality cocoon and silk production model is verified in the target area through capacity building and strengthening of the linkage among seri-farmers groups, Government technicians, Private entrepreneurs and other stakeholders (Revised).

(3) Outputs: (Revised as a result of the Joint Mid-Term Evaluation Study)

- 1) The standardized technology for Quality Cocoon Production, Cocoon Quality Inspection and post cocoon harvest is established (Original as of 27th May, 2009).
The technical capacity among farmers groups are strengthened through capacity development of Government technicians (Revised).

2) The capacity of Seri-farmers, Government technicians and NGO staff for promoting Quality Cocoon Production and Cocoon Quality Inspection technology are strengthened (Original as of 27th May, 2009).

The cooperation among Government, Private entrepreneurs, and seri-farmers' groups for market exploration is established (Revised).

3) The linkage among Governmental Agency, NGO and Private Entrepreneur are strengthened (Original as of 27th May, 2009).

The capacity of DOIED to strengthen linkage among Governmental Agencies, farmers and Private entrepreneurs is strengthened (Revised).

(4) Inputs (as of this Mid-Term Evaluation)

Japanese side :

Long-term Experts: 2 persons in total, Short-term Experts: 6 persons in total

Training in overseas: 9 persons in total

Equipment: 1,251,000 Japanese Yen (as of March 2009)

Local cost: 21,454,000 Japanese Yen (as of March 2009)

Nepalese side:

Counterparts: 13 persons

Local cost: Actual input is unknown since only budgetary table is available.

Other: Land, office space, and fuel and light expenses for the Project are provided.

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	<p>Japanese Side</p> <ul style="list-style-type: none"> • Mr. Kozo Ito, Leader Director (Southwest Asian and Oceania), Paddy Field Based Farming Area Division Paddy Field Based Area Group, Rural Development Department, Japan International Cooperation Agency • Dr. Makoto Kiuchi, Sericulture Promotion Director, Division of Insect Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences • Mr. Yasuaki Momita, Planning Management Representative, Nepal Office, Japan International Cooperation Agency • Mr. Hiroyuki Doi, Evaluation Analysis Independent Consultant • Mr. Narendra Kumar Gurung, Mission Coordinator Senior Program Officer, Nepal Office, Japan International Cooperation Agency <p>Nepalese Side</p>
----------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Ram Krishna Shrestha, Coordinator Senior Agricultural Officer, Monitoring and Evaluation Division, Ministry of Agriculture and Cooperatives(MOAC) • Dr. Haribabu Tiwari, Team Member Senior Agricultural Economist, Agri-business Promotion and Statistics Division, MOAC • Ms. Sabnam Shivakoti, Team Member Agricultural Economist, Planning Division, MOAC • Mr. Prakash Bista, Team Member Agriculture Extension Officer, Planning Section, Department of Agriculture(DOA) • Mr. Rajendra Koirala, Team Member Agricultural Economist, Monitoring and Evaluation Section, DOA
Period of Evaluation: 2 nd June 2009~ 17 th June 2009	Type of Evaluation: Mid-Term Review
III. Results of Evaluation	
<p>1. Achievements</p> <p>(1) Project Purposes</p> <p>Quality of produced cocoon is below A grade of International Cocoon Grading Standard, and it is considered to be still low. Moreover, the productivity of produced cocoon varies depending on seri-farmers' rearing capability or cocoon rearing seasons, and an average of cocoon production per box is not high. Therefore, the Project plans to emphasize on extension activities in order to increase technology dissemination ratio in the remaining period, rather than conducting introduction and demonstration of new technology. In addition, since incentive for improvement in cocoon quality is necessary, the Project aims at introduction of fair and proper evaluation method of cocoon quality, and involvement of private entrepreneurs. Although there are cases where the private entrepreneurs purchased 150Kg of dried cocoon per year based on the permission of the Government, a better environment for private entrepreneurs to be involved, as well as preparation of related policy and institutional arrangement, is required; the Project has been encouraging C/P to take necessary measures.</p> <p>(2) Outputs</p> <p>Output 1:</p> <p>Technologies on quality cocoon production are understood to some extent among seri-farmers, as a result of the training and technical guidance through the project activities in the first half of the Project, and 3 CRCs are in function and utilized among seri-farmers. For this reason, the Project plans to shift the improvement of technology</p>	

dissemination system from direct guidance and introduction to seri-farmers, as well as development and distribution of technical guideline and manual, in addition to one material produced so far. As for fulfillment of cocoon quality inspection by the government technicians, quality checking has been always implemented as the Government's inspection system, but it seems that the systematization has not resulted in pulling up the capacity to produce cocoon of better quality; the Project plans to recommend on cocoon inspection system to C/P. As for the activities related to the development and extension of silk production, Nalang and Salang VDCs launched original Zaguri silk production, but it has not been linked with a market immediately. For this reason, the Project has begun to collaborate with private entrepreneurs in original silk product development, as well as to utilize Zaguri silk technology among seri-farmers. This activity will be one of the important activities of the Project, since there is still low understanding among seri-farmers toward silk market.

Output 2:

At present, activities of group formation and social mobilization by NGO have been conducted, and household survey on 7 VDCs was conducted. However, seri-farmers' grouping has proceeded in 5 VDC, besides 2 VDCs yet to be proceeded. This is because sericulture itself has not been promoted fully in the latter 2VDCs, and promotion should be conducted by DOIED, while the Project should focus on development of a model in the former 5VDCs to link the Government, farmers, and Private entrepreneurs. On the other hand, trainings for C/P and JT/JTA have been carried out as planned. As for training for seri-farmers, one Silk Mobilizer Orientation training and 5 Zaguri trainings were implemented. In addition, TOTs (Training of Trainers) have been implemented upon necessity..However, output of the training program has not fully reflected in the project management. Based on the output of the first half of the project period, cascade system for trainings using technical guidelines and manuals is planned to be developed.

Output 3:

JCC was held 5 times, while RCC was held only once at Dhunibesi Sericulture Development Office. Therefore, it is necessary to hold RCC more frequently to share the progress of the project activities, problem faced, and issues to be solved, as well as to strengthen the linkage among Government, farmers, and Private entrepreneurs. To promote involvement from the private sectors, meetings among those three stakeholders are especially important. Also, the development of monitoring method and statistics, which are used for better implementation of the Project are necessary, and the working group has been organized in the Project to upgrade statistical data collecting method and system.

2. Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

In Nepal, the silk market along with the private sector in it has not been developed and could not afford to adopt the principle of a market mechanism. The Project aims to solve these issues, and therefore is considered to be relevant. In addition, the Project has relevance since the Project is in line with the needs of beneficiaries, the policy of the Nepal Government, and ODA policy of Japan, and Japan's past experience in the field of sericulture can be utilized.

(2) Effectiveness

Benefit has been brought to target group by implementation of the project activities. However, it can be mentioned that important assumptions to achieve the Project Purpose such as creation of environment for Private entrepreneurs to invest on original silk products have not been realized, and logics of the PDM are not clear. It is projected that the revised Project Purpose "The quality cocoon and silk production model is verified in the target area through capacity building and strengthening of the linkage among seri-farmers groups, Government technicians, Private entrepreneurs and other stakeholders" will be achieved by the end of the Project, if the recommendations by the Joint Evaluation Team are responded correctly.

(3) Efficiency

Necessary inputs from Japan are performed as scheduled, and a project coordinator has started her activities based on the recommendation by the Consultation Study Team. However, efficiency is not thought to be high considering the following reasons: counterparts who received technical trainings were transferred the other section, full cooperation from JT/JTA was not obtained, and some equipment was yet to be fully utilized.

(4) Impact

It is expected that the Project will be an example of PPP, and cocoon trading system will be developed. Also, sericulture may not only be the source of income, but also may provide job opportunities for those involved in the silk industry, especially for women in rural areas.

(5) Sustainability

There are some problems such as inadequate policy and institutional framework as well as weakness in terms of organization capacity and financial aspect, improvement is expected in the future by DOIED through the Project Activities and recommendation towards the Sericulture Policy in Nepal,. As for technical aspect, it is expected that outputs

will sustain after establishment of a system such as distribution of manuals and establishment of Cascade Method, which transfer technologies related to quality cocoon production and post harvesting to farmers level.

3. Factors that promoted realization of effects

Private entrepreneurs such as D. D. Textile, Everest Art Paper, and M. M. D. S. Group have purchased 150 Kg of dried cocoon. It means the demand of produced dried cocoon has increased, and this is a factor that may accelerate realization of effect by the Project.

4. Factors that impeded realization of effects

- Nine counterparts received training in overseas. However, no specific action plan that should follow the trainings has been prepared. Besides, three of them were transferred to other sections.
- Thirteen personnel have been assigned as counterparts to the long- and short-term experts. However, they have not been able to work full-time together with experts. In addition, some C/Ps have been transferred, and even the Project Director has not been assigned yet.
- The Team found that PDM (Project Design Matrix) is not sufficiently shared among the parties, and it is hindering the common understandings especially on the clear roles of each stakeholder. It was reported that implementation plan was delayed due to miss understandings among the Project members. There is a lack of joint monitoring system and decision making process within the project, and The roll and responsibilities of each C/P are yet to be clear.

5. Conclusion

As a result of the project activities, some outputs have been produced. In addition, activities to be emphasized in the latter half of the Project were clarified and shared between both Nepalese and Japanese sides through the process of project implementation, and new project management system has recently started in order to streamline the project activities and to achieve the Project Purpose. Thus, it can be said that acceleration of the Project activities towards its goal has been observed.

In addition, as sited in the five criteria, several issues were found. Therefore, revision of the Project framework including Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO) is necessary to solve these mentioned issues and to aim for more effective outputs from the Project.

It is recommended that the revised PDM and PO will be the implementation guide for the remaining period of the project and shall be the basis of the Project's final evaluation. The main point of revision emphasizes on the points mentioned above, including Public Private Partnership (PPP) for market exploration, Cascade-type training for JT/JTA, Silk Mobilizers, and farmers' groups, and monitoring and evaluation system. The revised PDM

also clarifies Objectively Verifiable Indicators as to expression, definition, description and /or quantification.

With these modifications, the Team finds that the Project Purpose will be achieved in the remaining period.

6. Recommendations

(1) Involvement of Private Sector

It is recommended that, for the sustainability of the sericulture development, involvement of the private sectors is essential, including development of Government-controlled cocoon market system. It is a role of the Government to create an affirmative environment to attract Private entrepreneurs, and to manage the sericulture sector as a whole. Establishing the Window or the One Stop Service for the private entrepreneurs who wish to purchase cocoons/zaguri silk/raw silk will be an example to attract interests from them. On the other hand, the Project can technically support this PPP by analyzing the total value chain in sericulture.

(2) Importance of Farmers Organization

Though the Project mainly focused on the technical aspect in the first half of its period, Social Development activities will be very much important in the latter half of the Project; the farmers' groups enable the Cascade-Method technical extension. Also, developed farmers groups will be able to seek on their own for the support from DADO, Banks, NGOs, etc. In this regard, establishment of Cooperatives may be considered in the future.

(3) Necessity of Action Plan by the Government

The Team found that DOIED organized a Workshop to formulate the draft on Sericulture Policy, but it is yet to be finalized, and the effort by DOIED in this regard is necessary. Moreover, the Action Plan which is thought to come after the Policy is as important. It is recommended that the Government should come up with the Action Plan, as well as the Policy, as soon as possible.

In this connection, improved monitoring and evaluation system will be necessary. These activities were not considered as sufficient, and better system for statistics and monitoring and evaluation should be designed. These activities can support the Government in the process of consideration for the Action Plan, as it will need a variety of numerical data for setting the numerical goals that are realistic and feasible.

(4) Utilization of PDM as common understanding among parties concerned

It is recommended that the revised PDM will be the tool for common understanding among the DOIED, the Project, counterparts, and extension staffs (JT/JTA). PDM should

be disseminated to each office and shared among all the stakeholders through workshop. For this, Nepalese version should be prepared for the extension staffs (JT/JTA) who hardly understand English.

(5) Budgetary Arrangement

It is essential that the Nepalese Government allocate adequate budget in order to ensure the Project achievements. The demand from seri-farmers for technical support is high, but due to the inadequate program costs including TADA, activities by DOIED/seri-stations are insufficient. In this regard, the counterpart fund of 2KR may be an alternative “short-term” source; similar kind of alternative arrangement may be sought by the government.

(6) Prompt Action for Usage of a New Disinfectant (Sanitec) instead of Formalin

Due to its harm effect to human health, the consultation study team recommended Usage of a New Disinfectant instead of Formalin. Although the 2nd Joint coordination Committee agreed its recommendation, no action for import has been taken so far. Prompt action is necessary.

(7) Establishment of a Better Model

The project intends to establish an appropriate model for quality cocoon and silk production. The project is trying to make a model within the target area, expecting further replication in other areas by the Nepalese Government. To concentrate on development of the model, the project area should be focused on the 5 VDCs (Baireni, Nalang, Salang, Kumpur, and Sankosh) where sericulture is adopted by the farmers and has the possibility to form the model.

第 1 章 中間レビューの概要

1 - 1 中間レビューの背景・目的

ネパールは就業人口の 65%が農業に従事し、国民総生産の約 40%を農産物が占める農業国である。ネパールの国土は山地が多くを占め、耕作可能地はほぼ開墾されていることから、多様な地形と気候を活かし、養蚕をはじめ、果樹、茶等の付加価値の高い換金作物の生産が求められている。ネパール政府は、暫定三ヵ年計画(2007~2010)において「貧困撲滅」に資する農業商業化推進策の一つとして養蚕振興を挙げている。

我が国は 1995 年 2 月~5 月に短期専門家を派遣し、養蚕開発の可能性について調査を行い、その後、長期専門家の派遣(1995 年 12 月~1997 年)、短期専門家(1998 年)、ミニプロジェクトの実施(1999 年 12 月~2002 年)、フォローアップ専門家の派遣(2003 年 2 月~2005 年)と、継続的な協力を行ってきた。一連の協力の結果、蚕種生産管理技術については定着するなど一定の成果が見られるが、国際競争に耐えうる優良繭の生産までには結びついてはいない。市場性のある繭を生産するためには、蚕飼育管理技術の向上、普及サービスの質の向上、繭品質管理の徹底など、さまざまな課題を抱えている。

ネパール政府はこれまでの協力を土台として、蚕種の安定供給及び普及活動の強化による繭増産を図ると共に、プライベートセクターを主体としたシルク産業の発展を推進することを目的とし、日本政府に技術協力の実施を要請した。

本案件はネパールの養蚕農家の収入向上を上位目標におき、村落レベルにおける普及員・農家等への優良繭生産技術の指導と、組織化による品質向上のための実践的取り組みを通じ、収入向上の基礎となる優良繭の生産を実証することを目標としている。

プロジェクト開始から 2 年半が経過し、進展が見られる一方で、カウンターパート機関である農業協同組合省農業局産業昆虫課の養蚕開発に係る政策が明確になっていないことなどが課題として挙げられている。かかる状況を受けて、JICA は 2008 年度に本件国内支援委員会を設置、二度の運営指導調査団を派遣して双方の今後の取り組みについて、継続的な協議を行ってきた。その結果、カウンターパート機関による養蚕振興政策の策定が約束され、また、本プロジェクトの今後の方向性については、国内支援委員会案について、先方から概ねの合意を得ている。

今回実施の中間レビュー調査では、プロジェクトが中間時点に達することから、これまでの PDM 及び活動計画に基づき、ネパール政府と合同で本プロジェクトの目標達成度や成果等を分析するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について、改めて確認し、必要に応じて基本計画の変更を行うとともに、結果を合同評価レポートに取りまとめることを目的とする。

1 - 2 プロジェクト概要

プロジェクト概要については、本調査を受けて後述のとおり変更となったが、本項においては評価に用いた過去のプロジェクト概要を示す。改訂後 PDM については、付属資料 2 を参照。

(1) 上位目標

- ・ 優良繭及びシルク生産のモデルがネパール国内で展開される。
- ・ 改善を通じて、養蚕農家及び蚕糸業関係者の収入が向上する。

(2) プロジェクト目標

養蚕農家グループと政府普及員/NGO/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルク生産活動が実証される。

(3) 成果

- 1) 優良繭生産及び繭収穫後処理に関する標準手法が確立する。
- 2) 農家及び政府普及員・NGO スタッフの繭生産技術並びに繭収穫後処理に関する能力が向上する。
- 3) 政府・NGO・民間セクター間の連携が強化される。

1 - 3 合同評価調査団の構成

日本側調査団

No.	氏名	分野	所属	期間
1	伊藤 耕三	総括	(独)国際協力機構農村開発部 水田地帯第三課長	7 June ~ 17 June
2	木内 信	養蚕振興	(独)農業生物資源研究所 昆虫科学研究領域長	7 June ~ 17 June
3	樫田 泰明	計画管理	(独)国際協力機構 ネパール事務所 所員	2 June ~ 17 June
4	土井 弘行	評価分析	フリーコンサルタント	2 June ~ 17 June

ネパール側調査団

1	Mr. Ram Krishna Shrestha	Coordinator	Senior Agricultural Officer, Monitoring and Evaluation Division, Ministry of Agriculture and Cooperatives(MOAC)
2	Dr. Haribabu Tiwari	Team Member	Senior Agricultural Economist, Agri-business Promotion and Statistics Division, MOAC
3	Ms. Sabnam Shivakoti	Team Member	Agricultural Economist, Planning Division, MOAC
4	Mr. Prakash Bista	Team Member	Agriculture Extension Officer, Planning Section, Department of Agriculture (DOA)

5	Mr. Rajendra Koirala	Team Member	Agricultural Economist, Monitoring and Evaluation Section, DOA
---	----------------------	-------------	--

1 - 4 調査日程

日時	調査内容
6月2日(火)	土井団員(評価分析)日本発
6月3日(水)	土井団員 カトマンズ到着 プロジェクトとの協議
6月4日(木)	サイト調査(サンコシ VDC、クンブール VDC、ドニベシ支場)
6月5日(金)	サイト調査(サラン VDC)
6月6日(土)	資料整理
6月7日(日)	C/P へのインタビュー ネパール側評価チームとの打ち合わせ
6月8日(月)	資料整理 伊藤団長、木内団員到着 JICA ネパール事務所との打ち合わせ
6月9日(火)	在ネパール日本国大使館表敬 第一回合同評価委員会 評価目的、手法、項目の説明 先行調査結果の共有
6月10日(水)	農業局副局長表敬 農業協同組合省次官表敬 サイト調査(コパシ養蚕試験場)
6月11日(木)	サイト調査(ナラン VDC、パイレニ VDC、ドニベシ支場)
6月12日(金)	第二回合同評価委員会 合同評価レポート案に関する協議
6月13日(土)	合同評価レポート、ミニッツ案、PDM 改訂案の作成
6月14日(日)	農業局長表敬 第三回合同評価委員会 合同評価レポート案、PDM 改訂案に関する協議、最終確認
6月15日(月)	合同調整委員会(JCC)開催 合同評価レポート、PDM 改訂、ミニッツ署名
6月16日(火)	JICA ネパール事務所報告 伊藤団長、木内団員、土井団員カトマンズ発
6月17日(水)	日本着

1 - 5 主要面談者¹

【農業協同組合省 (MOAC)】

Mr. Shankar Prasad Pandey MOAC 事務次官
Dr. Purushottam Mainali MOAC 事務次官補
Mr. Madhab Karkee MOAC 計画課エイドコーディネーションセクション長

【MOAC 農業局 (DOA)】

Mr. Fulgen Pradhan DOA 局長
Mr. Ananda Ratna Bajracharya DOA 副局長
Mr. Bishnu Prasad Aryal DOA 副局長
Mr. Badri Bishal Karmacharya DOA 植物防疫課長

【DOA 産業昆虫課 (DOIED)】

Mr. Durga Prasad Dawadi DOIED 課長補佐 (プロジェクトマネージャー)
Mr. Keshav Raj Kafle DOIED 養蚕職員
Mr. Madhu Sudan Ghimire DOIED ドニベシ支場長
Mr. Bhakta Raj Palikhe DOIED コパシ養蚕試験場長

【プロジェクト関係者】

柳川 弘明 チーフアドバイザー / 養蚕振興政策 専門家
渋谷 優子 業務調整 / 農民組織化 専門家
川口 えり子 商品開発 専門家
Mr. Raghu Shrestha プロジェクトスタッフ
Ms. Lalita Waiaba プロジェクトスタッフ

【在ネパール日本国大使館】

谷本 憲一 二等書記官

¹ 加えて、サイト調査における訪問先で、各支場スタッフ、シルクモビライザー、養蚕農家に面談している。

第2章 プロジェクトの実績

2 - 1 投入実績

2 - 1 - 1 日本側投入

(1) 専門家派遣

1) 長期専門家

当初1名の長期専門家が派遣されていたが、任期が終了し、2009年1月からは運営指導の提言に沿って、業務調整/農民組織化を担当する長期専門家の派遣に至っている。

No.	専門家氏名	指導科目	派遣期間		
			開始	終了	備考
1	清水 治	チーフアドバイザー	2006.12.1	2008.11.30	任期終了
2	渋谷 優子	業務調整/農民組織化	2009.1.9	2011.1.8	

2) 短期専門家専門家

2名の短期専門家がシャトル型で派遣されている。

No.	専門家氏名	指導科目	派遣期間		
			開始	終了	備考
1	川口 えり子	商品開発	2008.6.9	2008.7.24	2008年度 第1次派遣
2	川口 えり子	商品開発	2008.8.24	2008.10.5	2008年度 第2次派遣
3	川口 えり子	商品開発	2009.1.15	2009.2.28	2008年度 第3次派遣
4	柳川 弘明	チーフアドバイザー / 養蚕振興政策	2009.1.21	2009.3.20	2008年度 第1次派遣
5	柳川 弘明	チーフアドバイザー / 養蚕振興政策	2009.5.17	2009.7.15	2009年度 第1次派遣
6	川口 えり子	商品開発	2009.6.1	2009.7.15	2009年度 第1次派遣

(2) 機材供与

必要な資機材はほぼ計画通りに供与され、ほとんどは有効活用されている。建設された施設は次のとおり。ドニベシ支場のCRC、ナラン村の繭乾燥施設と繭倉庫、サラン村の繭乾燥施設、繭倉庫、水道敷設、洗浄水槽・消毒槽、繭乾燥施設（現有施設の修理）、コパシ養蚕試験場の蚕種生産に係る空調施設修繕の補助、ドニベシに催青室と蚕種保冷库の設置。

しかしながら、各村（村落開発委員会/VDC）に設置された繭乾燥施設の中に

は、これから稼働が計画されているものもあるため、プロジェクト計画に沿って有効活用する必要がある。資機材（2006～2009年に購入したもののリスト）は、合同評価報告書の Annex 5 を参照。

(3) 第3国研修

3名のカウンターパートがオフィサーレベルの研修としてインドを訪問している。また、6名のカウンターパートがオフィサーレベルの国外視察プログラムの一環としてラオス、タイ、インドを訪問している。しかしながら、研修の成果を生かしたプロジェクト運営のための具体的な実行計画は、研修を受けたカウンターパートによって作成されていない。また、研修参加者のうち、3名のカウンターパートは他の部署へ異動となっており、研修の効果がプロジェクトの実施に活かされていない。実施された研修のリストは合同評価報告書の Annex 10 を参照。

(4) 国内研修

1) オフィサー向け研修

オフィサー向けの研修が1回開催されている。

	研修コース名	日時/場所	参加者数
1	Human Skill Dev. Training	2009年3月8～13日 カトマンズ	全国9支場から 15名

2) 普及を担当する JT/JTA 向け研修

普及を担当する JT/JTA 向けの研修が3回開催されている。

	研修コース名	日時/場所	参加者数
1	Feeding of Late Stage Silkworm and Mounting Technology Training	2007年10月1～3日 コパシ養蚕試験場	コパシ養蚕試験場の6名
2	Seed Cocoon Production and Management Training	2008年8月11～15日 コパシ養蚕試験場	全国9支場から 12名
3	Human Skill Development Training	2009年2月8～12日 カトマンズ	全国8支場から 16名

3) 養蚕農家向け研修

養蚕農家向けの研修が6回開催されている。

No	研修コース名	日時/場所	参加者数
1	Silk Mobilizer Orientation Training	2007年8月19～21日 ドニベシ支場	6名
2	Zaguri Training (Basic Course)	2007年12月2～12日 ドニベシ支場	10名
3	Zaguri Training (Refresher Course)	2009年2月3～7日 ドニベシ支場	8名
4	Zaguri and Weaving Training (Basic Course)	2009年2月13～22日 カトマンズ	12名
5	Zaguri Training (Basic Course)	2009年3月1～9日 ドニベシ支場	10名
6	Zaguri Training (Skill-up)	2009年5月17～25日 ナラン VDC	7名

(5) ローカルコスト負担

日本側投入であるプロジェクト運営費・現地活動費として、日本政府は JICA を通じ、プロジェクトに対して 17,601,998.00 ネパールルピーを投入している（2009年3月までの実績）。プロジェクトから提供された資料は、合同評価報告書の Annex 8 を参照。

2 - 1 - 2 ネパール側投入

(1) カウンターパートの配置

13名が長期専門家及び短期専門家のカウンターパートとして配置されている。しかしながら、フルタイムカウンターパートは、実質産業昆虫課（DOIED）職員1名となっており、それ以外のカウンターパートは専門家と常時活動を行なう体制ができていないのが現状である。加えて、カウンターパートが他の部署へ異動となったケースがあること、また、プロジェクトダイレクターとなるべき DOIED 課長職が中間レビュー調査時点で空席になっているといった問題点が見出された。DOIED 側は、カウンターパートがプロジェクト活動により積極的に関わられるよう配置すべきであるのに加え、プロジェクトの効率性の観点からもカウンターパートの異動は望ましくなく、プロジェクトに留まれるような環境整備を図る必要がある。その方策の一つとしても、DOIED から各カウンターパートに対して果たすべき役割を書面で明らかにする必要がある。プロジェクトから提供されたカウンターパートのリストは、合同評価報告書の Annex 6 を参照。

普及活動を行う役割を担う JT/JTA を含め、関係者からの聞き取り結果によれば、TADA（普及活動を行う際に支給される交通費日当）が充分でないため、計画通りに養蚕技術の普及活動を行えていないといった回答が得られている。従って、ネパール側は JT/JTA が計画通りに養蚕技術普及活動を行えるように、十分な予算措置（TADA の確保等）を行うことが望まれる。

(2) 執務室や施設の提供

プロジェクト実施に必要な土地、施設、光熱費はネパール側によって提供されている。また、専門家の執務室は提供されている。

(3) ローカルコスト負担

プロジェクトから提供された資料（ネパール側の予算表）によれば、DOIED、コパシ養蚕試験場、ドニベシ支場の2006年7月16日から2009年7月15日までの予算（staff budget, program budget, capital budgetの総額）は、39,002,000.00ネパールルピーとなっている。しかしながら、実際にプロジェクトに対して費やされた実績額は不明であり、今後のプロジェクト運営体制の改善が望まれる。プロジェクトから提供された資料は、合同評価報告書の Annex 7 を参照。

2 - 2 活動の実施状況と成果の達成度

2 - 2 - 1 活動の実施状況

PDM によれば、成果 1（優良繭生産及び繭品質評価、収穫後処理に関する標準手法が確立する。）を達成させるために 6 つの活動が、成果 2（農家及び政府普及員・NGO スタッフの繭生産技術並びに繭品質評価に関する能力が向上する。）を達成させるために 5 つの活動が、成果 3（政府、NGO、民間セクター間の連携が強化される。）を達成させるために 2 つの活動が計画されている。それぞれの活動の実施状況は下記のとおりである。

(1) 成果 1 を達成するための【活動 1】の実施状況

1-1 適正な桑園の管理のためのアドバイスを行う
<ul style="list-style-type: none">・ダディン郡内各地の桑栽培の状況を調査し、桑樹栽培の地域特性を調査した。・郡内全ての養蚕農家に剪定鋏を供与した。・桑苗の実態調査と販売時の品質保持の指摘を行った。・畔・土手で桑栽培、非耕作地での桑立て通し栽培を推奨した。・桑苗代金の一部補助と桑苗搬送を支援した。
1-2 蚕飼育技術及び蚕桑病虫害防除技術の改善を行う
<ul style="list-style-type: none">・主要な養蚕地のサラン村は山頂にあり、水の便が非常に悪く、蚕室蚕具の洗浄に水が使えない。そこで、約 4 Km 離れた湧き水源から 25mmφ のポリエチレンパイプを敷設し導水した。また、3ヶ所に蚕具類の洗浄消毒槽を建設し、使用法を指導した。・飼育時に現地農家に出向いて適正飼育法をアドバイスした。・各 CRC に除沙用の網を貸与した。・蚕具の密閉ホルマリン消毒のために、各養蚕農家にビニールシートを貸与し、消毒法を指導した。・日本の改良藁蔭の製作法をシルクモビライザーに指導し、農家への技術伝達を行った。・ドニベシ養蚕支場に CRC を建設した。・移動式簡易蚕室をモデル蚕室としてドニベシ養蚕支場に展示し、研修に使用した。・各農家配布用の飼育標準表を作成した。
1-3 蚕種孵化率の向上のための技術改善を行う
<ul style="list-style-type: none">・コパシ養蚕試験場の各種空調設備を点検し、大規模に修理した。・ドニベシ支場に催青室と一時催青卵・蟻蚕保冷库を設置し、蟻蚕配布の移動距離を少なくした。・コパシ養蚕試験場で各養蚕支場の種繭生産技術向上のために、JT、JTA 向けの研修を行った。
1-4 繭出荷時におけるポストハーベスト活動（乾燥、毛羽取り、選繭）を実践するとともに、公平公正な繭品質評価を行う
<ul style="list-style-type: none">・ネパールの繭品質の現状調査を行った。・蚕期別の繭品質の調査を行った。・ナラン村、サラン村に繭乾燥施設と繭倉庫を建設した。・コパシ養蚕試験場に繭乾燥施設を建設した。
1-5 農家・普及員が主導で参加型マーケット調査を行う

<ul style="list-style-type: none"> ・国内の治安状況と交通事情が悪かったため、実施されていない。
1-6 オリジナルシルクアイテムの開発と試作品の販売促進活動を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・前プロジェクトで指導したニットグループに依頼して座繰り生糸を用いた各種ニット試作品を製作した。 ・紬糸を用いた絹カーペットの試作をカーペット業者と相談して行った。 ・紬糸によるスーツの試作を手織り業者と相談して行った。 ・シルクニット商品をカトマンズ市内のレストランで展示販売を行っている。 ・養蚕農家による自作絹糸による絹布製作の支援を行った。 ・サンプル絹糸を持参して機織り企業訪問を行った。 ・座繰り機を農家に供与した。 ・フェアトレード団体と座繰り生糸を使った絹布試織を開始した。

(2) 成果2を達成するための【活動2】の実施状況

2-1 NGOが養蚕農家を組織化する
<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷専門家（業務調整/農民組織化）の赴任に伴い、NGOによる活動が開始されたところである。
2-2 政府普及員にファシリテーション技能研修及び技術研修を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の蚕糸情勢を認識し、自国の蚕糸行政に反映させることを目的として（特に、民間企業がネパール国蚕糸業に参画出来る環境を作るため）、政府職員を伴いラオス、タイ、インドの蚕糸業の視察を実施した。 ・インドにおける第3国研修にカウンターパート3名を参加させた ・JT、JTAに対してはOJTを中心に研修を実施。 ・2008年8月、コパシ養蚕試験場において、各支場JT、JTA向けの種繭生産技術研修を政府側と共催した。
2-3 NGOスタッフに対し、技術研修を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・実施には至っていない。
2-4 養蚕農家グループに技術研修を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・飼育密度の重要性を伝えると共に、上蔭時の取り扱いを指導した。また、日本式改良藁蔭の作り方を指導した。稚蚕飼育に立ち会い、技術指導を行った。
2-5 中核養蚕農家に対して、TOT（Training of Trainers）を行う
<ul style="list-style-type: none"> ・農家グループの代表に各齢期の飼育取り扱いの要点を指導した。 ・農家グループの代表に座繰り研修を10日間行った。 ・専門家が現地に出掛け、シルクモビライザーと一緒に農家を集めて改良蔭製作研修を行った（随時）。

(3) 成果3を達成するための【活動3】の実施状況

3-1 プロジェクト事務所及びダディン郡フィールド事務所で、それぞれ定期的にミーティングを行う。
<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト事務所において、毎月第1金曜日に定例会議を開催。 ・ドニベシ支場においてRCCを1回開催した。
3-2 事業モニタリング手法を開発する。
<ul style="list-style-type: none"> ・繭期のインスペクションシートを作成した。

2 - 2 - 2 成果の達成度

プロジェクトの活動の結果、一定の成果は発現してきている。3 つの成果について、中間評価時点での達成状況はとおりである。

(1) 成果 1 (優良繭生産及び繭品質評価、収穫後処理に関する標準手法が確立する。)

指標	達成状況
1. 優良繭生産のための技術が農家に受け入れられる (70%)。	推定 70% : 農家は研修や普及員の指導により、飼育施設改善、飼育技術向上を理解している。
2. 技術ガイドラインが作成され、マニュアル化される (5 種/5 年間)。	1 種 : 飼育標準表チャートが作成され、農家に配布された。
3. コミュニティレベルでの共同稚蚕飼育施設が適正に活用される (4 ヶ所の CRC が利用される)。	3 ヶ所の CRC が利用され、養蚕農家の利用率は 100% である。
4. 政府普及員の品質チェックを受けた後に繭が取引される (繭の品質のチェック後に価格決定され、繭が買い上げられる)。	チェックシステムの実行率は 100% : 現在の繭取引は政府普及員による検査を経て買い上げられている。
5. 農家・普及員のシルクマーケットに対する理解が深まる (農家・普及員がシルクマーケットに関して 80% 程度理解する)。	現在の推定理解内容は 5%。
6. オリジナルシルク作製技術が普及・発展する (対象地域でオリジナルシルク製品の製作が開始される)。	ナラン村とサラン村で座繰り糸の生産が開始された。

(2) 成果 2 (農家及び政府普及員・NGO スタッフの繭生産技術並びに繭品質評価に関する能力が向上する。)

指標	達成状況
1. 養蚕農家グループの組織率 (各村 1 グループ以上、全農家が参加)。	ナラン村、サラン村、クンプール村、バイラニ村、ブミスタン村でグループが組織されている。 一方、サンコシ村、ムラリバンジャン村では、グループ化は進んでいない。
2. 政府普及員の技術定着度及びファシリテーション能力向上 (研修回数 3 回/年、適宜 OJT 実施)。	普及員の技術定着度は今後テストを実施して判断する予定。OJT については、5 回/年以上実施されている。
3. 農家研修の実施回数及び技術定着度 (農家研修 5 回以上/年)。	農家研修は 2 年間で 8 回開催 (ドニベシ支場 6 回、コパシ養蚕試験場 2 回)。
4. 地域の技術リソースとなる中核養蚕農家の数 (各グループ 1 戸以上)。	シルクモビライザーが 6 名配置されている。

(3) 成果3 (政府、NGO、民間セクター間の連携が強化される。)

指標	達成状況
1. 養蚕農家への支援サービスにおいて、NGOと政府普及員の役割が整理される。	NGO(農民組織化)、普及員(技術指導)の役割が整理され、NGOが農民の組織化に向け調査を開始している。
2. JCCとRCCの開催。	JCCは5回開催されているが、RCCは1回のみ。
3. 養蚕農家から民間業者が繭を直接購入した実績数(回数3回以上、購入量乾繭250kg以上)。	150kg/年の乾燥繭を民間業者が購入：民間が農家から直接繭を購入するシステムは無いが、政府の許可を得て農家から購入しているケースがある。

2 - 3 実施プロセス

2 - 3 - 1 ネパール国に対する政策提言(養蚕基本戦略の策定)

運営指導調査の結果、プロジェクト前半部分においては、カウンターパート側の主体性の欠如と、それに伴って日本側がカウンターパートを十分に巻き込まずに技術指導に焦点を当ててきたこと等が課題として挙げられ、養蚕振興に必要な政策・施策への協力が重要との提言がなされた。

このため、プロジェクトは新チーフアドバイザーの主導のもと、2月11日、2月17日、2月22日にDOIEDのMr.Karmacharya、Mr.Jagadish、Mr.Kafle、Mr.Palikhe、Mr.Ghimireと養蚕基本戦略の策定に向けて会議を開催している。基本戦略作成に当たっての主要論点は、ネパール国における養蚕業の発展、さらにはシルク・インダストリーへの展開を明確にすることであり、これら一連の活動が継続されることによって、プロジェクトのネパール側政策内における位置付けがより明確になり、また先方政府の主体性が養われることが期待される。

2 - 3 - 2 モニタリングの実施

現地調査の結果、ドネベシ支場では、プロジェクトの活動(VDCにおける養蚕技術普及、ドネベシ支場における研修等)に対し、簡易な記録(問題点の把握、課題の抽出等)をとっていることがわかった。但し、記録はネパール語で書かれており、日本側の専門家と情報の共有ができない等の問題があるとともに、情報についても十分に活かされていない。今後プロジェクトにおいては、適切なモニタリング・統計のシステム構築に協力していく計画である。

2 - 3 - 3 ミーティング及びワークショップの開催

成果3に掲げられている、“政府、NGO、民間セクター間の連携が強化される”を達成するため、6回のミーティング及びワークショップが開催されている。その概要は下表のとおりである。

No.	名称	開催日/開催場所	参加者
1	Regional Coordination Meeting/Workshop	2008年9月22日 ドニベシ支場	Chief Advisor, Project Staffs / Officers, JT& JTA's of Dhunibesi / PD of DOIED / Sericulture Farmers / DADO Officer, Dhading
2	National Technical Workshop on Sericulture	2008年11月16～17日 コパシ養蚕試験場	Chief Advisor, Project Staffs / PD & Officers of DOIED / Officers of SDO / Chief, Officers and Staffs Of Khopasi
3	Interaction Meeting (Gov't, PS, PQCPPP)	2009年2月7日 ドニベシ支場	Chief Advisor, Short Term Expert (Product Development), Project Coordinator of PQCPPP / Officers & JT, JTA of Dhunibesi / Everest Art Paper (P S) / Program Director & Officer of DOIED
4	Interaction Meeting (Gov't, NGO, Silk Mobilizer, PQCPPP)	2009年3月2日 ドニベシ支場	PM, Officer, PC / Chief, Officer, JT, JTA of Dhunibesi/ NGO' Staff / Silk Mobilizers
5	Interaction Meeting (Gov't, NGO, Silk Mobilizer, PQCPPP)	2009年4月22日 ドニベシ支場	PD, PC / Officers Of SDO, Chief / Officers / JT, JTA Of Dhunibesi / NGO Staffs
6	Sericulture Policy Work Shop	2009年5月24～25日 カトマンズ	Chief Advisor, PC / MOAC, DOA, DoIED / NPC / Sericulture Officers / Sericulture Farmers / Private Entrepreneurs, Consultancy

2 - 3 - 4 合同調整委員会の開催

プロジェクトが開始されてから5回の合同調整委員会が開催されている。その概要は下表のとおりである。

JCC	開催日	チェアパーソン	主な議題
1 st	2007年4月3日	Mr. Deep Bahadur Swar	2007年の活動計画（PO）の検討。
2 nd	2008年5月9日	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	活動計画（PO）の合意。 第一回運営指導調査団から指摘された事項についての対応策の検討及び意見交換。
3 rd	2008年8月12日	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	プロジェクト運営管理を担う長期の業務調整員の派遣と、それに伴うR/Dの修正について。
4 th	2008年11月6日	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	第二回運営指導調査団から合同調整委員会で指摘された事項についての対応策の検討及び意見交換。 中間評価調査に向けての対応事項の協議。
5 th	2009年5月27日	Mr. Fulgen Pradhan	PDMの指標改訂案の承認。

第3章 評価結果

3 - 1 評価5項目による分析

3 - 1 - 1 妥当性

本プロジェクトは、以下の点から妥当性は高い。

必要性

養蚕振興は、貧困を削減するために重要な手段である。ネパール政府は、養蚕農家へ桑苗、蚕種、消毒液などを供給している。その結果、基本的な養蚕技術は、ある程度普及されつつある。

しかし、優良繭生産技術は、養蚕農家の間で充分実践されているとは言えず、生産性は未だ低いのが現状である。さらに、ネパールではネパール産シルク関連民間企業及びシルクマーケット自体が十分に発展しておらず、養蚕業が市場メカニズムの原理に適合することができていないのが現状である。本プロジェクトは、これらの現状の問題点を解決することを目指しており、プロジェクトの実施は妥当である。

優先度

ネパール政府の「第10次5カ年計画（10th Five Year Plan (2002～2007)）」、「暫定3カ年計画（Three Year Interim Plan (2007～2009)）」では、貧困緩和を優先課題と位置づけ、養蚕業振興は、貧困緩和に資するための農業商業化振興のための産業の一つであるとされている。加えて、「国家農業政策（National Agriculture Policy in 2004）」では、世界的な農業自由化の動きを受け、商業的で競争力のある農業を推進する方針を提示している。

日本の農業・農村開発プログラムは、優先課題である「地方の貧困削減」の下、「食糧安全保障」、「農業収入機会の向上」、「行政・農民組織強化」を3つの柱としている。本プロジェクトは、「農業収入機会の向上」に資するものであり、日本の対ネパール経済協力方針と整合している。

日本の技術の優位性

日本は、ネパールに隣接するインドにおいて、養蚕振興分野の技術協力を実施した経験を有する。また、JICAはこれまでネパール国において、ミニプロジェクト方式の技術協力である「養蚕振興計画」及び「フォローアップ」を実施してきた。これらの結果、新しい蚕種の導入、蚕卵生産（grainage）、桑苗の配布システムの確立等、ネパール国の養蚕振興に大きく貢献してきた。本プロジェクトは、過去の経験から明らかにされた問題点を解決するために必要な対策をとることとしており、日本の技術を活用する優位性は高い。

対象地域のニーズ

本プロジェクトでは、Dhading郡(7VDC/Baireni, Salang, Nalang, Kumpur, Sankosh、

Bhumisthan、Murali Bhanjyang)が対象地域に選定されている。本プロジェクトの開始時、Dhading郡は過去のJICAの技術協力や他ドナー機関の協力の蓄積が活かせることから、適切であると判断された。なお、当時の不安定な治安状況からも、養蚕振興の可能性がある地域の中でも比較的治安が安定しており、カトマンズに近いDhading郡は、対象地域として妥当であった。

3 - 1 - 2 有効性

本中間評価調査は、プロジェクトの中間段階の評価であるため、合同評価チームは、プロジェクト目標の達成状況を見極めることはできないものの、成果は部分的に達成されつつある一方で、有効性について、現時点で下記事項が指摘できる。

PDMにおいて、プロジェクト目標とプロジェクト目標を達成させるための成果に関するロジックが明確ではない。したがって、3つの成果をより有効な産物とするために、それぞれの成果の内容を明確にするなど、PDMの改訂を考えるべきである。

PDMにおいて、プロジェクト目標達成のための外部条件として、DOIED側が「公平公正な繭取引のための仕組みを導入する」及び「オリジナルシルク製品生産に関する民間資本投資を推進する環境を整える」ことが掲げられている。しかしながら、繭の品質評価に関する標準手法が設定されたのにもかかわらず、DOIED側による改訂作業は行われていない状況にある。従って、DOIEDは国家養蚕振興政策案(draft National Sericulture Development Policy)に基づき、これらの外部条件が満たされるよう取り組むべきである。

改訂後のプロジェクト目標である、「養蚕農家グループと政府普及員/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルク生産モデルが実証される」は、PDM改訂を含む合同評価チームの提言が適切にプロジェクトに反映されれば、プロジェクト終了時には達成されることが見込まれる。

3 - 1 - 3 効率性

(1) 日本側の投入

1) 専門家の派遣

長期専門家、短期専門家とも、ほぼ計画通りに派遣されている。また、運営指導の提言に沿って業務調整/農民組織化を担当する長期専門家の配置等の追加的措置が取られている。専門家派遣の総計M/Mは、2009年7月15日時点で、48.7M/Mになる。

2) 供与機材・施設整備

必要な資機材はほぼ計画通りに供与され、ほとんどは有効活用されている。しかしながら、VDCに設置された繭乾燥施設の中には、これから稼動が計画されているものも残っているため、プロジェクト計画に従って有効活用する必要がある。

3) 第3国研修

3名のカウンターパートがオフィサーレベルの研修としてインドを訪問している。また、6名のカウンターパートがオフィサーレベルの国外視察プログラムの一環としてラオス、タイ、インドを訪問している。しかしながら、研修の成果を活かしたプロジェクト運営のための具体的な実行計画は、研修を受けたカウンターパートによって作成されていない。また、研修参加者のうち、3名のカウンターパートは他の部署へ異動となっており、研修の効果がプロジェクトの実施に生かされていない。

(2) ネパール側の投入

1) カウンターパート及び要員の配置

13名が長期専門家及び短期専門家のカウンターパートとして配置されている。しかしながら、フルタイムカウンターパートは、実質産業昆虫課(DOIED)職員1名となっており、それ以外のカウンターパートは専門家と常時活動を行なう体制ができていないのが現状である。加えて、カウンターパートが他の部署へ異動となったケースがあること、また、プロジェクトダイレクターとなるべきDOIED課長職が中間評価調査時点で空席になっているといった問題点が見出された。従って、DOIED側は、カウンターパートがプロジェクト活動により積極的に関わられるよう配属すべきであるのに加え、プロジェクトの効率性の観点からも、カウンターパートの異動は望ましくなく、プロジェクトに留まれるような環境整備を図る必要がある。その方策の一つとしても、DOIEDから各カウンターパートに対して、果たすべき役割を書面で明らかにする必要がある。プロジェクトから提供されたカウンターパートのリストは、合同評価報告書のAnnex 6参照。

普及活動を行う役割を担うJT/JTAを含め、関係者からの聞き取り結果によれば、TADA(普及活動を行う際に支給される交通費日当)が充分でないため、計画通りに養蚕技術の普及活動を行えていないといった回答が得られている。従って、ネパール側はJT/JTAが計画通りに養蚕技術普及活動を行えるように、十分な予算措置(TADAの確保等)を行うことが望まれる。

2) 土地、建物及び施設の提供

プロジェクト実施に必要な土地、施設、機材、光熱水費等はネパール側によって供給されている。また、専門家の執務室は提供されている。

(3) 阻害要因

合同評価チームは、PDMがプロジェクト関係者間で十分に共有されていないことが、プロジェクトの円滑な活動を妨げている原因の一つであると結論づけた。現地調査期間に訪問したドニベシ支場、コパシ養蚕試験場をはじめ、DOIED、プロジェクト事務所にはPDMが掲示されていなかった。また、普及活動で重要な役割を担うJT/JTAは、英語が一般的でなく、英文で記入されたPDMの内容が理解できないことがわかった。従って、PDMに沿って、プロジェクト関係者が各自の役

割を認識すると共に、関係者全体でプロジェクト目標の達成を目指すためには、PDMを関連事務所に掲示すること、また、PDMの内容が全ての関係者間で共有されるように、ネパール語に翻訳することも望まれる。

3 - 1 - 4 インパクト

プロジェクトのインパクトは、終了時評価調査及び事後評価調査の段階で評価されるため、中間評価調査では見極めることはできないが、現時点では本プロジェクトの実施によって下記のインパクトが見込まれる。

本プロジェクトの実施によって、官民連携が開始される。合同評価チームは、現地調査を通じ、繭生産から利益を得ている農家が出てきていること、民間業者がプロジェクトで実施した座繰り研修を受けた女性を雇用する可能性があることを見い出すことができた。養蚕は、単に収入源となるだけでなく、蚕糸業に係る関係者の雇用促進、特に農村女性の就業機会を提供することが見込まれる。

本プロジェクト実施期間の後半の働きかけによって、繭取引のためのシステムが整備されることが見込まれる。

3 - 1 - 5 自立発展性

(1) 政策制度面

JICAは、ネパール国の養蚕振興政策に助言することを目的として、新しいチームアドバイザーの派遣に至っている。これまでのところ、ネパール政府は、国家養蚕振興政策案の策定に至っているものの、未だに草案段階にとどまっているのが現状である。養蚕振興政策なくしては、養蚕業の持続発展性は保証されない。

また、養蚕振興政策に基づき、政策に掲げられている事項を達成するための実践的かつ実現可能なアクションプランの作成が望まれる。

(2) 財政面

ネパール政府は、繭生産からマーケティングの各段階まで直接的に関与している。しかし、繭の買い上げを含めた補助金制度に頼っている現行の政府主導のシステムでは、ネパールの養蚕業は持続が困難なことが想定される。従って、産業としての養蚕業を持続可能なものとしていくために、養蚕農家及び養蚕から利益を得られる民間企業の巻き込みを推進していくべきであり、そのための制度整備が必要である。

(3) 技術面

過去の協力によって、養蚕技術の実証については一定程度の成果が出ているものの、養蚕農家に対する技術普及を担当するJT/JTA並びにシルクモビライザーを含めた養蚕農家の技術力には、未だに改善の余地がある。技術普及のため、技術マニュアルの配布とカスケード方式技術移転システムの構築が必要である。

3 - 2 結論

プロジェクト開始から2年半が経過し、一定の成果が発現していることが確認された。また、今後特に注力すべき課題についても明確になり、日本側・ネパール側での共有がなされてきている。加えて、プロジェクトの活動を加速させ、プロジェクト目標を達成させるため、新しいプロジェクト管理体制がスタートした。このことから、プロジェクト目標達成のための取り組みが本格化したと言える。

しかしながら、5項目評価で述べたように、いくつかの課題が見出されている。PDMとPOを含むプロジェクトの枠組みを見直すことによって、より効果的に成果の発現をめざす必要がある。

新PDMにおいては、国内支援委員会にて合意されている今後の方向性に従って、官民連携、カスケード方式研修システムの構築、モニタリング評価システムの構築(加えて、日本側の大目標として、これら活動を通じた政策提言)に焦点を絞ることが主な点として挙げられる。これらの改訂を行うことで、プロジェクト目標は達成されると期待できる。

3 - 3 PDMの改訂

改訂PDMとPOは、プロジェクト期間の後半2年半の道標とすること、及び終了時評価調査を行う際の指標となるべく、活動の再整理と指標の明確化・定量化を図った。主な変更点は次のとおりとなる。

プロジェクト目標：

養蚕農家グループと政府普及員/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルクの生産モデルが実証される。

旧PDMのプロジェクト目標に記載されていたNGOは、あくまで役務提供及びファシリテーション能力の普及員への移転のプレイヤーであり、技術移転対象ではないため、新プロジェクト目標中においては「NGO」の文言は削除する。また、モデル構築をプロジェクト目標として明確にするため、「モデル」の文言を明記した。

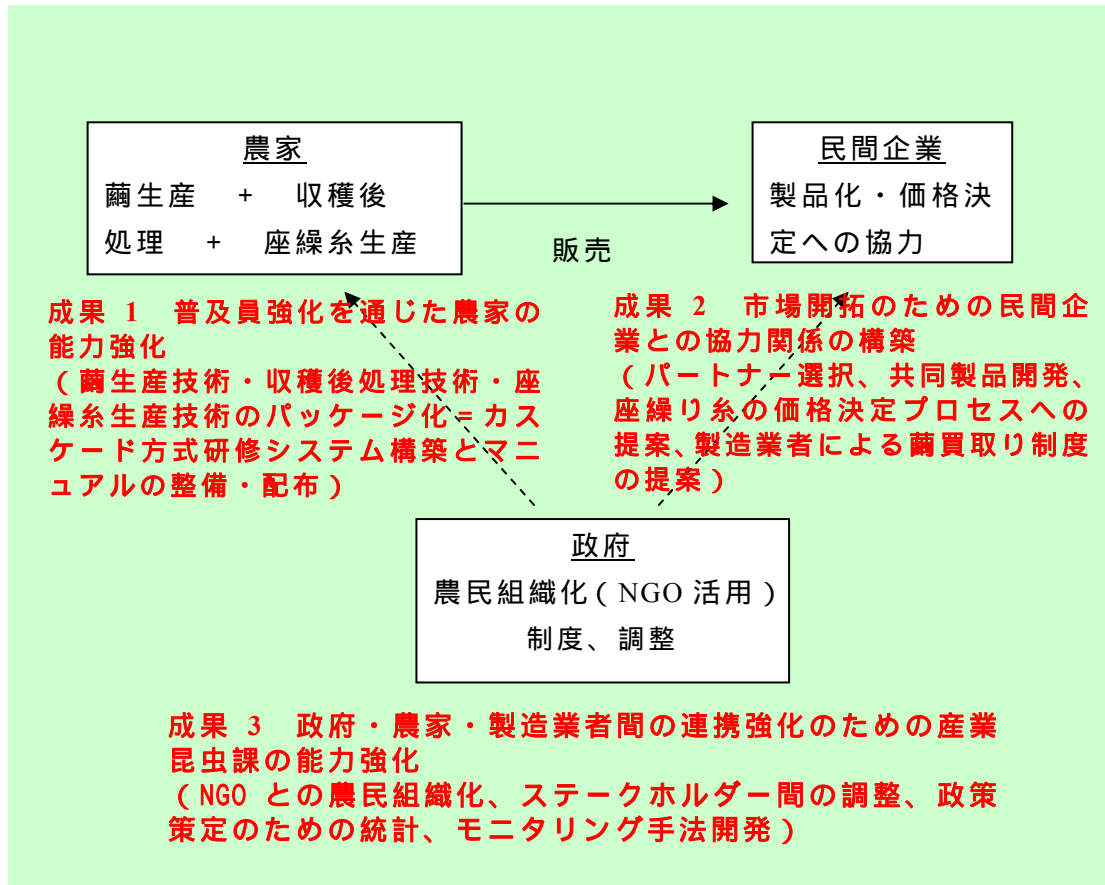
各成果については、各活動の役割を明確化するため、次のとおり再整理する。

- ・成果：普及員の能力強化を通じて、養蚕農家グループの能力が強化される。
- ・成果：市場開拓のための政府、民間企業、農家グループ間の協力関係が構築される。
- ・成果：政府、農民、民間企業間の連携のための産業昆虫課の能力が強化される。

既に開始している技術専門家を中心とした技術面での協力、商品開発専門家を中心とした農家・政府・民間企業の関係構築、NGOを軸とした社会開発活動を軸として成果を整理する。については、主に普及体制の構築に的を絞り、については、主に民間企業の誘致・能力開発を目指す。同時に政府の制度への提言・提案を行う

モデルとして活用することを想定する。 においては、産業昆虫課が、 を自立発展的に実行していくための能力開発を目標とし、NGO による社会開発活動のフィードバック、モニタリングや統計システムの整備、また農民、民間企業の調整会議等への協力を行っていく。

新 PDM の概念図は次のとおりとなる。



新 PDM 概念図

また、プロジェクト対象地域については、旧 PDM においては 7VDCs であったが、上述のとおりプロジェクト目標をモデル構築と明確にし、それに注力するため、現在すでに活動が比較的活発である 5VDCs (バイレニ、サラン、ナラン、クンプル、サンコシ) においてモデル構築を目指すこととする。但し、プミスタン、ムラリバンジャンにおいてもドニベシ支場管轄 VDC であり、養蚕に関心を持っていることから、プロジェクト活動のうち集団研修等については引き続き協力を行っていく。

第4章 提言

4 - 1 提言

(1) 民間企業の誘致

政府はこれまで繭生産から生糸生産までを担ってきたが、養蚕が産業として持続するためには、農家や民間企業の参入が必要であり、そのためには政府による民間参入のための環境整備と蚕糸業全体の行政管理が必要である。プロジェクトにおいては、バリューチェーン調査等による情報分析等の観点から協力を行うが、政府においても、繭/生糸販売窓口を産業昆虫課に設置するといった積極的な活動が望まれる。

(2) 農民組織化の重要性

プロジェクト前半においては技術面の改善に注力してきたが、今後は農民組織化をはじめとする社会開発的活動により重点を置くことが求められる。農民組織は、カスケード方式の研修の受け皿となるだけでなく、組織形成自体が DADO、銀行、NGO 等に支援要請を行うといった、農民の能力向上に資するため、必要に応じて農民組織の協同組合化についても、検討を行うべきである。

(3) 先方政府による養蚕アクションプランの策定

産業昆虫課は、政策策定のためのワークショップを開催し、養蚕振興政策案を作成しているが、その施行と同時進行で、具体的なアクションプランの策定が望まれる。プロジェクトにおいては、統計やモニタリング評価方法の改善を行い、アクションプラン策定に必要な統計情報等の整備を行う形で協力を行う。

(4) PDM の共有

過去、関係者間におけるプロジェクト基本計画の共有が不十分であったため、各自が役割を十分に理解しておらず、円滑な活動の妨げになった経緯がある。新 PDM についてはネパール語訳も行い、関係者全員で十分に共有すべきである。

(5) 予算措置

プロジェクト活動に係る先方負担分のローカルコストが十分でなく、対象地域の一部への普及活動が行えないといった事例が報告されており、十分な予算措置が望まれる。なお、先方政府からは、プロジェクト目標の達成の阻害要因が予算不足であるなら、短期的な特別予算（場合によっては、2KR 見返り資金も検討対象となる）の措置も検討したいとの声がある。

(6) ホルマリン代替消毒剤の導入

過去の運営指導において提言され、第二回 JCC で合意されていたホルマリン代替消毒剤の導入については、試行的な活動は行われているものの、具体的な輸入手

段等についての検討がなされていない。迅速な対応が必要である。

(7) 養蚕振興モデルの構築

本プロジェクトは、対象地域において繭生産・生糸生産のモデルを構築することを目標とし、その後、先方政府の自助努力によって他の地域への展開を想定している。プロジェクトの残り期間においては、このコンセプトをより明確に認識し、モデル構築に専念することとし、対象地域を現行の 7VDC から、養蚕が浸透しておりモデルとなる可能性を十分に有する 5VDC に絞ることとする。

付 属 資 料

- 1 . ミニッツ・合同評価報告書
- 2 . 改訂 PDM (和文)
- 3 . 日本語評価グリッド
- 4 . 質問票回答

**MINUTES OF MEETINGS BETWEEN
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
DEPARTMENT OF AGRICULTURE
MINISTRY OF AGRICULTURE AND COOPERATIVES OF
THE GOVERNMENT OF NEPAL
ON
THE SIXTH JOINT COORDINATION COMMITTEE MEETING
FOR
THE MID-TERM EVALUATION OF
“PROMOTION OF QUALITY COCOON PRODUCTION AND PROCESSING PROJECT”**

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) organized the Mid-term Evaluation Team (hereinafter referred to as “Japanese Team”), headed by Mr. Kozo ITO, in Nepal from June 3rd to June 16th, 2009, for the purpose of conducting the Joint Evaluation for the Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project (hereinafter referred to as “the Project”).

The Joint Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”), which consists of members from the Government of Nepal together with Japanese Team, was organized for the purpose of conducting this evaluation.

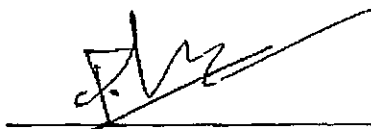
After intensive study and analysis of the activities and achievements of the Project, the Team prepared the Joint Mid-term Evaluation Report (hereinafter referred to as “the Report”) attached as Appendix I, and presented it to the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as “JCC”), held on 15th June, 2009.

As a result of the JCC, both parties have reached common understandings and agreed to take necessary measures for the matters referred to the documents attached hereto.

Kathmandu, 15th June, 2009



Mr. Yoshio FUKUDA
Senior Representative
Nepal Office,
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mr. Fulgen Pradhan
Director General
Department of Agriculture,
Ministry of Agriculture and Cooperatives
Nepal

ATTACHED DOCUMENT

1. Common Understandings on the further measures to be Taken by Both Sides

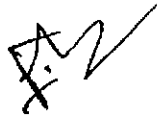
The Mid-term Evaluation Report was developed as a result of the Joint Evaluation activities as per attached in Appendix I. The Joint Coordination Committee (JCC) confirmed the Report, and both Nepalese and Japanese sides agreed to follow the recommendations from the Report and take necessary measures accordingly.

2. Revision of the Project Framework, including PDM and PO

During the Joint Evaluation, the Project Framework including the Project Design Matrix(PDM) and Plan of Operation(PO) was discussed among the Project personnel and the JCC, and necessary revisions were made as shown in the Appendix II. The JCC regarded the PDM and PO in the Appendix II as official, and from now on, the Project activities will be implemented according to them.

Appendix I : Revised PDM and PO

Appendix II: Joint Mid-term Evaluation Report



Project Design Matrix "Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project"

Target Area : Dhading District, 5VDC/ Bairni, Salang, Nalang, Kumpur, Sankosh (Bhumisthan, Murali Bhanjyang)
 Duration : From Dec, 2006 / To Nov, 2011

Target Group 1) Staff of Directorate of Industrial Entomology Development
 2) Self-Farmers in the Targeted Area

As of 15th June, 2009

Narrative Summary (Overall Goal)	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p>The model for quality cocoon and silk production are replicated to other parts of Nepal.</p> <p>The income of self-farmers and workers around self-farmers is increased through the improvement.</p> <p>The quality cocoon and silk production model is verified in the target area through capacity building and strengthening of the linkage among self-farmers groups, Government technicians, Private entrepreneurs and other stakeholders.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 case where the model is replicated Introduction of trading between farmers groups and Private entrepreneurs based on fair grading system Increase in income of self-farmers(50%) and zaguri manufacturers(20%) from cocoon production in the target area Increase in quality cocoon production (normal cocoon ratio 80%, shal ratio 20%, hatching percentage 50%, yield per box 20kg) Production of original silk products by private entrepreneurs (products by 3entrepreneurs) 	<ul style="list-style-type: none"> Annual report and budget of DOIED Sericulture statistics and sample survey Result from Monitoring and Grading by GoN Result from Monitoring and interview survey 	<ul style="list-style-type: none"> Government's Policy on Sericulture Promotion continues. Government's Policy on Sericulture Promotion continues. Governmental staffs and Private entrepreneurs concerned to Project Implementation continue the support to Self-farmers. Silk price doesn't have a great fall. The Government organizes cocoon inspection system for trading based on a genuine quality. The Government creates the environment for Private entrepreneurs to invest on original silk products. DOIED accepts proposals from the Project and take necessary measures.
<p>1. The technical capacity among farmers groups are strengthened through capacity development of Government technicians.</p> <p>2. The cooperation among Government, Private entrepreneurs, and self-farmers groups for market exploration is established.</p> <p>3. The capacity of DOIED to strengthen linkage among Governmental Agencies, farmers and Private entrepreneurs is strengthened.</p>	<ul style="list-style-type: none"> Distribution of 5 technical manuals The retention (20% increase in monitoring score) of technique among self-farmers The retention (60% increase on test score in trainings) of technique and feedback skills among Government technicians Introduction of fair grading system by Government More than 3 Private entrepreneurs involved in zaguri product development Increase in linkage among Government, Private entrepreneurs and self-farmers group (more than 4 times of meetings/activities in the final year) Improvement in performance of self-farmers groups Involvement of Government in activities of farmers' groups and Private entrepreneurs (12 visits) to farmers' groups, 3 visits to private sector Introduction of new monitoring system and statistics 	<ul style="list-style-type: none"> Record of Project activities Result from Monitoring and interview survey Result from Monitoring and interview survey Record of Project activities Record of Project activities and interview survey Record of Project activities and interview survey Spokenweb tool self-evaluation Result from Monitoring and interview survey Record of Project activities 	<ul style="list-style-type: none"> The Nepalese counterparts assigned for this Project continue to work for the Project. The Private entrepreneurs are interested and affirmative in the Silk Industry.
<p>1) To standardize technology and methodology for farmers for production of cocoons, post-harvesting, and Zaguri silk production and compile as manuals</p> <p>1-2 To conduct trainings to Government technicians, silk mobilizers and farmers groups in Coccoon Method as OJT</p> <p>1) Activity 2)</p> <p>2-1 To propose distribution system suitable for current situation of market and Private entrepreneurs based on value chain survey</p> <p>2-2 To propose cocoon inspection system to grade a cocoon equally by its genuine quality</p> <p>2-3 To design the method for intervention of Private entrepreneurs and support DOIED to introduce direct procurement of cocoon by Private entrepreneurs as a trial</p> <p>2-4 To provide support for Private entrepreneurs producing product using Zaguri silk</p> <p>1) Activity 3)</p> <p>3-1 To develop institutional capacity among Government technicians through organizing farmers</p> <p>3-2 To hold periodical meetings (triangular, RCC, JCC) for the coordination and problem solving among farmers, Government, and private entrepreneurs</p> <p>3-3 To develop appropriate monitoring system and statistics</p>	<p>(Input from Japanese side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Dispatch of Experts <p>Long Term: Two Persons (Chief Advisor/Sericulture Promotion Policy, Coordinator/Farmers Organization)</p> <p>Short Term: As necessary</p> <ol style="list-style-type: none"> 2) Procurement of Equipments & Facilities 3) Training 4) Local Cost <p>Community Resting House, Zaguri Training Facility & Cocoon Offer as necessary</p> <p>Third country Training as necessary</p> <p>Assessment of NGO and Local Staff</p> <p>Cost for In-country Training, observation visit and WIS as necessary</p>	<p>(Input from Nepalese side)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Assignment of PD, PM, and Necessary Government staff/technicians for implementing the Project 2) Preparation for Land and Project office (Central office at DOIED and Field office at Dhading) 3) Running cost for the Project Implementation 4) Salary and TA/DA for staff, Water/Electricity/Rental fee, etc 	<p>The necessary Number of Nepalese counterparts staff are assigned.</p> <p>The farmers in Target Area select Sericulture as desirable cash crop.</p> <p>The Government's existing services (Supply of mulberry sapling, silkworm Egg and silkworm rearing, etc.) continue during the Project period.</p> <p>The instigant situation in the target area is kept normal.</p>

To concentrate on active 5VDCs to establish the Model, Bhumisthan and Murali Bhanjyang are excluded from the Main Target area. However, possible services including trainings will be continued.

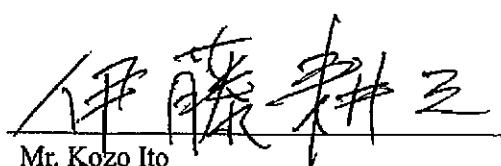
Tentative Plan of Operation (from June 2009)		Organizational Unit in Charge	Operations in 2009				Operations in 2010				Operations in 2011				ACTIVITIES Details	RESULTS	ACHIVMENT GOAL	SCORE %
			1st Qtr	2nd Qtr	3rd Qtr	4th Qtr	1st Qtr	2nd Qtr	3rd Qtr	4th Qtr	1st Qtr	2nd Qtr	3rd Qtr	4th Qtr				
[Activity 1]	[Output 1]																	
	The technical capacity among farmers groups are strengthened through capacity development of Government technicians.																	
1-1	To standardize technology and methodology for farmers for production of cocoons, post-harvesting, and Zaguri silk production and compile as manuals																	
1-1-1	Recognition and making packages of techniques and methods necessary for seri farmers	DOIE D/Ko pashi/ JICA																
1-1-2	Preparation of manuals of those techniques and methods which were made as packages	DOIE D/Ko pashi/ JICA																
1-1-3	Publishing and distribution of techniques and methods compiled as manuals	DOIE D/Ko pashi/ JICA																
1-1-4	Revision of manuals based on the training results	DOIE D/Ko pashi																
1-2	To conduct trainings to Government technicians, silk mobilizers and farmers groups in Cascade Method as OJT																	

2

Joint Mid-Term Evaluation Report
for
The Promotion of Quality Cocoon
Production and Processing Project

Kathmandu, 15th June, 2009

Nepal-Japan Joint Mid-Term Evaluation Team

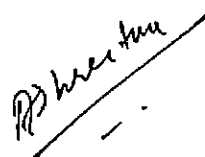


Mr. Kozo Ito

Leader

Japanese Mid-Term Evaluation Team

Japan International Cooperation Agency



Mr. Ram Krishna Shrestha

Coordinator

Nepalese Mid-Term Evaluation Team

Ministry of Agriculture and Cooperatives



Joint Evaluation Report

1. Introduction	1
1.1 Objectives of the Evaluation	1
1.2 Members of the Joint Evaluation Committee	1
1.3 Schedule of the Evaluation	2
2. Outline of the Project	2
2.1 Background of the Project	2
2.2 Summary of the Project	3
3. Methodology of Evaluation	4
3.1 Evaluation Questionnaire and Indicators	4
3.2 Data Collection Method and Analysis	4
4. Project Performances and Implementation Process	4
4.1 Inputs	4
4.2 Outputs	6
4.3 Achievement of the project purpose	7
4.4 Implementation Process of the Project	7
5. Evaluation Results	9
5.1 Relevance	9
5.2 Effectiveness	9
5.3 Efficiency	10
5.4 Impact	11
5.5 Sustainability	11
6. Conclusion	11
7. Recommendations	12
 Annexes	
1. Previous PDM for evaluation	14
2. Revised PDM as of Mid-term Review	15
3. Evaluation Grid	16
4. List of Japanese Experts	26
5. Provision of Equipment	27
6. Assignment of Counterpart/Training in Japan	29
7. Financial Input	30
8. Input of the Project	31
9. Results of Operation	32
10. Training (Overseas)	42
11. Training (Domestic)	43
12. Major Meeting/Workshop list	44
13. JCC List	45



1. Introduction

1.1 Objectives of the Evaluation

The objectives of the Mid-Term evaluation are;

- (1) to find the degree of achievement based on the Project Design Matrix (hereinafter referred to as "the PDM"),
- (2) to review the project framework for successful implementation, and
- (3) to make recommendations regarding measures to be taken, if necessary, by Japanese and Nepalese side for remaining project period.

1.2 Members of the Joint Evaluation Committee

(1) The Japanese Side

No.	Name	Title/field	Designation
1	Mr. Kozo Ito	Leader	Director (Southwest Asian and Oceania), Paddy Field Based Farming Area Division III Paddy Field Based Area Group, Rural Development Department, Japan International Cooperation Agency
2	Dr. Makoto Kiuchi	Sericulture Promotion	Director, Division of Insect Sciences, National Institute of Agrobiological Sciences
3	Mr. Yasuaki Momita	Planning Management	Representative, Nepal Office, Japan International Cooperation Agency
4	Mr. Hiroyuki Doi	Evaluation Analysis	Independent Consultant
5	Mr. Narendra Kumar Gurung	Mission Coordinator	Senior Program Officer, Nepal Office, Japan International Cooperation Agency

(2) The Nepalese Side

No.	Name	Title/field	Designation
1	Mr. Ram Krishna Shrestha	Coordinator	Senior Agriculture Extension Officer, MOAC, Monitoring and Evaluation Division
2	Dr. Haribabu Tiwari	Team member	Senior Agricultural Economist MOAC, Agri-business Promotion and Statistics Division
3	Ms. Sabnam Shivakoti	Team member	Agricultural Economist MOAC, Planning Division
4	Mr. Prakash Bista	Team member	Agriculture Extension Officer DOA, Planning Section
5	Mr. Rajendra Koirala	Team member	Agricultural Economist DOA, Monitoring and Evaluation Section



1.3 Schedule of the Evaluation

The Joint Evaluation Committee worked for 8 days from 8 to 15 June 2007 in Kathmandu and Project sites for carrying out the following activities:

Date		Activities
8 th Jun	Mon.	Members from Japan arrived in KTM
9 th	Tue.	1 st Joint Evaluation Committee -Explanation of evaluation objective, method, criteria
10 th	Wed.	Courtesy Call to Secretary, MOAC -Visiting Khopasi Seri culture Development Division
11 th	Thu.	Field Trip to Dhading District -Visiting Nalang VDC and have interaction with seri-farmers and Silk Mobilizers(SM) -Visiting Baireni VDC and have interaction with seri-farmers and SM -Visiting Dhunibesi Seri culture Development Office
12 th	Fri.	2 nd Joint Evaluation Committee -Review on achievements and Drafting 5 Criteria Evaluation
13 th	Sat.	Internal Meeting
14 th	Sun.	3 rd Joint Evaluation Committee -Confirmation on Joint Evaluation Report and M/M
15 th	Mon.	Joint Coordination Committee (JCC) Meeting -Presentation of Evaluation Report -Signing of M/M

2. Outline of the Project

2.1 Background of the Project

(1) Present situation and issues

In Nepal, around 65% of the employed population is engaged in agriculture, which generates around 40% of Gross National Product (GNP) of the country. Nepalese land is characterized by its high ratio of mountainous area coverage and arable land is almost completely exploited. Therefore, production of high value added crops (like sericulture, fruit cultivation and tea cultivation) with utilization of various geographic and climatic conditions is expected to be promising.

Sericulture in Nepal began around 30 years ago and has a short history compared to those of other countries. The mulberry (for feeding silkworm) plantation area per a household is 1/3, cocoon yield per Ha is 1/4, and production per household is 1/14 of those of Gunma prefecture, an advanced area in sericulture in Japan. These facts indicate the low productivity of sericulture in Nepal. Further, the quality of raw silk made in Nepal is "Grade A" in most cases, where else Indian silk is Grade 2A-3A, Japanese silk is Grade 4A. This shows that the low quality of Nepalese silk does not respond to the expectation/needs of the international market. The direct reasons of low productivity and quality come from the absence of technician and extension workers to provide appropriate techniques and the absence of facilities for taking care of young silkworm properly. Consequently, techniques such as temperature and humidity control, disease prevention, mulberry feeding, cocoon mounting, and cocoon selection are not applied properly at the farm level.

The Government of Nepal has been playing a leading role so far on the development of the domestic silk industry by carrying out the introduction and instruction of cocoon production, cocoon procurement, drying and production of raw silk from the procured cocoons. The Ministry of Agriculture and Cooperatives of the Government of Nepal has made several achievements on sericulture development (cf. establishing branch offices in several regions, introducing reeling machines, preserving new varieties of silkworm from Japan, silkworm egg production and distribution, etc.) with support from donor agencies and NGOs. Still, the quality of the produced cocoon remains at a low level and

leads to not only the low quality of raw silk, but also a high cost; more than that of the market price. Accordingly, Nepalese raw silk can not compete against Chinese and Indian silk which are also imported to Nepal. Together with the officially fixed pricing system, the raw silk made by the Government is not likely to be sold. This means that the more the Government produces raw silk from low quality cocoon, the more deficit emerges.

2.2 Summary of the Project

(1) Project Purpose and Description of the Outline

The Project is targeted at improving the quality of cocoon, which is regarded as the major constraint for sericulture development in Nepal, and establishing a system for providing technical support for producing high quality cocoon. For these purposes, two major approaches are taken; 1) Enhancement of the capacity and linkages among Government's extension workers, Seri-farmers groups and NGOs, and 2) The enhancement of relationship between Entrepreneurs and Seri-farmers groups for promotion of cocoon trade and silk market development under an appropriate quality evaluation system.

(2) Duration : From Nov.2006 to Oct.2011 (5 years)

(3) Cost shared by Japanese side (excluding cost for dispatch of Japanese Expert)
Around 65 million JPY

(4) Counterpart Organization: Directorate of Industrial Entomology Development (DOIED) , Department of Agriculture, Ministry of Agriculture and Cooperatives

(5) Target Area : Dhading District, 7VDC Baireni, Salang, Nalang, Kumpur, Sankosh, Bhumisthan, Murali Bhanjyang

(6) Target Groups :

- 1) Seri-Farmers in the Targeted Area; 400 Households
- 2) Staff of Directorate of Industrial Entomology Development; 50 Members
- 3) Resident in the target area; Around 5 thousand

(7) Summary of the Project (Refer to PDM which was presented to 5th Meeting of the Joint Coordination Committee on May 27, 2009, Annex 1)

Overall Goal	-The model for quality cocoon and silk production are replicated to other parts of Nepal. -The income of seri-farmers and workers around serifarmers is increased through the improvement.
Project Purpose	The Quality Cocoon Production in the target/model area is verified through capacity building and strengthening of the linkage among serifarmers groups, Government technicians, NGOs, Private entrepreneurs and other stakeholders.
Outputs	1. The standardized technology for Quality Cocoon Production, Cocoon Quality Inspection and post cocoon harvest is established. 2. The capacity of Seri-farmers, Government technicians and NGO staff for promoting Quality Cocoon Production and Cocoon Quality Inspection technology are strengthened. 3. The linkage among Governmental Agency, NGO and Private Entrepreneur are strengthened.

3. Methodology of Evaluation

3.1 Evaluation Questionnaire and Indicators

Evaluation grid was used as a tool to evaluate from the view point of five criteria.

3.2 Data Collection Method and Analysis

The evaluation was conducted as follows;

- 1) jointly by Japanese and Nepalese Members of Evaluation Team,
- 2) by collecting data and information through
 - examining documents prepared by the project
 - interviewing experts, counterparts, extension staffs, silk mobilizers and seri-farmers, and
 - observing farmers activities, Dhunibesi PSSCRC and Khopasi SDD, then,
- 3) assessing the degree of achievement of the Project Activities, and
- 4) analyzing the overall achievement using five criteria.

Five Criteria are

1.Relevance

This is to question whether the outputs, project purpose and overall goal are still in keeping with the priority needs and concerns at the time of evaluation.

2.Effectiveness

This concerns the extent to which the project purpose has been achieved, in relation to the outputs produced by the Project.

3.Efficiency

This is the productivity of the implementation process. How efficiently the various inputs were converted into outputs.

4.Impact

This is changes, either intended or unintended, direct and indirect, positive and negative, which were made as a result of the Project.

5.Sustainability

This is to question whether the project benefits are likely to continue after the external aid has come to an end.

4. Project Performances and Implementation Process

4.1 Inputs

(1) Inputs of Japanese Side

1) Japanese Experts

Mr. Osamu Shimizu, long-term expert as a Chief Adviser was dispatched from Japanese Fiscal Year 2006 to 2008. Ms. Eriko Kawaguchi, short-term expert in the field of Textile Product Development has been dispatched. Ms. Yuko Shibuya, long-term expert as a Project Coordinator/Farmers Group, and Dr. Hiroaki Yanagawa, short-term expert in the field of Chief Advisor/Sericulture Extension Policy has been dispatched since Japanese Fiscal Year 2008. Grand total M/M will be 48.7 M/M by July 15, 2009. Detail is attached in Annex 4.

2) Provision of Equipments

The equipments were provided on time as scheduled and they are utilized. However,



4



cocoon driers are not functioning. Therefore, those cocoon driers should be repaired and used properly.

3) Training in Overseas

Three counterparts visited to India as an officer level training. Six counterparts visited to Lao-PDR, Thailand, and India as an officer level observation tour program. Detail of the training is attached in Annex 10. However, three of them were transferred.

4) Training for Officers

The following training was conducted:

	Training Course	Data and Venue	Participants
1	Human Skill Dev. Training	8-13 March, 2009 KTM	15 Participants from 9 stations

5) Training for JT/JTAs

The following trainings were conducted:

	Training Courses	Data and Venue	Participants
1	Feeding of Late Stage Silkworm and Mounting Technology Training	1 Oct. ~ 3 Oct. 2007 Khopasi	6 Participants from Khopasi
2	Seed Cocoon Production and Management Training	11.Aug. ~ 15.Aug 2008 Khopasi	12 Participants from 9 stations
3	Human Skill Development Training	8-12 Feb., 2009 KTM	16 Participants from 8 stations

6) Training for Farmers

The following trainings were conducted:

No.	Training Courses	Data and Venue	Participants
1	Silk Mobilizer Orientation Training,	19Aug. ~ 21 Aug., 2007 Dhunibesi, Dhading	6 Participants
2	Zaguri Training (Basic Course),	2 Dec. ~ 12 Dec., 2007 Dhunibesi, Dhading	10 Participants
3	Zaguri Training (Refresher Course),	3-7 Feb., 2009 Dhunibesi, Dhading	8 Participants
4	Zaguri and Weaving Training (Basic Course)	13-22 Feb., 2009 Kalaghuti, KTM	12 Participants
5	Zaguri Training (Basic Course),	1-9 Mar., 2009 Dhunibesi, Dhading	10 Participants
6	Zaguri Training (Skill-up),	17-25 May, 2009 Nalang VDC, Dhading	7 Participants

7) Local Cost Expenditure

See Annex 8..

(2) Inputs of Nepalese Side

1) Assignment of Counterparts (including JT/JTA)

According to the document prepared by the Project, thirteen personnel have been assigned as counterparts to the long- and short-term experts. However, they have not been able to work together with experts fully and have been only part-time C/Ps. In addition, C/Ps have been transferred, and even the Project Director has not been assigned at this point of time. Fulltime C/Ps should be assigned and remain in the Project for efficiency.

2) Land, buildings, and facilities

Land, buildings, and facilities required for the implementation of the project have been provided by Nepal side. Office space is also provided for the experts.

3) Local Cost Expenditure

See Annex 7.

4.2 Outputs

(1) Output 1: The standardized technology for Quality Cocoon Production, Cocoon Quality Inspection and post cocoon harvest is established.

OVI	Achievement level
1. 70% of silkworm rearers adopted the improved technology	Approximately 70%: The seri-farmers understood on how to improve their rearing houses and rearing technology through the training and technical guidance of technicians.
2. 5 kinds manuals prepared and published	One issue: The standard rearing chart was prepared and distributed to seri-farmers.
3. 4CRCs are in function at community level	3 CRCs are in function and 100% of seri-farmers make use of them. The CRC of Baireni VDC is not in use because of seri-farmers decline. The CRC of Dhunibesi takes care of the Baireni seri-farmers.
4. Cocoons purchased based on quality and grading by the Government technicians	100% of quality checking is conducted. So far, the government technicians check cocoons' quality and purchase.
5. 80% of seri-farmers and technicians understood silk market	According to the Project document, it's presumed that they might understand only 5% on silk market: No survey on it. The government technicians scarcely understand on the activity with private entrepreneurs.
6. Original silk are produced in target area	Nalang and Salang VDCs launched zaguri silk production.

(2) Output 2: The capacity of Seri-farmers, Government technicians and NGO staff for promoting Quality Cocoon Production and Cocoon Quality Inspection technology are strengthened.

OVI	Achievement level
1. Seri-farmers are involved in group(at least 1group/VDC)	Numbers of group: 4 in Nalang VDC, 2 in Salang VDC, 1 in Baireni VDC, 1 in Bhumisthan VDC, involving all seri-farmers. However, grouping hasn't proceeded yet in Sankosh VDC and Murali Bhanjyang VDC.
2. The level of Government technicians enhanced on improved technology and facilitation skills(3 trainings/year, besides OJT)	The government technicians' capability will be judged on test in future. Implemented more than 5 times of OJT per year. The appropriate advices by the technicians to farmers prove an improvement of their technology.
3. The number of training opportunity for seri. Farmers and technology adopted	8 times of training to farmers in 2 years : 6 times in Dhunibeshi SDO, 2 times in

(more than 5 trainings/year)	Khopasi SDD. The survey will find out an improvement of capability in near future.
4. At least 1 technical resource farmer expected to develop per group	6 silk mobilizers in all groups.

(3) Output 3: The linkage among Governmental Agency, NGO and Private Entrepreneur are strengthened.

OVI	Achievement level
1. The establishment and clarification of TOR for stakeholders (Government technicians and NGO)	According to the Project document, 3 times/year : Dhunibesi SDO organized a RCC by the government technicians and farmers' group. 5 times of meeting were held between the government and private entrepreneurs on products development of zaguri silk.
2. The frequency and number of the JCC and RCC(more than 3/year)	JCC has been held 5 times.
3. The quality cocoon procured by private entrepreneurs(3 times for 250kg/year)	TOR of NGO as a role of farmers organization and the Technicians as a role of technical guidance are clarified. NGO Starts a survey for organizing farmers groups.

4.3 Achievement of the project purpose

Project Purpose: The Quality Cocoon Production in the target/model area is verified through capacity building and strengthening of the linkage among seri-farmers groups, Government technicians, NGOs, Private entrepreneurs and other stakeholders.

OVI	Achievement level
1. Quality of produced cocoon reached to 2A(International grade), eliminated cocoon(7%), shell ratio(22%).	Below A grade: No grading system by international standard in Nepal. The previous JICA expert graded them in Japan and found that the Nepali cocoons were below A grade in Quality. 2008 Spring 1st;8.2% Spring 2nd;11.7 Autumn 1st;11.9% Autumn 2nd;12.5%. 2008 Spring 1st;23.5% Spring 2nd;22.7 Autumn 1st;22.7% Autumn 2nd;22.8%
2. Quality cocoon production reached to 20kg/box.	The average of cocoon crops, 2008 Spring 1st;22.9Kg Spring 2nd;16.71Kg Autumn 1st;11.76 Autumn 2nd;8.75Kg/box : Cocoon crops vary between 7kg and 30kg per box, according to seri-farmers' abilities or rearing seasons.
3. 50% of seri-farmers adopted improved technology.	At present, Project presumes that only 20% of seri-farmers might have adopted.
4. Private entrepreneurs involved in purchasing 250kg of dried cocoon/year.	150kg of dried cocoons/year: The private entrepreneurs including D.D.Textile, Everest Art Paper and M.M.D.S.Group purchased from the government or directly from seri-farmers based on the permission of the government.

4.4 Implementation Process of the Project

(1) Major Meeting / Workshop

7

Dhunibesi SDO organized a RCC by the government technicians and farmers' group. 5 times of meeting were held between the government and private entrepreneurs on products development of Zaguri silk.

No.	Name of workshop/Meeting	Date/Venue	Participants
1	Regional Coordination Meeting/Workshop	22nd Sept, 2008 Dhunibesi	Chief Advisor, Project Staffs / Officers, JT & JTA's of Dhunibesi / PD of DOIED / Sericulture Farmers / DADO Officer, Dhading
2	National Technical Workshop on Sericulture	16, 17 Nov, 2008 Khopasi	Chief Advisor, Project Staffs / PD & Officers of DOIED / Officers of SDO / Chief, Officers and Staffs Of Khopasi
3	Interaction Meeting (Gov't, PS, PQCPPP)	7 Feb, 2009 Dhunibesi	Chief Advisor, Short Term Expert (Product Development), Project Coordinator of PQCPPP / Officers & JT, JTA of Dhunibesi / Everest Art Paper (P S) / Program Director & Officer of DOIED
4	Interaction Meeting (Gov't, NGO, Silk Mobilizer, PQCPPP)	2 March, 2009 Dhunibesi	PM, Officer, PC / Chief, Officer, JT, JTA of Dhunibesi / NGO Staff / Silk Mobilizers
5	Interaction Meeting (Gov't, NGO, Silk Mobilizer, PQCPPP)	22 April, 2009 Dhunibesi	PD, PC / Officers Of SDO, Chief / Officers / JT, JTA Of Dhunibesi / NGO Staffs
6	Sericulture Policy Work Shop	24, 25 May, 2009 Kathmandu	Chief Advisor, PC / MOAC, DOA, DOIED / NPC / Sericulture Officers/Sericulture Farmers / Private Entrepreneurs, Consultancy

(2) Joint Coordination Committee

JCC has been held five times. Main agenda is as following table.

JCC	Date	Chairperson	Main agenda
1 st	3rd April, 2007	Mr. Deep Bahadur Swar	Discussion Annual Plan of Operation (2007).
2 nd	9th May, 2008	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	Approval on the contents of Plan of Operations. Discussion on major issue pointed out in the comment from consultation study team.
3 rd	12th Aug, 2008	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	To deploy a long term Project coordinator for project management, amendment on record of discussion.
4 th	6th Nov, 2008	Mr. Bharat Prasad Upadhyay	Efforts to fulfill recommendations agreed in the 2nd JCC. Consideration for the coming Mid-term Evaluation Study. New Direction Idea proposed by the Consultation Study Team.
5 th	27th May, 2009	Mr. Fulgen Pradhan	Approval of the revised indicators of PDM for Mid-term Evaluation.

5. Evaluation Results

5.1 Relevance

The project has relevance based on the following points;

Necessity

-Promotion of sericulture is important to reduce poverty. The Nepalese Government has been servicing materials to seri-farmers such as mulberry, silkworm eggs, disinfectant, etc. As a result, basic technology has been disseminated to some extent. However, techniques to produce quality cocoon is not adequate among farmers, and productivity is still low. In addition, the silk market along with the private sector has been weak and could not afford to adopt the principle of a market mechanism. The Project aims to solve these issues, and therefore is considered to be relevant.

Priority

-Nepalese Government in its "10th Five Year Plan (2002-2007)" and "Three Year Interim Plan (2007-2009)" states the "Poverty Alleviation" as the priority issue, and Sericulture Development is considered as one of the industries for Promotion of Agricultural Business under the Poverty Alleviation. In addition, "National Agriculture Policy" in 2004 aims to promote Commercialization of agricultural products in response to the global liberalization in agriculture.

-Japan's "Agriculture and Rural Development Program" focuses on three pillars namely "Food Security," "Income Generation," and "Capacity Development of Government and Farmers Groups," under the Priority issue of "Poverty alleviation in Rural Areas." The Project is a component of "Income Generation" and is relevant to this JICA Program which reflects Japan's ODA Policy.

Japan's technical advantage

Japan has long experiences in implementing a technical cooperation project in the field of sericulture promotion in India which adjoins Nepal. In addition, JICA implemented the mini-project-type technical cooperation "Sericulture Promotion in the kingdom of Nepal" and a Follow-Up program in the past. These programs have contributed to the development of sericulture in Nepal, such as the introduction of new silkworm varieties, commercial egg production (grainage), establishment of mulberry supplying system, etc. This Project intends to take measures to solve the main issues that have been identified from the past experiences.

Selection of the target area

Dhading District (7VDC/ Baireni, Salang, Nalang, Kumpur, Sankosh, Bhumisthan, Murali Bhanjyang) was selected as the target area of the Project. When the Project was started, Dhading District was considered as an appropriate target area in terms of advantage from accumulation of past technical cooperation and collaboration with other donor agencies. In addition, it was difficult for the Japanese side to go to other potential "seri-districts" than Dhading District due to security reasons.

5.2 Effectiveness

Achievement of the Project Purpose



9



-Although the Team can't evaluate the achievement of the project purpose as outputs have only been partially achieved at this time. In terms of Effectiveness, the following points will be mentioned.

-The logics that connect the Project Purpose and each Output in the PDM are not clear, and modifications in PDM such as clarification of each output should be considered to make each output more effective.

-In the PDM, Important Assumption requests DOIED to take necessary measures such as revision of cocoon inspection system and creation of investment environment for Private entrepreneurs in order to achieve the Project Purpose. Although cocoon inspection system was already in place, it is yet to be revised by DOIED. DOIED should fully achieve these Assumptions based on the draft National Sericulture Development Policy.

-It is projected that the Project Purpose "The Quality Cocoon Production in the target/model area is verified through capacity building and strengthening of the linkage among seri-farmers groups, Government technicians, NGOs, Private entrepreneurs and other stakeholders" will be achieved by the end of the Project, if the recommendations below are responded correctly.

5.3 Efficiency

Comparing with the targets, the output achievement level is thought to be fair.

5.3.1 Efficiency of Inputs

(1) Inputs of Japanese Side

1) Japanese Experts

Japanese experts, both long-term and short-term, have been dispatched as scheduled. Grand total M/M will be 48.7 M/M by July 15, 2009. Detail is attached in Annex 4.

2) Equipments

The necessary equipments were provided mostly as scheduled and most of the equipments and facilities are utilized. However, some facilities such as cocoon driers are yet to be utilized.

3) Training in Overseas

Three counterparts visited to India as an officer level training. Six counterparts visited to Lao-PDR, Thailand, and India as an officer level observation tour program. Detail of the training is attached in Annex 10. However, no specific action plan that should follow the trainings has been prepared. Besides, three of them were transferred to other sections.

(2) Inputs of Nepalese Side

1) Assignment of Counterparts (including JT/JTA)

Thirteen personnel have been assigned as counterparts to the long- and short-term experts. However, they have not been able to work together with experts fully. In addition, C/Ps have been transferred, and even the Project Director has not been assigned at this point of time. Full involvement in the project activities by C/Ps should be assigned and they should remain in the Project for efficiency. The role and responsibility of the C/Ps should be clearly spelled out by DOIED.

In addition, activities costs from Nepal side such as TADA are adequate activities costs mentioned in the Project framework should be provided.

According to the interviews from C/P personnel including JT/JTA, they can't go to the target VDC as expected due to shortage of TADA. Since C/P personnel including JT/JTA play crucial rolls for extension activities for seri-farmers, it is advisable that the

Nepalese Government try to provide adequate activities costs.

2) Land, buildings, and facilities

Land, buildings, and facilities required for the implementation of the project have been provided by Nepal side. Office space is also provided for the experts.

5.3.2 Impeding factors

-The Team found that PDM (Project Design Matrix) is not sufficiently shared among the parties, and it is hindering the common understandings especially on the clear roles of each stakeholder. In this regard, the Nepalese version should also be prepared and shared.

5.4 Impact

Though the Impact of the Project will be evaluated at the time of Terminal Evaluation and Post Evaluation, the Project is expected to have following projected impacts:

- Partnership between Public sector and Private sector has been initiated by the Project.
- The Team observed that there are farmers who benefited from cocoon production, and also saw the possibility of that the Private entrepreneurs hire women who received zaguri trainings from the Project. Sericulture may not only be the source of income, but also may provide job opportunities for those involved in the silk industry, especially for women in rural areas.
- It is expected that cocoon trading system will be developed in the remaining period.

5.5 Sustainability

5.5.1 Policy and Institutional Aspect

-JICA has been dispatching new Chief Advisor who has started to make necessary advices to help the Government on sericulture policy. As of now, the Nepalese Government has already prepared the draft National Sericulture Development Policy, but it is yet to be finalized and endorsed. Without sericulture policy, sustainability of sericulture industry will not be pledged. Formulation of proper Action Plan is also expected based on the policy, in order to draw more practical and feasible plan to achieve the policy.

5.5.2 Financial aspect

- The Nepalese Government has been directly involved in every step from production to marketing, but this current system would not be sustained as an industry by Government only. In this regard, involvement of farmers and private entrepreneurs getting benefit from sericulture should be promoted to sustain sericulture as an industry.

5.5.3 Technical aspect

-There is more space to improve technical knowledge, both for extension staff (JT/JTA) and for seri-farmers including silk mobilizers. Therefore, distribution of manuals and technology transfer system is necessary by Cascade Method.

6. Conclusion

As a result of the project activities, some outputs have been produced. In addition, activities to be emphasized in the latter half of the Project were clarified and shared between both Nepalese and Japanese sides through the process of project implementation, and new project management system has recently started in order to

streamline the project activities and to achieve the Project Purpose. Thus, it can be said that acceleration of the Project activities towards its goal has been observed.

In addition, as cited in the five criteria, several issues were found. Therefore, revision of the Project framework including Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO) is necessary to solve these mentioned issues and to aim for more effective outputs from the Project.

It is recommended that the revised PDM and PO will be the implementation guide for the remaining period of the project and shall be the basis of the Project's final evaluation.

The main point of revision emphasizes on the points mentioned above, including Public Private Partnership (PPP) for market exploration, Cascade-type training for JT/JTA, Silk Mobilizers, and farmers' groups, and monitoring and evaluation system. The revised PDM also clarifies Objectively Verifiable Indicators as to expression, definition, description and /or quantification.

With these modifications, the Team finds that the Project Purpose will be achieved in the remaining period.

7. Recommendations

The joint midterm evaluation team recommends the following:

7.1 Involvement of Private Sector

It is recommended that, for the sustainability of the sericulture development, involvement of the private sectors is essential, including development of Government-controlled cocoon market system. It is a role of the Government to create an affirmative environment to attract Private entrepreneurs, and to manage the sericulture sector as a whole. Establishing the Window or the One Stop Service for the private entrepreneurs who wish to purchase cocoons/zaguri silk/raw silk will be an example to attract interests from them. On the other hand, the Project can technically support this PPP by analyzing the total value chain in sericulture.

7.2 Importance of Farmers Organization

Though the Project mainly focused on the technical aspect in the first half of its period, Social Development activities will be very much important in the latter half of the Project; the farmers' groups enable the Cascade-Method technical extension. Also, developed farmers groups will be able to seek on their own for the support from DADO, Banks, NGOs, etc. In this regard, establishment of Cooperatives may be considered in the future.

7.3 Necessity of Action Plan by the Government

The Team found that DOIED organized a Workshop to formulate the draft on Sericulture Policy, but it is yet to be finalized, and the effort by DOIED in this regard is necessary. Moreover, the Action Plan which is thought to come after the Policy is as important. It is recommended that the Government should come up with the Action Plan, as well as the Policy, as soon as possible.

In this connection, improved monitoring and evaluation system will be necessary. These activities were not considered as sufficient, and better system for statistics and monitoring and evaluation should be designed. These activities can support the Government in the process of consideration for the Action Plan, as it will need a variety of numerical data for setting the numerical goals that are realistic and feasible.



7.4 Utilization of PDM as common understanding among parties concerned

It is recommended that the revised PDM will be the tool for common understanding among the DOIED, the Project, counterparts, and extension staffs (JT/JTA). PDM should be disseminated to each office and shared among all the stakeholders through workshop. For this, Nepalese version should be prepared for the extension staffs (JT/JTA) who hardly understand English.

7.5 Budgetary Arrangement

It is essential that the Nepalese Government allocate adequate budget in order to ensure the Project achievements. The demand from seri-farmers for technical support is high, but due to the inadequate program costs including TADA, activities by DOIED/seri-stations are insufficient. In this regard, the counterpart fund of 2KR may be an alternative "short-term" source; similar kind of alternative arrangement may be sought by the GoN.

7.6 Prompt Action for Usage of a New Disinfectant (Sanitec) instead of Formalin

Due to its harm effect to human health, the consultation study team recommended Usage of a New Disinfectant instead of Formalin. Although the 2nd Joint coordination Committee agreed its recommendation, no action for import has been taken so far. Prompt action is necessary.

7.7 Establishment of a Better Model

The project intends to establish an appropriate model for quality cocoon and silk production. The project is trying to make a model within the target area, expecting further replication in other areas by the Nepalese Government. To concentrate on development of the model, the project area should be focused on the 5 VDCs (Baireni, Nalang, Salang, Kumpur, and Sankosh) where sericulture is adopted by the farmers and has the possibility to form the model.



Project Design Matrix "Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project"

As of 27. May, 2009

Target Area : Dending District, 7W06/ Baironi, Sa lang, Nalang, Kumpur, Senkooh, Buhanihan, Marie Bhanjyang
 Duration : From Dec, 2006 / To Nov, 2011
 5 Years
 Target Group 1) Seri-Farmers in the Targeted Area : 400 H.H
 2) Staff of Directorate of Industrial Entomology Development : 50 Members
 3) Resident in the target area : Around 5 thousand

Strategic Significance	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p>(Overall Goal) The model for quality cocoon and silk production are replicated to other parts of Nepal.</p> <p>(Project Purpose) The income of seri-farmers and workers around seri-farmers is increased through the promotion of quality cocoon production in the target/ model area is verified through capacity building and strengthening of the stakeholders through Government Subsidies, M&S, Private entrepreneurs and other stakeholders.</p> <p>(Output) 1. The standardized technology for Quality Cocoon Production, Cocoon Quality Inspection and post cocoon harvest is established.</p> <p>(Activity 1) The capacity of Seri-farmers, Government technicians and M&S staff for promoting Quality Cocoon Production and Cocoon Quality Inspection technology are strengthened.</p> <p>(Activity 2) The linkage among Governmental Agency, M&S and Private Entrepreneur are strengthened.</p> <p>(Activity 3) 1-1 To address for the improvement on mulberry plantation, cultivation and harvesting. 1-2 To improve Silkworm rearing and disease prevention technology. 1-3 To improve incubation rats and young silkworm rearing 1-4 To practice Cocoon Quality Inspection and cocoon post harvesting activities (Drying, Cleaning and Grading). 1-5 Farmers group and other stakeholders to conduct marketing survey on cocoon and silk. 1-6 To develop indigenous silk item and practice sites promotion. (Activity 2) 2-1 M&S to organize groups among Seri-farmers. 2-2 Conduct facilitation training and technical trainer for Government Subsidies. 2-3 To conduct technical training for M&S staff. 2-4 To conduct technical training for Seri-farmers groups. 2-5 To conduct "Training for Trainers" for Seri-farmers. (Activity 3) 3-1 Stakeholders to hold periodical meeting at RTM (Joint Steering Committee) and Field in Dending (Regional Coordination Committee). 3-2 Develop appropriate monitoring system.</p>	<p>The number of replication case of the model. The popularity on local independent silk in market. The seri-farmers' status of income-dependence. The workers' status of income-dependence.</p> <p>1. Quality of produced cocoon reached to 2A (International grade), eliminated cocoon (3). 2. Quality cocoon production reached to 80kg/box 3. 50% of seri. farmer adopts improved technology 4. Private entrepreneurs involved in purchasing 250kg of dried cocoon/year</p> <p>1. 70% of silk worm rearses adopted the improved technology 2. 5 kinds manuals prepared and published 3. 4000 are in function at community level 4. Cocoon purchased based on quality and grading by the government technicians. 5. 50% of seri. farmers and workers are understood silk market are produced in target area</p> <p>1. Seri-farmers are involved in graduate least 1group/1000 2. The level of government technicians enhanced on improved technology and fertilization skills (3 trainings/year, besides OJT) 3. The number of training opportunity for seri. Farmers and technology adopted here shall be 4, at least 1 technical resource farmer expected to develop per group</p> <p>1. The establishment and clarification of TOR for stakeholders (Government technicians and M&S) 2. The cocoon added number of the (20 and 800) more than 3/year 3. The quality cocoon produced by private entrepreneurs (3 times for 250kg/year)</p> <p>(Result from business side) 1) Dispatch of Experts Long Term : Two Persons : Chief Advisor/Sericulture Promotion Policy, Coordinator/Farmers Organization Short Term : As necessary 2) Procurement of Equipments & Facilities Community Rearing House & Cocoon Drier as necessary 3) Training 4) Local Cost 5) In-country Training as necessary 6) Cost for in-country training, observation visit and M/S as necessary</p>	<p>Budget of M&S/D&A Statistical survey data Farmer's sample survey</p> <p>Project Monitoring Report Activity Record book of JI/RTM Activity Record book of Seri-Farmers' Group Farmer's sample survey</p> <p>Project Monitoring Report Record book of JI/RTM Activity Record book of Seri-Farmers' Group Farmer's sample survey Technical Manual</p> <p>Project Monitoring Report Activity Record book of JI/RTM Activity Record book of Seri-Farmers' Group Farmer's sample survey</p> <p>Project Monitoring Report The Government's Policy for PPP in Sericulture Private Entrepreneur's sample survey Farmer's sample survey (Grant from business side) 1) Assignment of PO, PM, and necessary government staff/technicians for implementing the Project 2) Preparation for Land and Project office (Central office at DDBB and Field office at Dending) 3) Running cost for the Project (implementation) 4) Salary and M&S for staff. 5) Water/Electricity/Rental fee, etc</p>	<p>N/A</p> <p>Government's Policy on Sericulture Promotion continues. Silk Market doesn't get falling. Government and M&S technicians/staff are committed to project implementation continue the support to Seri-farmers. Silk price doesn't take great fall.</p> <p>The Government revises and introduces cocoon inspection system for trading based on genuine quality. The Government creates the environment for Private entrepreneur to invest on indigenous silk production.</p> <p>M&S who has enough experiences in community development are assigned for the Project implementation. The policy on contracts assigned for the Project is suitable to work for the Project. The Private entrepreneurs are interested and affirmative in the</p> <p>Prerequisites The necessary number of local area counterpart staff are assigned. The Farmers in Target Area select Sericulture as desirable cash crop. The Government's existing services (Supply of 1) mulberry seedling, 1) Silkworm egg and 1)1) Antisepsis, etc.) or</p>

NEW DRAFT of Project Design Matrix "Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project"

Annex 2

Target Area : Diaching District, 5VDC/ Bajirni, Salango, Nalang, Kumpur, Sankosh (Bhumishan, Murai Bhanjyang)

Duration : From Dec. 2008 / To Nov. 2011

5 Years

- Target Group
- 1) Staff of Directorate of Industrial Entomology Development
 - 2) Self-Farmers in the Targeted Area

As of 13th June, 2009

Narrative Summary (Overall Goal)	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
<p>The model for quality cocoon and silk production are replicated to other parts of Nepal.</p> <p>The income of self-farmers and workers around self-farmers is increased through the improvement.</p> <p>[Project Purpose]</p> <p>The quality cocoon and silk production model is verified in the target area through capacity building and strengthening of the linkage among self-farmers groups, Government technicians, Private entrepreneurs and other stakeholders.</p>	<p>1. Case where the model is replicated</p> <p>2. Introduction of trading between farmers groups and Private entrepreneurs based on fair grading system</p> <p>3. Increase in income of self-farmers (50%) and Zaguti manufacturers (20%) from cocoon production in the target area</p> <p>4. Increase in quality cocoon production (normal cocoon ratio 80%, shell ratio 20%, hatching percentage 80%, yield per box 20kg)</p> <p>5. Production of original silk products by private entrepreneurs (products by 3-entrepreneurs)</p>	<p>Annual report and budget of DOIED</p> <p>Self-culture statistics and sample survey</p> <p>Result from Monitoring and Grading by GoT</p> <p>Result from Monitoring and interview survey</p>	<p>Government's Policy on Sericulture Promotion continues.</p> <p>Government's Policy on Sericulture Promotion continues.</p> <p>Governmental staffs and Private entrepreneurs concerned to Project Implementation continue the support to Self-farmers.</p> <p>Silk prices constant (have a great fall)</p>
<p>[Output]</p> <p>1. The technical capacity among farmers groups are strengthened through capacity development of Government technicians.</p> <p>2. The cooperation among Government, Private entrepreneurs, and self-farmers groups for market exploration is established.</p> <p>3. The capacity of DOIED to strengthen linkage among Government Agencies, farmers and Private entrepreneurs is strengthened.</p>	<p>Distribution of 5 technical manuals</p> <p>The retention (20% increase in monitoring score) of technique among self-farmers</p> <p>The retention (30% increase on test score in trainings) of technique and facilitation skills among Government technicians</p> <p>Introduction of fair grading system by Government</p> <p>More than 3 private entrepreneurs involved in Zaguti product development</p> <p>Intensity of linkage among Government, Private entrepreneurs and self-farmers group (more than 5 times of meetings/activities in the first year)</p> <p>Improvement in performance of self-farmers groups</p> <p>Involvement of Government in activities of farmers groups and Private entrepreneurs (12 visits by to farmers groups, 3 visits by to private sector)</p> <p>Introduction of new monitoring system and statistics</p>	<p>Record of Project activities</p> <p>Result from Monitoring and interview survey</p> <p>Result from Monitoring and interview survey</p> <p>Record of Project activities</p> <p>Record of Project activities and interview survey</p> <p>Record of Project activities and interview survey</p> <p>Spillover tool self-evaluation</p> <p>Result from Monitoring and interview survey</p> <p>Record of Project activities</p>	<p>The Government organizes cocoon inspection system for trading based on a genuine quality.</p> <p>The Government creates the environment for Private entrepreneurs to invest on original silk products.</p> <p>DOIED accepts proposals from the Project and take necessary measures.</p>
<p>[Activity 1]</p> <p>1-1 To standardize technology and methodology for farmers for production of cocoons, post-harvesting, and Zaguti silk production and compile as manuals</p> <p>1-2 To conduct trainings to Government technicians, silk mobilizers and farmers groups in Cascade Method as O/T</p> <p>[Activity 2]</p> <p>2-1 To propose distribution system suitable for current situation of market and Private entrepreneurs based on value chain survey</p> <p>2-2 To propose cocoon inspection system to grade a cocoon equally by its genuine quality</p> <p>2-3 To design the method for intervention of Private entrepreneurs and support DOIED to produce direct procurement of cocoon by Private entrepreneurs as a trial</p> <p>2-4 To provide support for Private entrepreneurs producing product using Zaguti silk</p> <p>[Activity 3]</p> <p>3-1 To develop facilitation capacity among Government technicians through organizing farmers</p> <p>3-2 To hold periodical meetings (TG, GTC, RCC, JCC) for the coordination and problem solving among farmers, Government, and private entrepreneurs</p> <p>3-3 To develop appropriate monitoring system and statistics</p>	<p>Input from Japanese side</p> <p>1) Dispatch of Experts</p> <p>Long Term: Two Persons (Chief Advisor/Sericulture Promotion Policy, Coordinator/Farmers Organization)</p> <p>Short Term: As necessary</p> <p>2) Procurement of Equipments & Facilities</p> <p>Community Rearing House, Zaguti Training Facility & Cocoon Drier as necessary</p> <p>3) Training</p> <p>Third country Training as necessary</p> <p>4) Local Cost</p> <p>Assessment of NGO and Local Staff</p> <p>Cost for In-country Training, observation visit and WIS as necessary</p>	<p>Input from Japanese side</p> <p>1) Assignment of PU, PH, and Necessary government staff/technicians for implementing the Project</p> <p>2) Preparation for Land and Project office (Central Office)</p> <p>3) Running cost for the Project Implementation</p> <p>4) Salary and TA/DA for staff</p> <p>Water/Electricity/Rental fee, etc</p>	<p>The Nepalese Counterparts assigned for this Project continue to work for the Project.</p> <p>The Private entrepreneurs are interested and affirmative in the Silk industry</p>

* To concentrate on active 5VDCs to establish the Model, Bhumishan and Murai Bhanjyang are excluded from the Main target area. However, possible services including trainings will be continued

Annex 2

Mid-term Evaluation Study for the "Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project"

Evaluation Grid

as of 2009/06/14

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
Relevance (To examine the justifiability or necessity for project implementation)	Necessity of the Project	Is the project in line with the needs of the target region and society?	-Project document -Department of Agriculture	Answers from DOIED are as follows; - Till now, government's policy wants to continue the sericulture promotion. - Yes but little modifying by involving private in post Cocoon activities. - Nearly, 300 M.T./Year raw silk is importing from china and India. It shows the silk market is not get smaller, but we need to sale competitive way. - Lot of silk is importing from China if we produce more silk we can substitute such silk and can produce new unique item.
		Is the project in line with the needs of the target group?	-Department of Agriculture -Experts, Counterparts, Junior Technicians and Assistants (JTs and JTAs), Farmers	Answers from Counterparts are as follows; -In upland condition those farmers selected as desirable cash crop.(Dhumbesi) - Farmers accepted sericulture as desirable cash crop in the upland un irrigated area.(Khopasi) (Khopasi) - Not safely in all project area owing to the comparative advantage of vegetable like tomato. - Yes, Some are. (Dhumbesi)
	Priority Consistent with the development policy of Nepal.	Consistent with the National Five Years Development Plan and National Agriculture Policy.	-Project document -Department of Agriculture	Nepalese Government in its "10 th Five Year Plan (2002-2007)" and "Three Year Interim Plan (2007-2009)" states the "Poverty Alleviation" as the priority issue, and Sericulture Development is considered as one of the industries for Promotion of Agricultural Business under the Poverty Alleviation. In addition, "National Agriculture Policy" in 2004 aims to promote Commercialization of agricultural products in response to the global liberalization in agriculture.
	Priority Project consistency with Japan's foreign aid policy and JICA's plan for country-specific program implementation.	Does the project address the focus issues for aid? Does the project address JICA's plan for a country-specific program implementation?	-Aid policy toward Nepal -JICA's plan for country-specific program implementation	-Japan's Economic Cooperation Policy in Nepal (2008) sets Poverty Reduction in Rural Areas as one of the priority issues. - Japan's "Agriculture and Rural Development Program" focuses on three pillars namely "Food Security," "Income Generation," and "Capacity Development of Government and Farmers Groups," under the Priority issue of "Poverty alleviation in Rural Areas."
	Necessity Selection of the target	Needs for cooperation for Directorate of	-Project documents -Department of	Answers from Counterparts are as follows; - Some of the programs are well recognized among the implementation agency. (Dhumbesi)

Annex 3

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview																																
	Main Items	Sub-Items																																		
	Industrial Entomology Development (DOIED)		Agriculture -Experts, Counterparts	<p>- As envisaged in the project area, there should be high recognition but it seems to be medium type of recognition while implementing action plan. (Khopasi)</p> <p>- Unknown. (Khopasi)</p> <p>- Some what high. (Dhumibesi)</p> <p>Objectives of PSSCRC (Parental Stock Seed Cocoon Resource Center) are as follows;</p> <p>-Create employment opportunities through promotion of sericulture as an enterprise for rural poverty reduction.</p> <p>-Increase the production and productivity of cocoons.</p> <p>-Conduct training and provide technical assistance to the farmers.</p> <p>-Increase the internal consumption of sericulture products.</p> <p>-Help in producing the fine and high quality silk for export promotion thereby reducing the import.</p>																																
	Size of the target group		-Statistical Data -Project documents -Department of Agriculture -Experts, Counterparts, Junior Technicians and Assistants (JTs and JTAs), Farmers	<p>Numbers of sericulture farms as beneficiaries are 163 households out of 400 households as a target group.</p> <p>Summary of the target groups (VDC) are as following table</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Baireni</th> <th>Salang</th> <th>Nalang</th> <th>Kumpur</th> <th>Sankosh</th> <th>Bhumisthan</th> <th>Murle Bhanjyang</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No. of Group</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>No. of sericulture farm</td> <td>28</td> <td>47</td> <td>60</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>No. of silk mobilizer</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		Baireni	Salang	Nalang	Kumpur	Sankosh	Bhumisthan	Murle Bhanjyang	No. of Group	4	3	3	1		1	-	No. of sericulture farm	28	47	60	6	3	4	-	No. of silk mobilizer	1	2	2	1			-
	Baireni	Salang	Nalang	Kumpur	Sankosh	Bhumisthan	Murle Bhanjyang																													
No. of Group	4	3	3	1		1	-																													
No. of sericulture farm	28	47	60	6	3	4	-																													
No. of silk mobilizer	1	2	2	1			-																													
<p><u>Suitability as a means</u> Is the project suitable as a strategy to produce an effect with respect to the development issues of the target field and sector of Nepal</p>	Is the project strategy and approach suitable?		-Department of Agriculture -Experts, Counterparts	<p>Answers from DOIED are as follows;</p> <p>- Yes, but not sufficient.</p> <p>- Yes.</p>																																

17

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
Effectiveness (To examine project effects)	Suitability as a means Japan's technology advantage		-JICA division in charge of the project	-Japan has superiority in transfer of technology.
	Achievement forecast for the project objective(purpose) Looking at the input and output performance and at the activity, is the project objective likely achieved?	How is the achievement of the Project Objective ?	- Project Monitoring Report - Activity Record book of JT/JTA - Activity Record book of Seri-Farmers' Group - Farmer's sample survey	<p>Answers from DOIED are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> - The project objectives will be achieved if the person involved in sericulture will satisfied and performs the task accordance with action plan. - Yes, but disturb by their present situation. <p>Self evaluation by the Project are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐Quality of produced cocoon reached to 2A(International grade), eliminated cocoon(7%), shell ratio(22%) • Below A grade: No cocoon grading system in Nepal. The previous JICA expert graded them in Japan and found that the Nepali cocoons were below A grade in Quality. 2008 Spring 1st;8.2% Spring 2nd;11.7 Autumn 1st;11.9% Autumn 2nd;12.5% 2008 Spring 1st;23.5% Spring 2nd;22.7 Autumn 1st;22.7% Autumn 2nd;22.8% <p>☐Quality cocoon production reached to 20kg/box</p> <ul style="list-style-type: none"> • The average of cocoon crops, 2008 Spring 1st;22.9Kg Spring 2nd;16.71Kg Autumn 1st;11.76 Autumn 2nd;8.75Kg/box : Cocoon crops vary between 7kg and 30kg per box, according to seri.farmers' abilities or rearing seasons. <p>☐50% of seri. farmers adopted improved technology</p> <ul style="list-style-type: none"> • At present, it's presumed that only 20% of seri.farmers might be adapted due to their financial strains. <p>☐Private entrepreneurs involved in purchasing 250kg of dried cocoon/year</p> <ul style="list-style-type: none"> • 150kg of dried cocoons/year. The private entrepreneurs including D.D.Textile, Everest Art Paper and M.M.D.S.Group purchased from the government or directly from seri.farmers based on the permission of the government
	Is the equipment utilized?		-Project document (Service records, etc.) -Experts, Counterparts	<p>Provision of Equipment is attached annex 5. (List of Equipments & Material Purchased during 2006-2009).</p> <p>Answers from counterparts are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> - Yes all equipments are properly used and managed. (Dhumbeshi)

18

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
Efficiency (To examine project efficiency)	Achievement level of output Is the output achievement level adequate? (compare performance with targets)	Is the standardized technology for Quality Cocoon Production, Cocoon Quality Inspection and post cocoon harvest established?	- Activity Record book of JT/JTA - Activity Record book of Seri-Farmers' Group - Farmer's sample survey - Technical Manual	Self evaluation by the Project are as follows; - 70% of silk worm rearers adopted the improved technology - Approximately 70%: The seri.farmers understood on how to improve their rearing houses and rearing technology through the training and technical guidance of technicians. The survey will be conducted to find out the seri.farmers' present situations.
		Are the technologies acquired through training utilized?	-Project document (Training records, etc.) -Experts, Counterparts	<p>Results based on project report and interview</p> <ul style="list-style-type: none"> - yes, almost utilized.(Khopasi) - No.(Khopasi) - yes.(Dhunibeshi) <p>Answers from extension staffs (JT/JTA) are as follows; Technologies learned</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Number of technical trainings participated <ul style="list-style-type: none"> - Technical training one time. - Participate two times. - I will participate one time on the training within two years period. 2. Evaluation of technical trainings <ul style="list-style-type: none"> - To add more subjects and number times of training. - Subject and number of training are not enough and new subject and contents of the training are necessary. - Not received the training about technical knowledge improvement. 3. The most useful things to learn <ul style="list-style-type: none"> - To learn completely what types of activities are necessary to do for production of quality and learning matters are useful. - Learned additional technology. - Not received those types of training. 4. Expected Technologies to learn in remaining half-term of the Project <ul style="list-style-type: none"> - Wants to learn new technologies. - New Technology. - Hoping to receive technical knowledge and skill development training. <p>15 kinds manuals prepared and published</p> <ul style="list-style-type: none"> - One issue: The standard rearing chart was prepared and distributed to seri.farmers.

19

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
				<p>Results based on project report and interview</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ 4 CRCs are in function at community level • 3 CRCs are in function and 100% of seri.farmers make use of them. The CRC of Baireni VDC is not in use because of seri.farmers's decline. The CRC of Dhumbesi takes care the Baireni seri.farmers. ☐ Cocoons purchased based on quality and grading by the Government technicians <ul style="list-style-type: none"> • 100% of quality checking is conducted. So far, the government technicians check cocoons' quality and purchase. ☐ 80% of seri. farmers and technicians understood silk market <ul style="list-style-type: none"> • At present, it's presumed that they might understand only 5% on silk market. No survey on it. The government technicians scarcely understand on the activity with private entrepreneurs. ☐ Original silk are produced in target area <ul style="list-style-type: none"> • Nalang and Salang VDCs launched zaguri silk production, but their markets are limited in target area.
	<p>Are the capacity of Seri-farmers, Government technicians and NGO staff for promoting Quality Cocoon Production and Cocoon Quality Inspection technology strengthened?</p>		<ul style="list-style-type: none"> - Activity Record book of JT/JTA - Activity Record book of Seri-Farmers' Group - Farmer's sample survey 	<p>Self evaluation by the Project are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> ☐ Seri-farmers are involved in group(at least 1 group/VDC) • Numbers of group: 4 in Nalang VDC, 2 in Salang VDC, 1 in Baireni VDC, 1 in Bhumisthan VDC, involving all seri.farmers. However, grouping hasn't proceeded yet in Sankosh VDC and Murji Bhanjyang VDC. ☐ The level of Government technicians enhanced on improved technology and facilitation skills(3 trainings/year, besides OJT) <ul style="list-style-type: none"> • The government technicians' capability will be judged on test in future. Implemented more than 5 times of OJT per year. The appropriate advices by the technicians to farmers prove an improvement of their technology. ☐ The number of training opportunity for seri. Farmers and technology adopted (more than 5 trainings/year) <ul style="list-style-type: none"> • 8 times of training to farmers in 2 years : 6 times in Dhumbesti SDO, 2 times in Khopasi SDD. The survey will find out an improvement of capability in near future. ☐ At least 1 technical resource farmer expected to develop per group

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
		Are linkage among Governmental Agency, NGO and Private Entrepreneur strengthened?	<ul style="list-style-type: none"> - The Government's Policy for PPP in Sericulture - Private Entrepreneur's sample survey - Farmer's sample survey 	<ul style="list-style-type: none"> • 6 silk mobilizers in all groups. <p>Self evaluation by the Project are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> □ The establishment and clarification of TOR for stakeholders (Government technicians and NGO) • 3 times/year : Dhumbesi SDO organized a RCC by the government technicians and farmers' group. 5 times of meeting were held between the government and private entrepreneurs on products development of zaguri silk. □ The frequency and number of the JCC and RCC (more than 3/year) • JCC has been held 5 times. □ The quality cocoon procured by private entrepreneurs (3 times for 250kg/year) • TOR of NGO as a role of farmers organization and the Technicians as a role of technical guidance are clarified. NGO Starts a survey for organizing farmers groups.
	Timing Was input of an adequate quantity and quality performed in the right time to conduct the activities as planned? Is it being implemented?	<p>Were the number of experts dispatched, their fields of expertise and the timing of the dispatch appropriate?</p> <p>Were the types, quantity, and timing of the installation of provided equipment appropriate?</p> <p>Were the numbers of accepted trainees, the training contents, training period, and the timing of the trainee acceptance appropriate?</p> <p>Were the skills and</p>	<ul style="list-style-type: none"> - Performance Table - Quarterly report - Experts, Counterparts <ul style="list-style-type: none"> - Performance table - Equipment, usage and management table - Experts, Counterparts, JTAs and Farmers - Table on the actual acceptance of trainees - Experts, Counterparts 	<ul style="list-style-type: none"> Mr. Osamu Shimizu, long-term expert as a Chief Adviser was dispatched from Japanese Fiscal Year 2006 to 2008. Ms. Eriko Kawaguchi, short-term expert in the field of Textile Product Development has been dispatched. Ms. Yuko Shibuya, long-term expert as a Project Coordinator/Farmers Group, and Dr. Hiroaki Yanagawa, short-term expert in the field of Chief Advisor/Sericulture Extension Policy have been dispatched since Japanese Fiscal Year 2008. Grand total M/M will be 48.7 M/M by July 15, 2009. Detail is attached in Annex 4. - The requested equipments were provided on time as scheduled and they are utilized.
			<ul style="list-style-type: none"> - Overseas Training - Two counterparts visited to India as an officer level training. Five counterparts visited to Lao-PDR, Thailand, and India as an officer level observation tour program. Detail of the training is attached in Annex 10. - Domestic Training - Three type of training were conducted. Ten training was conducted up to 31 May, 2009. Total numbers of participants are 102. Detail of the training is attached in Annex 11. - Assignment of Counterpart is attached in Annex 6. 	

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
	Are there any problems in quality, size, and convenience of buildings and facilities?	numbers of the Counterparts appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> - assignment of Counterparts - Experts, Counterparts, 	<ul style="list-style-type: none"> -Thirteen personnel have been assigned as counterparts to the long- and short-term experts. Answers from DOIED are as follows: -The DOIED assigned the suitable counterpart as project required. -Technical staff of Dhunibesi also should assign for counter part by PSSCRC, Dhunibesi. Answers from Counterparts are as follows; -Not confirmed. (Dhumbeshi) - Not assigned in written form.(Khopasi) - Yes. (Khopasi) - I am not confirmed. (Dhumbeshi) -Land, buildings, and facilities required for the implementation of the project have been provided by Nepal side. Office space is also provided for the experts.
	Was the project budget of an appropriate size?		<ul style="list-style-type: none"> -Layout plan of equipment -Experts, Counterparts 	<ul style="list-style-type: none"> Financial input (Nepal side local cost) - Nepal side local cost is attached in Annex 7. Answers from DOIED are as follows; - Nepal government want to continue to allocate adequate budget but now a days, government feel to drop budget of cocoon procurement. so, sericulture will not achieved progress if privet sector will not buy the cocoon. - No, Not approved all program as DOIED proposed in Sericulture program . Answers from Counterparts are as follows; - Yes governments existing services continue during the project period. (Dhumbeshi) - Strongly suggested to provide existing services to being rural employment generation. (Khopasi) - Certainly. (Khopasi) - continues. (Dhumbeshi)
Cost	Does the output justify the cost to be invested compared to similar	Is the unit cost for conducting training session adequate?	<ul style="list-style-type: none"> -Table on actual cost-sharing -Budget table of the DOIED - Experts, Counterparts 	<ul style="list-style-type: none"> Input of the Project - The Japanese government through JICA has spent Nrs. 17,601,998.00 since the project started up to March 2009. Detail is attached in Annex 8. - Planned budget (staff budget, program budget, capital budget) for DOIED, Khopashi, and

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
				<p>Results based on project report and interview</p> <p>Dhumbeshi is 39,002,000.00 from 16 July 2006 to 15 July 2009. Actual local cost expenditure for the Project is unknown.</p>
	<p><u>Achievement level of output</u></p> <p>Are there any factors that inhibited the achievement of the output?</p>		<p>- Experts, Counterparts</p>	<p>Answers from Counterparts are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> - Some problem had aroused during implementation phase. The reasons might be decision in budgetary role. (Dhumbeshi) - Lack of strong monitoring. - Lack of joint effort. - Lack of clear role and responsibility of C/P and related organizations. (Khopasi) - Lack of reconciliation and MOU between donor agency and consumerism. (Khopasi) - Some problems occurs, causes management and decision making process. (Dhumbeshi)
<p>Impact</p> <p>(To examine the project's effects including the ripple effects in the long term)</p>	<p><u>Achievement forecast for the overall goal</u></p> <p>Looking at the input and output performance and at the activity status, are there prospects that the overall goal will be produced as an effect of the project?</p>	<p>-Department of agriculture</p> <p>- Experts, Counterparts</p>	<p>Answers from DOIED are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> - Till now, government's policy wants to continue the sericulture promotion. - Nearly, 300 M.T./Year raw silk is importing from china and India. It shows the silk market is not get smaller, but we need to sale competitive way. - Yes they want to implementation continue to support scri-farmer, but they need some motivation like special foreign training, tour etc. - Not, because the developed country nearly dropped the silk production. Due to this fact the silk price des not fall. - Yes but little modifying by involving private in post Cocoon activities. - No lot of silk is importing from China if we produce more silk we can substitute such silk and can produce new unique item . - Yes, but need some logistic support for increasing movement to field like TADA, fuel, which is not sufficient in present situation. - Not, because silk producing country like Japan and other country decreasing silk production 	
	<p><u>Achievement forecast for the overall goal</u></p> <p>Are there factors that impede the achievement of the overall goal?</p>	<p>-Department of Agriculture</p> <p>-Experts, Counterparts</p>	<p>Answers from DOIED are as follows;</p> <ul style="list-style-type: none"> - yes, the government revise time to time according to the International Market - Government, try to create the environment for private entrepreneur to invest on indigenous silk production. - Yes, price and grading system is revised time to time and may revise if necessary. - Government, trying to involve private in sericulture, especially in post cocoon activities. Government Can provide Jaguri, spinning charkha & training for private related with silk production. 	

23

57

PS.

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview
	Main Items	Sub-Items		
Sustainability (To examine the sustainability after the termination of JICA's cooperation)	<p><u>Organization and financial aspects</u> Is there sufficient organizational capacity to implement activities to produce effects also after the cooperation has ended?</p>	<p>Does the organization have operation and management potential? Are efforts for securing financial resources proceeding smoothly?</p>	<p>Organizational operational rules -Staff assignment table -Monitoring reports - Experts, Counterparts - -Budgetary Table -Experts, Counterparts</p>	<p>Answers from Counterparts are as follows; -At the time of program implementation system delayed due to miss understanding in the decision made by Govt/JICA-project. (Dhumibeshi) - There is lack of joint monitoring system and decision making process within the project. (Khopasi) - Yes, Lack of proper coordination harmony between donor office and stakeholders. (Khopasi) -There are some problems. Ex- Management. (Dhumibeshi) -Extension staffs (JT/JTA) mentioned that while insufficient transportation allowances and daily allowances (TADA) were given to them to do their extension activities, however, they are still committed to disseminate technology. Sufficient TADA should be provided by the Government of Nepal.</p>
	<p><u>Technology</u> Are the methods of technology transfer used in the project being accepted?</p>	<p>Did the training capacity of the C/P improve? Will the transferred technology spread within the implementing agency?</p>	<p>-Activity Record book of JT/JTA -Experts, Counterparts, JT/JTAs - Experts, Counterparts, JT/JTAs, Farmers</p>	<p>Answers from Counterparts are as follows; - Yes, knowledge, attitude, practice had increased in course of training. (Dhumibeshi) - Capacity of extension staffs upgraded to some extent but further quality and skill to be developed by providing specific training. (Khopasi) - Yes. (Khopasi) - Improved the capacity. (Dhumibeshi) Answers from Counterparts are as follows; - There was some problem transferring technology, that is lack of technical manuals. - Technology will be spread within the concern agency. (Dhumibeshi) -The C/P should be very serious in solving the problems for sericulture technology transfer from farmers to farmers. - It is expected to spread the transferred technology in the project area. (Khopasi) - Yes, No proper situation analysis of the farmers. - May be. (Khopasi) - Main Problems is economic problem. (Dhumibeshi) - Some What difficult to the transfer technology. Answers from extension staffs (JT/JTA) are as follows; ■ Present situation on extension activities. i. Times to visit ser-farms - One time confirmed on the silkworm rearing time and another is as per necessary. - On the rearing time by the order and approval of farm chief going to visit sericulture farmers</p>

Evaluation Criteria	Evaluation Items		Data Sources	Results based on project report and interview as program.
	Main Items	Sub-Items		
				<ul style="list-style-type: none"> - Three to Four times going to sericulture farmers on silkworm rearing season. 2. Numbers of seri-farms handling <ul style="list-style-type: none"> - 15-16 farmers on pocket area. - Visit each and every sericulture farmers house of pocket area. - 10 to 12 farmer households at one time visit. 3. Budget allocated for extension activities such as gasoline or traveling allowance? <ul style="list-style-type: none"> - Rs. 70,000 – Rs. 75,000. - Rupees 160,000 are allocated for traveling for whole program by the government. - Rupees 70,000 to 80,000 are allocated per year for traveling. ■ Extent of technology transfer to seri-farmers <ul style="list-style-type: none"> - Spread technologies on target areas, but not spread as expected. - No - Yes ■ Extent of technology acceptance by seri-farmers <ul style="list-style-type: none"> - Accepted but not accepted as expected. - No - Accepted by most of the farmers.
	Is equipment appropriatedly maintained and managed?		<ul style="list-style-type: none"> - Maintenance and management reports - Experts, Counterparts 	<ul style="list-style-type: none"> Answers from counterparts are as follows; <ul style="list-style-type: none"> - All type's record are properly kept. (C/P, Dhunibeshi) - Yes. (C/P, Dhunibeshi) - Sophisticated equipment are not properly maintained and managed. (C/P, Khepasi) - No. (C/P, Khopasi) - It is expected that quality cocoon can be produced by grouping among seri-farmers. Facilities such as CRCs and cocoon driers provided by the Project are planned to be handed over to the local community, so that the beneficiaries are expected to manage and maintain themselves after the Project is over.

end

4 List of the Japanese experts (M/M)

No	Expert Name	Expertise	Duration	MM
Japanese Fiscal Year 2006				4
1	Mr. Osamu Shimizu	Chief Advisor	Dec 1, 2006~Mar 31, 2007	4
Japanese Fiscal Year 2007				12
1	Mr. Osamu Shimizu	Chief Advisor	Apr 1, 2007~Mar 31, 2008	12
Japanese Fiscal Year 2008				17.2
1	Mr. Osamu Shimizu	Chief Advisor	Apr 1, 2005~Jan 8, 2006	8
2	Ms. Eriko Kawaguchi	Textile Product Development	Jun 9, 2008~Jul 24, 2008	1.5
3	Ms. Eriko Kawaguchi	Textile Product Development	Aug 24, 2008~Oct 5, 2008	1.5
4	Ms. Eriko Kawaguchi	Textile Product Development	Jan 15, 2009~Feb 28, 2009	1.5
5	Ms. Yuko Shibuya	Project Coordinator/Farmers Group	Jan 9, 2009~Mar 31, 2009	2.7
6	Dr. Hiroaki Yanagawa	Chief Advisor/Sericulture Extension Policy	Jan 21, 2009~Mar 20, 2009	2
Japanese Fiscal Year 2009 (Plan)				15.5
1	Ms. Yuko Shibuya	Project Coordinator/Farmers Group	Apr 1, 2009~Mar 31, 2010	12
2	Mr. Hiroaki Yanagawa	Chief Advisor/Sericulture Extension Policy	May 17, 2006~Jul 15, 2006	2
3	Ms. Eriko Kawaguchi	Textile Product Development	Jun 1, 2009~Jul 15, 2009	1.5
Grand Total (M/M)				48.7



26

60



Promotion of Quality Cocoon Production and Processing Project
5 List of Equipments & Material Purchased during 2006-2009

S.No	Name of Equipment	Quantity	Maker	Provided to
1	Mahindra Pickup	1	Mahindra	
2	Hp Laptop Computer	2	HP	
3	Canon Printer(MF8100)	1	Canon	
4	Canon Fax	1	Canon	
5	Transformer (100 V)	1	People	
6	Multimedia Panasonic	1	Panasonic	
7	Movie Screen	1	Cinon	
8	ACER Lap top Computer	1	Acer	DOIED
9	ACER Lap top Computer	1	Acer	
10	Olympus Degital Camera	1	Olympus	Khopasi
11	Sony Degital Camera	1	Sony	DOIED
12	Sony Degital Camera	1	Sony	Dhunibesi
13	Sony Degital Camera	1	Sony	
14	Mobile Phone Nokia	1	Nokia	
15	Mobile Phone	1	Nokia	
16	Mobile Phone Nokia	1	Nokia	DOIED
17	Mobile Phone Nokia	1	Nokia	
18	Microsoft Office soft ware Japanes	1		
19	Microsoft Office soft ware	1		
20	OS software	2		
21	Gas Slove	1		
22	Wooden Drawer	2	Local	
23	Chair	2	Local	
24	Office Desk Table	1	Local	
25	Office Desk Table	2	Local	
26	Glass Door Cabinate	2	Local	
27	Glass Door Cabinate	1	Local	
28	Steel Rack	2	Local	
29	Hot Water Pot	1	Electron	
30	Telephone Set	1	Microtel	
31	Cord less telephone Set	1	Hagenuke	
32	Office Network Wire Less	1	MSI	
30	ADSL Router	1	TP-LINK	
31	Electric Weight Balance	1		Dhunibesi
32	Toshiba Laptop Computer	1	Toshiba	
33	Simple Chair	1	Local	
34	Generator	1	Yamaha	
35	Gas stove	2		
36	Folding Chair	1	Local	
37	Revolving Chair	1	Local	
38	Voltage Regulator	1	people	
39	Wooden Office Rack	1	Local	
40	Wooden Office Drawer	1	Local	
42	Office Chair	2	Local	
43	Meeting Table	2	Local	
44	Meeting Chair	2	Local	
45	Microsoft Office	1	Microsoft	

46	Hero Honda Motorcycle	1	Hero Honda	Dhunibesi
47	Desk Top Computer(LCD Monitor)	2	Samsung	DOIED
48	Desk Top Computer(LCD Monitor)	2	Samsung	Khopasi
49	3 in one Printer	1	Brother	Khopasi
60	3 in one Printer	1	Brother	DOIED
61	Movie Camera	1	Sony	
62	Zaguri	10	Local	Dhunibesi
63	Zaguri	4	Local	Salang VDC
64	Zaguri	4	Local	Nalang VDC
65	Zaguri	1	Local	Kumpur
66	Zaguri	1	Local	Syanja
66	Zaguri	10	Local	
67	Zaguri Stand	10	Local	Dhunibesi
68	Stove cover	10	Local	Dhunibesi
69	Stove	10	Local	Dhunibesi
80	Stove	10	Local	
71	Karai (Fried Pan)	10	Local	Dhunibesi
72	Karai (Fried Pan)	10	Local	
73	Dickchy	2	Local	Dhunibesi

Annex 6

6. Counterpart Assignment

No.	Name of C/P	Government Post	Position in PQCPPP	Japanese C/P	Term with PQCPPP		Remarks
					From	To	
1	Mr. Baidri Bishal Karnacharya	Program Director (DOIED)	Project Director	Mr. Osamu Shimizu	1-Dec-06	31-May-06	Transferred
2	Mr. Jagadesh Bhakta Shrestha	Officiate Program Director (DOIED)	Project Director	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	14-Dec-08	Transferred
3	Mr. Durga Prasad Dawadi	Officiate Program Director (DOIED)	Project Manager	Dr. Hiroaki Yamagawa	1-Apr-09	till date	
4	Mr. Madhu Sudan Gimire	Chief of Dhunibeshi, PSSCRC	Field Coordinator	Mr. Osamu Shimizu	1-Dec-06	till date	
5	Mr. Deepak Sharma	Extension Officer	Officer DOIED	Mr. Osamu Shimizu	1-Dec-06	26-May-09	Transferred
6	Mr. Keshav Raj Kalte	Junior Entomologist	Officer DOIED	Mr. Osamu Shimizu	7-Jan-07	till date	
7	Mr. Bhakta Raj. Pallke	Chief of Kopasi SDD	Project Activities Support	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
8	Mr. Kamen Sing Thapa	Officer of Kopashi SDD	Technical & Material Staffs	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
9	Mr. Nara Hari Chimire	Officer of Kopashi SDD	Technical & Material Staffs	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
10	Mr. Deepak Adhikari	Officer of Kopashi SDD	Technical & Material Staffs	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
11	Mr. Nilesh Kumar	Officer of Dhunibeshi SDO	Extension Staffs	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
12	Mr. Ravi Katesh Shahu	JT of Dhunibeshi SDO	Training & Implement	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
13	Mr. Bagwan Prasad Poldharel	JT of Dhunibeshi SDO	Field Activities	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
14	Mr. Indra Bahadur Khadka	JT of Dhunibeshi SDO	Field Activities	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
15	Mr. Baidya Nath Purbe	JT of Dhunibeshi SDO	Field Activities	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	
16	Ms. Tara Timilsina	JTA of Dhunibeshi SDO	Field Activities	Mr. Osamu Shimizu	1-Jun-06	till date	

29

63

13

Annex 7
(OOGNIS.)

7. Nepal side local cost

2063 066 (16 Jul 2008-15 Jul 2009)		3 Agriculture Development Office		DOEB Only		Khopashi		Dhuniabashi	
B.No	Budget Heading	063/054(08/07)	064/065(07/08)	063/064(08/07)	064/065(07/08)	063/064(08/07)	064/065(07/08)	063/064(07/08)	064/065(08/09)
	Staff Budget	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Rs(000)	Rs(000)	Rs(000)	Rs(000)	Rs(000)	Rs(000)
1.01	Salary	11,678.00	13,114.00	1,850.00	1,850.00	2,800.00	3,050.00	1,103.00	1,415.00
1.02	Rental Allowance	80.00	60.00						0.00
1.03	Transferred Allowance	100.00	121.00	20.00	20.00	10.00	25.00	5.00	6.00
1.04	Dress		52.00		6.00		15.00		5.00
1.05	Food Material		0.00		15.00				0.00
1.08	Staffs Training		65.00				10.00		10.00
	Total	11,838.00	13,472.00	1,851.00	1,881.00	2,810.00	3,108.00	1,111.00	1,475.00
Program Budget									
2.01	Water, Electricity	1,760.00	1,690.00	50.00	80.00	650.00	650.00	120.00	125.00
2.02	Telephone	337.00	365.00	71.00	60.00	72.00	80.00	35.00	40.00
2.03	Office Stationary	400(465)	900.00	155.00	190.00	100(120)	220.00	40(45)	90.00
2.04	Trucks Rent	160.00	150.00					25.00	30.00
2.05	Repair & maintenance	437(513)	1,000.00	125.00	150.00	182(188)	390.00	35(35)	75.00
2.06	Fuel	300(310)	683.00	135.00	160.00	145(125)	300.00	20(25)	55.00
2.07	Contract	160.00	200.00	200.00	200.00	80.00	82.00		40.00
2.08	Miscellaneous	49(100)	190.00	33.00	45.00	10(02)	30.00	5(10)	16.00
4.01	Production Materials	(15914)	13,503.00			(3150)	2885	(2300)	2,132.00
	Cocoon Purchase, Labour, Disinfectant		7,616.00	425.00	580.00	(738)	1,043.00	(1185)	1,585.00
4.04	Program Budget	(5880)		250.00		(616)	520	(160)	165.00
4.05	Training, CRC Cost, Transportation	(1823)	1,650.00	1,441.00	1,485.00	4404	5,910.00	3735	4,358.00
	Total	23,420.00	27,987.00	4,441.00	4,485.00	6,886.00	6,886.00	3,735	4,358.00

Capital Budget		6.01 Furniture		6.02 Vehicle		6.03 Machinery Equipments		6.04 Construction		6.05 Facilities Renovation	
B.No	Budget Heading	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)	Budget (Rs.000)
6.01	Furniture	(15.00)	50.00	200.00	200.00	150.00	150.00	0.00	0.00	44.00	50.00
6.02	Vehicle		0.00	250.00	250.00	96.00	100.00	125.00	0.00		0.00
6.03	Machinery Equipments	(125.00)	100.00	300.00	300.00	0.00	0.00	300.00	30.00	18.00	30.00
6.04	Construction	(373.00)	200.00	700.00	700.00	50.00	50.00	0.00	50.00	50.00	180.00
6.05	Facilities Renovation	(300.00)	150.00	1,000.00	1,000.00	50.00	50.00	300.00	300.00		50.00
	Total	814.00	500.00	2,450.00	2,450.00	52	50.00	825.00	330.00	73	310.00
	Grand Total	25,622.00	41,838.00	48,213.00	48,213.00	4,076.00	9,060.00	4,831.00	10,306.00	3923	5,871.00

(Number) is KR2 Budget

30

64

Annex 8
Unit:Nfs.

8. Financial input of the Project (Japan side only)

No.	Budget Heading	Fiscal Year							Total
		2006	2007	2008	2009 (Plan)*	2010	2011		
		Dec 2006 - Mar 2007	April 2007 - Mar 2008	April 2008 - Mar 2009	April 2009 - Mar 2010	April 2010 - Mar 2011	April 2011 - Nov 2011		
1	Operation & management on equipment		746,695.00	260,532.00	161,000.00			1,168,227.00	
2	Communication cost	23,310.00	61,982.00	54,782.00	40,000.00			180,044.00	
3	Transportation	13,300.00	519,892.00	142,284.00	191,000.00			866,476.00	
4	Expendables	116,536.00	637,237.00	447,186.00	603,500.00			1,804,461.00	
5	Printing cost	0.00	0.00	151,714.00	462,000.00			613,714.00	
6	Rent	0.00	0.00	20,000.00	57,000.00			77,000.00	
7	Office stationary	459,800.00	52,806.00	99,718.00	80,000.00			692,324.00	
8	Training cost for staff	0.00	28,660.00	28,600.00	0.00			57,260.00	
9	Miscellaneous	93,026.00	1,008,768.00	709,974.00	168,750.00			1,980,518.00	
10	Contract with local consultant	0.00	40,000.00	142,400.00	350,000.00			532,400.00	
11	Contract with local NGO	0.00	0.00	1,144,252.00	3,800,000.00			4,944,252.00	
12	Construction	4,209,986.00	561,455.00	585,000.00	0.00			5,356,441.00	
13	Travel allowance	106,226.00	931,255.00	852,187.00	2,108,700.00			3,798,368.00	
14	Fees and honorarium	179,200.00	984,850.00	1,319,890.00	1,501,000.00			3,984,940.00	
15	Refreshment	0.00	27,802.00	70,255.00	182,400.00			280,457.00	
16	Equipment	123,500.00	321,531.00	525,435.00	0.00			970,466.00	
	Total	5,324,884.00	5,922,933.00	6,354,181.00	9,705,350.00	0.00	0.00	27,307,348.00	

* In regard with the figure for FY2009, only planned budget is referred.

31

65

1.2.2	Providing equipments to self-farmers group.	DOIE D	Some Mabushi, plastic sheet, scicature, thermometer and roap rearing rack are provided to farmers groups.	New Mabushi was useful to produce quality cocoon. Formalin sprayed rearing instruments packed by plastic sheets were well disinfected. Farmer recognized at optimum rearing temperature with thermometer. Mulberry leaves were harvested well with new scicature.	Increase quality cocoon productivity and decrease silkworm disease occurrency.	70
1.2.3	Providing subsidy on construction of farmers' rearing house.	DOIE D	GoN has provided Rs. 3,000 as subsidy to the farmers who want to build new rearing house.	Those farmers who succeeded constructing new rearing houses improved production.	The more demand for such a subsidy has been requested by sari farmers.	50
1.2.4	Advice on farmers' rearing house construction and maintenance.	DOIE D/JIC A	Advice on construction disinfectant technology, ropa type rearing rack, simple movable type rearing house were to be recommended.	Information about low cost simple movable rearing house and rope type rearing rack have been disseminated to self-farmers.	Productivity of the cocoon are increased in rearing house.	60
1.2.5	To identify technical problems on silk rearing and disease control.	DOIE D/JIC A	Almost all farmers do not know optimum rearing space and amount of leaves to be supplied. Their rearing houses are not well ventilated and have soil floor. In this case bleaching powder disinfectant is recommended for disease control.	Those technical weakness and problems identified will be reflected in the farmer's training to be conducted Dhumibesi. Silk Mobilizers will be re-trained soon with focus on those identified aspects.	Farmers have been well aware that they should build separate silk rearing house in order to draw good results out of cocoon production though they are not capable to do so due to various reasons (lack of fund, lack of land, etc.).	40

1.3.4	To establish standard technical manuals based on the result of A 1.3.3.	DOIE D/JIC A	Published a standard poster type technical manual mentioned above contains information on brushing and rearing technology.	The poster type standard technical manual helps farmers to fasten knowledge on brushing and rearing technology.	10
1.3.5	To publish and distribute technical manuals.	DOIE D/JIC A	500 poster type standard technical manual was published and distributed to concerned seri farmers in Dhading and other districts.	The poster type standard technical manual helps farmers to fasten sericulture technical knowledge.	10
1.3.6	To construct Community Rearing Center(GRC) for provision of young silkworm to seri-	JICA	Japanese type GRC cum training hall construction was completed on 2007 at Dhunibesi SDO.	At Dhunibesi SDO, GRC construction is completed.	100
1.3.7	To supply incubation equipment for SDO Dhunibeshi	JICA	In 2008, incubation and cold room were constructed at Dhunibesi SDO.	Incubation room and egg storage room were constructed to improve hatching ability.	95
1.3.9	To maintain egg production equipment for Khopashi SDD	JICA	The Project repaired cold storage equipment and machinery for Khopashi SDD.	Khopashi's cold storage unit and incubation equipments were repaired.	100
1.3.11	To repair Community Rearing Center(GRC) for provision of young silkworm to seri-farmers	JICA	Renovation of Nalang GRC and construction of new GRC in Salang have been progressed.	At Nalang, GRC renovation was completed. In Salang, 70% construction was completed.	70
1.4	To practice Cocoon Quality Inspection				
1.4.1	To construct cocoon drier for seri-farmers' group.	JICA	Nalang and Salang Village based cocoon drier houses were constructed in Nalang and Salang VDC. The same drier was constructed in Kopashi.	Kopashi's drier house has been functioning but driers in Nalang and Salang are not in use due to technical problems.	30
1.4.2	To obstruct cocoon storage for seri-farmers' group.	JICA	In Nalang and Salang VDC, cocoon storage houses were constructed for storage of drying cocoon.	Cocoon store house of Salang has been utilized as meeting hall for sericulture groups as well as other committees. Nalang's storage house is not in use due to bad location.	100
1.4.3	To operate and maintain the drier and storage and documenting the operation manual.	SFG/DOIE D/JIC A	Though the Project has tested once in Nalang and Salang driers, it was not successful. There is no documentation of the operational manual. Handover of those driers has not been done.	Cocoon driers in Nalang and Salang are not yet utilized due to technical problems. The storage house in Salang is fully utilized but not in Nalang.	30

<p>1.4.4 To organize awareness campaign for quality cocoon and inspection.</p>	<p>DOIE D/JIC A</p>	<p>Though campaign has not been done. Through OJT by the Project staff, almost all farmers can now remove cocoon floss and sarata bad and good cocoon. At cocoon collection place, cocoon grading has been improved after repeated OJT. Continuous instruction on cocoon grading technique for Silk mobilizer and JT/JTAs has been provided in every cocoon collecting season.</p>	<p>Silk mobilizers have raised awareness for grading and provided technical inputs how to separate good and bad cocoon before taking their cocoon to grading spots.</p>	<p>Many farmers does know separation system of the quality cocoon. The knowledge and skill of JT/JTA on cocoon grading has been strengthened.</p>	<p>60</p>
<p>1.4.5 To introduce new cocoon inspection system at field level Farmers group and</p>	<p>2-</p>				<p>0</p>
<p>1-5</p>					

Handwritten mark

Handwritten initials

1.6.5	To provide hand twisting machine serf-farmer's group.	JICA	A handy twisting machine was made as sample.	Twisting machines has not been provided to farmer.	5
1.6.6	To provide hand weaving machine serf-farmer's group.	JICA	Not planned		0
[Activity 2]					
2-1	NGO to organize groups among Serf-				
2.1.1	To fix TOR of NGO for social mobilization.	DOIE D/JIC A	TOR of NGO was fixed through a series of discussions among Dhurbesi office, DOIED and the Project.	Recruitment was completed.	100
2.1.2	To assign NGO.	JICA	After putting advertisement in local newspaper in Dhading, three NGOs have applied. Among these three, Integrated Community Development Campaigne was selected.	For FY2008, activity period of NGO was only Feb and March 2009. The activity was completed and the report was submitted.	100
2.1.3	To conduct group formation / social mobilization by NGO	NGO	To understand the current situation of serf farmer groups, baseline survey was completed. But the activities of group formation and social mobilization will start from FY2009.	Baseline survey revealed that two groups out of 11 groups are well organized and functioning and others will need a lot of inputs for strengthening group functions.	5
2-2	To conduct facilitation training and technical training	NGO/DOIE D			
2.2.1	To identify the training needs among JT/JTA/SFs.	DOIE D/NG O/JIC A	From observation, the following areas are identified as needs for training: technique on young and adult silkworm rearing, mounting, and grading.	Based on the identification of newly training, two technical training have been implemented.	30
2.2.2	To conduct inter-human skill training for DOIED officer and JT/JTA.	DOIE D/NG O/JIC A	Human skill development training were done for 15 officers and 16 JT/JTAs.	Knowledge and skill on community development were enhanced.	100

CU 00

2.2.3	To conduct technical training for JT/JTA.	DOIE D/JIC A	6 JT/JTA took training on feeding of adult silkworm and mounting technique. 12 JT/JTA took training on seed cocoon production and management.	Training equipped JT/JTAs with refreshing knowledge and skills on technical matter.	Knowledge of JT/JTA on feeding adult silkworm and mounting and seed cocoon production and management was strengthened.	25
2.2.4	To organize overseas training for DOIED officer and JT/JTA.	DOIE D/JIC A	Two officers participated in sericulture technical training and one officer in administrative training in India in 2008.	Due to the good evaluation of the training, more such opportunities are requested by the government for coming years.	Knowledge and confidence of those participated officers on sericulture were enhanced.	50
2-3	To conduct technical training for NGO staff.					
2.3.1	To identify the training needs among NGO staff.	DOIE D/JIC A/NG O	None			
2.3.2	To conduct "On the Job Training" for NGO staff.	DOIE D/JIC A/NG O	None			
2-4	To conduct technical training for Seri-Farmers.	DOIE D/JIC A	Training on silkworm rearing and mulberry management was identified as need and conducted to leader farmers and silk mobilizers.	Only one training was done.	The number of farmers who can produce 20kg per box increased.	75

10 Training Detail (Overseas)
(Up to May 2009)

Annex 10

Subject	Date	Nos.	Station				DOA	JICA
			DOIED	Dhunibesh	Khopashi	Chitapol		

Officer Level training (India)								
Administration Skill Up	13th Oct.08~27th Oct.08	1	1					
Technical Training on Bi-Voltine Seri.Rearing	2nd Nov.08~22nd	2		1				
Sericulture Rearing Technology								

Officer Level Observational Tour Program								
Study Excursion to Lao-PDR & Thailand	Jan/15~Jan/25/2008	5	1	1	1	1	1	1
Survey visit to India	Mar/02~Mar/07/2008	5	1			1		3

11 Training Detail (in Nepal)
(Upto 31 May, 2009)

Annex 11

Subject	Date	Nos.	Station										Others	Remarks	
			Khopashi	Dhunibeshi	Bardilpur	Pokhara	Syangja	Bhandar	Itahari	Dhankuta	Chitpol				
Human Skill Dev. Training	8-13 March, 2009	15	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	1	2	DOIED, DADO Dhading
Total		15	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	1	2	
Feeding of Adult Silkworm and Mounting Technology Training	1.Oct. ~ 3.Oct.2007	6	6												
Seed Cocoon Production and Management Training	11.Aug. ~ 15.Aug 2008	12	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1		
Human Skill Development Training	8-12 Feb., 2009	16	1	3	1	2	2	2	3	1	1	0	1	2	DADO Dhading, DOIED
Total		34	9	5	3	4	4	4	5	5	2	1	2	2	

Subject	Date	Nos.	Dhading District					Private Sector		Madi Coop	Others	Remarks
			Nalang	Salang	Baireni	Kumpur	other VDC					
43 Farmer Level training												
Silk Mobilizer Orientation Training, Dhunibesi, Dhading	19 Aug. ~ 21 Aug., 2007	6	2	2	1	1	1					
Zaguri Training (Basic Course), Dhunibesi, Dhading	2 Dec. ~ 12 Dec., 2007	10	3	2	1	1	1	1			2 1 Sankosh, 2 Nuwakot	
Zaguri Training (Refresher Course), Dhunibesi, Dhading	3-7 Feb., 2009	8	3	2	1	1	1					
Zaguri and Weaving Training (Basic Course) Kalaguthi, KTM	13-22 Feb., 2009	12		1				1	8	2		
Zaguri Training (Basic Course), Dhunibesi, Dhading	1-9 Mar., 2009	10	4	4	2							
Zaguri Training (Skill-up), Nalang VDC, Dhading	17-25 May, 2009	7	7									
Total		53	19	11	5	3	3	3	8	2	2	

Annex 11

12 Major Meeting / Workshop list

S.No	Name of workshop/Meeting	Date	Venue	Participants
1	Regional Coordination Meeting/Workshop	22nd Sept, 2008	Dhumibesi	Chief Advisor, Project Staffs / Officers, JT & JTA's of Dhumibesi / PD of DOIED / Sericulture Farmers / DADO Officer, Dhading /
2	National Technical Workshop on Sericulture	16, 17 Nov, 2008	Khopasi	Chief Advisor, Project Staffs / PD & Officers of DOIED / Officers of SDO / Chief Officers and Staffs Of Khopasi /
3	Interaction Meeting (Govt, PS, PQCP)PP)	7 Feb, 2009	Dhumibesi	Chief Advisor, Short Term Expert (Product Development), Project Coordinator of PQCP / Officers & JT, JTA of Dhumibesi / Everest Art Paper (P S) / Program Director & Officer of DoIED /
4	Interaction Meeting (Govt, NGO, Silk Mobilizer, PQCP)PP)	2 March, 2009	Dhumibesi	PM, Officer, PC / Chief, Officer, JT, JTA of Dhumibesi / NGO' Staff / Silk Mobilizers /
5	Interaction Meeting (Govt, NGO Silk Mobilizer, PQCP)PP)	22 April, 2009	Dhumibesi	PD, PC / Officers Of SDO, Chief / Officers / JT, JTA Of Dhumibesi / NGO Staffs /
6	Sericulture Policy Work Shop	24, 25 May, 2009	Kathmandu	Chief Advisor, PC / MOAC, DOA, DoIED / NPC / Sericulture Officers / Sericulture Farmers / Private Entrepreneurs, Consultancy /

44

13 JCC list

Annex 13

JCC	Date	Chairperson	Main agenda
1st JCC	3rd April, 2007	Deep Bahadur Swamr	Discussion on Annual Plan of Operation (2007)
2nd JCC	9th May, 2008	Mr. Bhart Prasad Upadhyay	Approval on the contents of Plan of Operations Discussion on major issue pointed out in the comment from consultation study team
3rd JCC	12th Aug, 2008	Mr. Bhart Prasad Upadhyay	To deploy a long term Project coordinator for project management, amendment on record of discussion
4th JCC	6th Nov, 2008	Mr. Bhart Prasad Upadhyay	Efforts to fulfil recommendations agreed in the second JCC Consideration for the coming Mid-term Evaluation Study New Direction Idea proposed by the Consultation Study Team
5th JCC	27th May, 2009	Mr. Fulgen Pradhan	Approval of the revised indicators of PDM for Mid-term Evaluation

Project Design Matrix ネパール養蚕普及・振興プロジェクト

対象地域: ダデザイン郡SVDCC/バイレニ、サラシ、ナラン、クンブル、サンコシ (プミスタン、ムラリバンジャン)

実施期間: 2006年12月～2011年11月 (5年間)

対象グループ 1) 産業昆虫課 普及員
2) 対象地域養蚕農家

作成日: 2009年6月15日

要約	指標	指標入手段	外部条件
<p>【上位目標】 優良蚕生産及びオリジナルシルク生産のモデルがネパール国内で展開される。 改善を通じて、養蚕農家及び蚕業関係者の収入が向上する。</p>	<p>・モデルの展開数 (1ヶ所) ・政府による公平公正な品質評価結果に基づく養蚕農家グループと民間企業による類似の仕組みの導入 ・蚕及繭の販売による対象地域農家 (50%) 及び女性産繭り生産者 (20%) の現金収入向上</p>	<p>産業昆虫課年間レポート・予算 養蚕統計及びサンプル調査</p>	<p>政府の養蚕振興政策が継続する。</p>
<p>【プロジェクト目標】 養蚕農家グループと政府普及員/民間企業の能力向上・連携強化を通じて、優良繭・シルクの生産モデルが実証される。</p>	<p>・農家の製品質向上 (正常繭歩合80%、繭層歩合20%、解化歩合90%、繭量20%) ・民間企業によるオリジナルシルクの生産 (3種類/3社)</p>	<p>プロジェクトモニタリング結果、品質評価結果 プロジェクトモニタリング結果、サンプル調査</p>	<p>【上位目標達成のための外部条件】 ・政府の養蚕振興政策が継続する。 ・プロジェクトで発生した政府普及員・民間企業が、国内養蚕農家への支援を継続する。 ・シルクの市場価格が暴落しない。</p>
<p>【成果】 1. 普及員の能力強化を通じて、養蚕農家グループの能力が強化される。</p>	<p>・技術マニュアルの配布 (5種類) ・養蚕農家への技術の定着度 (セリカ/採点20%向上) ・普及員への技術の定着度 (研修時テスト30%向上)</p>	<p>プロジェクト活動報告 プロジェクトモニタリング結果、サンプル調査 プロジェクト活動報告</p>	<p>【プロジェクト目標達成のための外部条件】 ・政府が公平公正な類似取引のための仕組みを整理する。 ・政府がオリジナルシルク製品生産に関する民間資本投資を促進する期待を高める。 ・産業昆虫課がプロジェクトの提案を受け入れ、実施する。</p>
<p>2. 市場開拓のための政府、民間企業、農家グループ間の協力関係が構築される。</p>	<p>・商品評価法の改善 ・産繭り米製品の開発に参入した民間企業 (3社) ・農家、政府、民間企業の連携強度 (絵巻、活動4回/最終年度)</p>	<p>プロジェクト活動報告 プロジェクトモニタリング結果、聞き取り調査 プロジェクト活動報告</p>	
<p>3. 政府、農家、民間企業間の連携のための産業昆虫課の能力が強化される。</p>	<p>・養蚕農家グループの活動改善 ・政府の農家グループ・民間企業に対する積極的関与 (農家訪問2回/年間/民間訪問回/年) ・統計、モニタリングシステムの導入</p>	<p>スライズ/ウェブ自己評価 プロジェクトモニタリング結果、聞き取り調査 プロジェクト活動報告</p>	
<p>【活動1】 1-1 農家レベルでの蚕生産・ポストハーベスト・産繭り米生産のための経験法・手法を伝わり、マニュアルにまとめる。 1-2 OJT形式の技術研修として、普及員、シルカモデライザー、農家グループへのカスケード方式研修を実施する</p>	<p>【日本側投入】 1) 専門家を派遣 長期: 2名 (チーフアドバイザー/養蚕振興政策、染織/農産局長級) 短期: 年間 5MM程度 (養蚕普及、商品開発など、必要に応じて) 2) 供与機材・施設整備 共同策財補給施設及び乾燥施設、産繭り研修施設の増設 (ローカル資材) 3) 研修員受入 第3国研修: インドへの技術研修</p>	<p>【ネパール側投入】 1) カウンタートパート及び要員の配置 (PD, PM, 普及員配置、等) 2) 土相、建物及び施設の新設 プロジェクト研修室を提供 3) プロジェクト活動費 研修費、光熱費、管理費、カウンタートパート出張旅費等</p>	<p>【成果達成のための外部条件】 ・配置されたカウンタートパートが継続して勤務する。 ・民間企業がシルク産業に対して関心を伸ばし続ける。</p>
<p>2-1 バリュチェーンチェーン調査とそれに基づいた市場に適合した流通システムを構築する。 2-2 公平公正な商品品質評価システムを構築する。 2-3 民間企業の参入方法を検討し、民間企業による直接買い取りについて産農昆虫課による実行導入を支援する。 2-4 民間企業に対して産繭り米を用いた製品製作のための支援を行う。</p> <p>【活動3】 3-1 NGOとの農民組織強化を通じて、ファシリテーション能力を強化する。 3-2 農家、政府、民間企業間の問題解決 (繭や生糸の生産、品質、価格改善など) に係る定期的ミーティング (三者間、JCC、RCC) を開催する。 3-3 統計及び養蚕モニタリング手法を開発する。</p>	<p>4) プロジェクト運営費・現地活動費 NGO委託経費、ローカルスタッフ配置、国内研修実施経費、ワークショップ等開催費用</p>	<p>【前掲条件】 ・カウンタートパートが必要数配置される。 ・農家が養蚕を継続する。 ・桑畑・草種、消毒など、政府が農家へ提供するサービスが安定して継続する。 ・事業が各地の需要が顕化しない。</p>	

*モデル構築に注力するため、対象地域は現在活動が活発であるSVDCCとするが、プミスタン、ムラリバンジャンについては研修等の可能な活動について継続する。

ネパール養蚕普及・振興プロジェクト中間評価調査

評価گریッド

2009年6月14日

評価項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
妥当性 (プロジェクト実施の正当性、必要性を問う)	プロジェクトの必要性	対象地域・社会のニーズに合致しているか。 対象グループのニーズに合致しているか。	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価事前資料 農業協同組合省職員 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。 現在までのところ、ネパール政府は養蚕振興を継続しようとしている。 繭生産後の活動に、民間企業の巻き込みを図る修正が必要。 年間300 M.T.にも及ぶ生糸が中国とインドから輸入されている。これは、絹市場が小さくならないことを意味している。しかし、これらと販売競争力をいかにつけるかが必要。 大量の絹が中国から輸入されている。ネパールでより多くの絹が生産されれば、輸入が抑えられ、ユニークな絹製品の生産が可能になる。
	ネパールの開発政策との整合性はあるか？	上位政策である第11次5年計画(2008～2013)、国家農業政策(2005)との整合性はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> 農業協同組合省職員、専門家、カウンタナーパート、普及員、農家 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に対するカウンタナーパートからの回答は下記のとおり。 山地の条件下では、養蚕は農家にとって望ましい現金収入源である〔ドニベシ養蚕支場(以下、ドニベシ支場と記す)〕。 灌漑が得られる条件下にある山地の農民は、養蚕を好ましい現金収入源の形態であることを受けて入れている〔コバシ養蚕試験場(以下、コバシ本場と記す)〕。 プロジェクト対象地域では、トマト等の野菜生産が優位となっている(コバシ本場)。 地域によっては合致している(ドニベシ支場)。
	日本の援助政策・JICA 国別事業実施計画との整合性はあるか？	援助重点課題との関連性はあるか。 JICA 国別事業実施計画との関連性はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価事前資料 農業協同組合省職員 	<ul style="list-style-type: none"> ネパール政府の「第10次5年計画(10th Five Year Plan (2002～2007))」、「3ヵ年中間計画(Three Year Interim Plan (2007～2009))」では、貧困緩和を優先課題と位置づけ、養蚕業振興は、貧困緩和に資するための農業ビジネス振興のための産業の一つであるとされている。それに加え、「国家農業政策(National Agriculture Policy in 2004)」は、農産品目の自由化に呼応し、農産品目の商業化の振興を目的としている。 日本のネパール国に対する援助政策は、農村の貧困削減を優先課題の一つに掲げており、プロジェクトのアプローチは日本のODA政策に沿ったものである。 日本の農業・農村開発プログラムは、優先課題である貧困緩和のもと、「食糧の安全保障」、「農村の収入の向上」、「相手国政府及びの農民グループの能力向上」の3分野に焦点をあてている。本プロジェクトは、「農村の収入の向上」に資するものであり、日本の政府開発援助政策を反映したJICA国別事業実施計画と整合している。
	対象グループの選定は適正か？	協力内容に対する農業協同組合省農業局産業昆虫課のニーズは高いか。	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料 中間評価事前資料 農業協同組合省職員 専門家、カウンタナーパート、普及員、農家 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に対するカウンタナーパートからの回答は下記のとおり。 プログラムのいくつかは産業昆虫課内で十分に理解されている(ドニベシ支場)。 プロジェクト対象地域では十分に認識されているべきであるが、活動を実施していく上では、中程度の理解にとどまっている(コバシ本場)。 わからない(コバシ本場)。

評価5項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)																																
	大項目	小項目																																		
			<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズは高い (ドニベシ支場)。 ■ PSSCRCの設置目的は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方の貧困削減のため、養蚕振興を通じた雇用機会の創出。 ・ 繭の生産及び生産性の向上。 ・ 研修の実施及び農家に対する技術普及。 ・ 繭製品の国内消費の拡大。 ・ 繭の輸出振興をめざし、良質の繭を生産するための支援。このことにより繭の輸入を抑制する。 ■ ドニベシ支場の説明によれば、対象グループに掲げた対象地域養蚕農家400戸に対し、現在の受益養蚕農家数は163戸。 ■ 対象地域7つのVDC (村落開発委員会) における養蚕農家グループ数、養蚕農家戸数及びシルクモビライザーの人数は下表のとおり。 																																	
	対象グループの規模は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価事前資料 ・ 農業協同組合省職員、専門家、カウンタートパー 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Baireni</th> <th>Salang</th> <th>Nalang</th> <th>Kumpur</th> <th>Sankosh</th> <th>Bhumisthan</th> <th>Murle Bhanjyang</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グループ数</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>養蚕農家数</td> <td>28</td> <td>47</td> <td>60</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>シルクモビライザー数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		Baireni	Salang	Nalang	Kumpur	Sankosh	Bhumisthan	Murle Bhanjyang	グループ数	4	3	3	1		1	-	養蚕農家数	28	47	60	6	3	4	-	シルクモビライザー数	1	2	2	1			-	
	Baireni	Salang	Nalang	Kumpur	Sankosh	Bhumisthan	Murle Bhanjyang																													
グループ数	4	3	3	1		1	-																													
養蚕農家数	28	47	60	6	3	4	-																													
シルクモビライザー数	1	2	2	1			-																													
プロジェクトはネパールの対象分野の開発課題に對する効果として適切か？	プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業協同組合省職員、専門家、カウンタートパー 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当である。但し、十分ではない。 ・ 妥当である。 																																	
日本の技術の優位性はあるか？		<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 担当事業部門 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は、ネパールに隣接するインドにおいて、養蚕振興分野の技術協力を実施した経験を有する。また、JICAは、これまでネパール国において、ミニプロジェクト方式の 																																	

評価項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
有効性 (プロジェクトの効果 を問う)	投入・成果(アウトプット)の実績、活動の状況に照らし合わせて、プロジェクト目標の達成の見込みはあるか?	プロジェクト目標の達成状況はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト活動レポート 普及員活動記録 養蚕農家グループ活動記録 農家サンプル調査 	<p>技術協力である「養蚕振興計画」及び「フォローアップ」を実施してきた。これらの結果、新しい蚕種の導入、蚕卵生産 (grainage)、桑苗の配布システムの確立等、ネパール国の養蚕振興に大きく貢献してきた。</p> <p>■質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトに関わる者が活動計画に沿って責務を果たし、関係者の満足が得られ、プロジェクト目標は達成される。 プロジェクト目標は達成される。初期のプロジェクトでは、日本人専門家が1名体制であったため、思うように目標が達成できなかった。 <p>■プロジェクトの自己評価は下記のとおり。</p> <p>①生産された繭の国際規格 (2A)、選除繭歩合 (7%)、繭層歩合 (22%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> A格以下：ネパールには繭検定装置が無く、技術者もない。このため、前アドバイザーが日本に繭を送って検定したところ、A格以下であった。 2008年、春1:8.2%、春2:11.7%、秋1:11.9%、秋2:12.5% (重量比)、4村平均。 2008年、春1:23.5%、春2:22.7%、秋1:11.9%、秋2:22.8%、4村平均。 <p>②優良繭の生産性 (20kg/箱)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4村の平均収繭量は2008年春1:22.9Kg、春2:16.71Kg、秋1:11.76Kg、秋2:8.75Kg (Kg/箱) 生産性は農家、飼育時期により大きく異なる。 <p>③養蚕農家に導入された技術の定着度 (50%)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済的理由から実行する農家が少ないため、現段階では養蚕農家への定着状況は20%程度と推察される。 <p>④政府普及員の農家グループに対する積極的な関与 (各蚕期3回、年間12回)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各蚕期3回。 <p>⑤民間企業が、生産された繭を品質に基づき公平公正な価格で購入する (年間、乾繭250kg)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾繭150Kg/年間：民間企業 (D.D.TextilePvt、EverestPaperPvt.M.M.D.S.Group等) が政府から直接または政府の許可を得て農家から繭を購入している。 <p>■資機材 (2006~2009年に購入したもののリスト) は、合同評価報告書のAnnex 5に添付した。</p> <p>■質問票に対するカウンタートからの回答は下記のとおり。</p>
		<p>プロジェクトの成果(アウトプット)は活用されているか。</p> <p>機材は活用されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価事前資料 専門家、カウンタート 	

評価項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
効率性 (プロジェクトの効率性を問う)	貢献しているか?	研修、サービス提供において新規習得技術が活用されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価事前資料 技術マニュアル 専門家、カウンセラー、普及員 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトに供与された機材は、適切に管理され活用されている (ドニベシ支場)。 ほとんどは活用されている (コパシ本場)。 以前のプロジェクトで供与された冷蔵庫は故障が起きると、政府側からの予算があるまでは修理できない状況にあった (コパシ本場)。 活用されている (ドニベシ支場)。
		優良繭生産及び繭品質評価、収穫後処理に関する標準手法が確立されているか。	<ul style="list-style-type: none"> 養蚕農家グループ活動記録 技術マニュアル プロジェクト活動レポート 普及員活動レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に対する普及担当者 (JTJTA) (ドニベシ支場) からの回答は、下記のとおり。 1. 技術研修への参加回数 <ul style="list-style-type: none"> ・1回 (男性) ・2回 (男性) 2. 未だ、参加していない。今後、参加予定 (女性)。 3. 技術研修に対する評価 <ul style="list-style-type: none"> ・技術研修により多くの内容を付加してほしい。研修回数を増やしてほしい (男性)。 ・研修科目及び研修回数とも不十分。新たな研修内容が必要 (男性)。 ・未だ参加していないため、わからない (女性)。 4. 技術研修で習得したものの中で最も有用なこと <ul style="list-style-type: none"> ・良質な繭生産において、各過程で最も注意を払う事項を学んだこと (男性)。 ・これまでに知らなかった技術を学べたこと (男性)。 ・未だ参加していないため、わからない (女性)。 5. プロジェクトの残りの残りの期間 (今後の2年半) に習得したいこと <ul style="list-style-type: none"> ・最新技術 (男性)。 ・技術や知識、技術向上研修を受けたい (女性)。
効率性 (プロジェクトの達成度は適切か? (実績と目標値との比較))				<ul style="list-style-type: none"> ■プロジェクトの自己評価は下記のとおり。 ①優良繭生産のための技術が農家に受け入れられる (70%)。 <ul style="list-style-type: none"> ・推定 70% : 農家は研修や普及員の指導により、飼育施設改善、飼育技術向上を理解している。今後農家アンケートにて実態調査を行う予定。 ②技術ガイドラインが作成され、マニュアル化される (5 種/5 年間)。 <ul style="list-style-type: none"> ・1種 : 飼育標準表チャートを作成し農家に配布した。 ③コミュニティレベルでの共同稚蚕飼育施設が適正に活用される (4ヶ所のCRCが利用される)。 ・3ヶ所のCRCが利用され、養蚕農家の利用率は100%である。ハイラニ村のCRCは農家数の減少により休止し、ドニベシ養蚕支場で飼育を継承している。 ④政府普及員の品質チェックを受けた後に繭が取引される (繭の品質のチェック後に価

評価項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
			<p>農家及び政府普及員・NGOスタッフの繭生産技術および繭品質評価に関する能力が向上しているか。</p> <p>・プロジェクト活動レポート ・普及員活動レポート ・農家サンプル調査</p>	<p>格決定され、繭が買い上げられる。 ・チェックシステムの実行率は 100%；現在の繭取引は政府普及員による検査を経て買上げられている。</p> <p>⑤農家・普及員のシルクマーケットに対する理解が深まる（農家・普及員がシルクマーケットに関して 80%程度理解する）。 ・現在の推定理解内容は 5%；アンケート調査を実施していない。政府普及員は民間企業活動に対する理解が不足している。</p> <p>⑥オリジナルシルク作製技術が普及・発展する（対象地域でオリジナルシルク製品の製作が開始される）。 ・ナラン村とサラン村で座繰り糸の生産が開始された。しかし、対象地域で生産し販売ルートに乗せることは困難である。</p>
			<p>農家及び政府普及員・NGOスタッフの繭生産技術および繭品質評価に関する能力が向上しているか。</p>	<p>■プロジェクトの自己評価は下記のとおり。 ①養蚕農家グループの組織率（各村1グループ以上、全農家が参加）。 ・グループ数9；ナラン村4、サラン村2、クンブール村1、バイラニ村1、ブミスタン村1、全農家が参加している。しかし、サンコシ村、ムラリバンジャン村ではグループ化が進んでいない。</p> <p>②政府普及員の技術定着度及びファシリテーション能力向上（研修回数3回/年、適宜OJT実施）。 ・政府普及員の技術定着度は今後テストを実施して判断する。OJTについては、5回/年以上実施した。普及員が農家にアドバイスする内容からみて技術定着度は確実に向上。</p> <p>③農家研修の実施回数及び技術定着度（農家研修5回以上/年）。 ・農家研修8回/2年間；ドニベシ支場6回、コパシ養蚕試験場で2回、技術定着度はアンケート調査を予定している。</p> <p>④地域の技術リソースとなれる中核養蚕農家の数（各グループ1戸以上）。 ・全グループ内に中核農家（シルクモビライザー）は6戸である。</p>
	政府、NGO、民間セクター間の連携が強化		<p>・プロジェクト活動レポート</p>	<p>■プロジェクトの自己評価は下記のとおり。 ①ミーティングの頻度及び回数（年3回以上）。</p>

評価5項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
		されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・政府関連指針 ・民間業者サンプル調査 ・農家サンプル調査 	<p>実施回数3回/年：ドニベンシ支場において政府普及員と農民グループがRCCを1回開催した。また、座繰り糸を用いた商品開発のため、政府と民間企業との会議が5回開催された。</p> <p>②養蚕農家から民間業者が繭を直接購入した実績数(回数3回以上、購入量乾燥繭250kg以上)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・150kg/年の乾燥繭を民間業者が購入；民間が農家から直接繭を購入するシステムは無いが、政府の許可を得て農家から購入しているケースがある。 <p>③養蚕農家への支援サービスにおいて、NGOと政府普及員の役割が整理される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO(農民組織化)、普及員(技術指導)の役割が整理され、NGOが農民の組織化に向け調査を開始している。 ・長期専門家、短期専門家とも、計画通りに派遣されている。また、運営指導の提言に沿って調整員の配置等の追加的措置が取られている。専門家派遣の総計のMMMは、2009年7月15日時点で、48.7MMMになる。詳細は、合同評価報告書のAnnex 4に添付した。 ・必要な資機材はほぼ計画通りに供与され、ほとんどは有効活用されている。しかしながら、VDCに設置された繭乾燥施設の中には、稼動していないものがみられたため、修理を行い有効活用する必要がある。資機材(2006～2009年に購入したもののリスト)は、合同評価報告書のAnnex 5に添付した。 ・これまで、日本での研修は行われていない。 ・3名のカウンタートパートがオフサイラーレベルの研修としてインドを訪問している。また、6名のカウンタートパートがオフサイラーレベルの国外視察プログラムの一環としてラオス、タイ、インドを訪問している。しかしながら、研修の成果を生かしたプロジェクト運営のための具体的な実行計画は作成されていない。 なお、研修参加者のうち、3名のカウンタートパートは他の部署へ異動となっており、研修の効果がプロジェクトの実施に生かされていない。研修内容は、合同評価報告書のAnnex 10に添付した。
		<p>専門家派遣人数、専門分野、派遣時期は適切か。</p> <p>供与機材の種類、量、設置時期は適切か。</p> <p>研修員受け入れ人数、分野研修内容、研修期間、受け入れ時期は適切か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実績表 ・四半期報告書 ・専門家、カウンタートパート ・実績表 ・機材利用・管理状況表 ・専門家、カウンタートパート ・研修員受け入れ実績表 ・専門家、カウンタートパート、普及員、農家 	<p>②養蚕農家から民間業者が繭を直接購入した実績数(回数3回以上、購入量乾燥繭250kg以上)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・150kg/年の乾燥繭を民間業者が購入；民間が農家から直接繭を購入するシステムは無いが、政府の許可を得て農家から購入しているケースがある。 <p>③養蚕農家への支援サービスにおいて、NGOと政府普及員の役割が整理される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO(農民組織化)、普及員(技術指導)の役割が整理され、NGOが農民の組織化に向け調査を開始している。 ・長期専門家、短期専門家とも、計画通りに派遣されている。また、運営指導の提言に沿って調整員の配置等の追加的措置が取られている。専門家派遣の総計のMMMは、2009年7月15日時点で、48.7MMMになる。詳細は、合同評価報告書のAnnex 4に添付した。 ・必要な資機材はほぼ計画通りに供与され、ほとんどは有効活用されている。しかしながら、VDCに設置された繭乾燥施設の中には、稼動していないものがみられたため、修理を行い有効活用する必要がある。資機材(2006～2009年に購入したもののリスト)は、合同評価報告書のAnnex 5に添付した。 ・これまで、日本での研修は行われていない。 ・3名のカウンタートパートがオフサイラーレベルの研修としてインドを訪問している。また、6名のカウンタートパートがオフサイラーレベルの国外視察プログラムの一環としてラオス、タイ、インドを訪問している。しかしながら、研修の成果を生かしたプロジェクト運営のための具体的な実行計画は作成されていない。 なお、研修参加者のうち、3名のカウンタートパートは他の部署へ異動となっており、研修の効果がプロジェクトの実施に生かされていない。研修内容は、合同評価報告書のAnnex 10に添付した。
		<p>カウンタートパートの人数、配置状況、能力は適切か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンタートパート配置実績表 ・専門家、カウンタートパート 	<p>■13名が長期専門家及び短期専門家のカウンタートパートとして配置されている。しかしながら、カウンタートパートは専門家と常時活動を行なう体制ができていないのが現状である。加えて、カウンタートパートが他の部署へ異動となったケースがあること、プロジェクトダイレクターとなるべき産業昆虫課(DOIED)の課長職が中間評価調査時に空席となっているといった問題点が見出された。カウンタートパートのリストは、合同評価報告書のAnnex 6に添付した。</p> <p>■質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。</p>

評価項目	評価設問		情報源	結果（プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく）
	大項目	小項目		
			<ul style="list-style-type: none"> ・DOIEDはプロジェクトが求めている適任のカウンタースーパーを配置している。 ・ドニベシの技術職員（JT/JTA）も正式なカウンタースーパーとして位置づけられるべきである（現在のところ、JT/JTAは口頭ではカウンタースーパーであるとされているが、文書ベースでは正式に任命されていないこと）。 <p>■質問票に対するカウンタースーパーからの回答は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わからない（ドニベシ支場）。 ・文書ベースではカウンタースーパーとして正式に任命されていない（コバシ本場）。 ・適切である（コバシ本場）。 ・わからない（ドニベシ支場）。 <p>■プロジェクト実施に必要な土地、施設、機材は、ネパール側によって供給されている。また、専門家の執務室は提供されている。</p>	
	建物・施設の質、規模、利便性に問題はないか。		<ul style="list-style-type: none"> ・機材配置図 ・専門家、カウンタースーパー 	
	プロジェクトの予算は適性規模か。		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト負担実績表 ・農業協同組合省農業同産業昆虫課の予算表 ・専門家、カウンタースーパー 	<p>■ネパール側投入によるプロジェクト活動費 合同評価報告書のAnnex 7に添付した。しかしながら、これは予算表であり実績ではなく、プロジェクト活動費としての支出額字は不明である。DOIED職員は誰も把握していないことがわかった。</p> <p>■質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネパール政府は、十分な予算措置を講じたいところであるが、繭の購入予算を削減の方向で動いている。従って、民間企業が繭を購入しない限り、養蚕業の振興という目標は達成できない。 ・ネパール政府は、蚕振興のためにDOIEDが要求している予算をまだ承認していない。 <p>■質問票に対するカウンタースーパーからの回答は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト実施期間中は、ネパール政府によって予算措置が講じられているサービス（桑苗、蚕種、消毒剤の提供）は継続する（ドニベシ支場）。 ・現在実施されているサービスは、地方の雇用創出のためにも継続することを強く望む（コバシ本場）。 ・現在実施されているサービス（桑苗、蚕種、消毒剤の提供）はもちろん継続される（コバシ本場）。 ・継続される（ドニベシ支場）。
類似プロジェクトと比較して成果（アウトプット）は投入予定のコストに見合っ	研修実施に係る研修単価は十分か。		<ul style="list-style-type: none"> ・類似プロジェクトの評価レポート 	<p>■日本側投入であるプロジェクト運営費・現地活動費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに日本政府はJICAを通じ、プロジェクトに対して17,601,998.00ネパールルピーを投入している（2009年3月までの実績）。プロジェクトから提供された資料は合同評価報告書のAnnex 8に添付した。 <p>■ネパール側の予算表</p>

評価項目	評価設問		情報源	結果 (プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく)
	大項目	小項目		
	たものか?			<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトから提供された資料によれば、DOIED、コパシ本場、ドニベシ支場の2006年7月16日から2009年7月15日までの予算 (staff budget, program budget, capital budget の総額) は、39,002,000.00ネパールルピーとなっている。しかしながら、実際にプロジェクトに対して費やされた実績額は不明である。プロジェクトから提供された資料は、合同評価報告書のAnnex 7に添付した。
	成果 (アウトプット) 達成を阻害した要因はあるか?		<ul style="list-style-type: none"> 専門家、カウンターパート 	<ul style="list-style-type: none"> ■質問票に対するカウンターパートからの回答は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> これまでの期間にはいくつかの問題が生じた。その原因には、予算上の制約が挙げられる (ドニベシ支場)。 プロジェクトのモニタリング体制の欠如。協働作業の欠如。カウンターパート及び関連機関が果たすべき役割や責任といったものが明確になっていない (コパシ本場)。 プロジェクトを推進する上で、専門家とネパール側の理解不足、ネパール側内部での理解不足があった (コパシ本場)。 いくつかの問題が、プロジェクト管理及び意思決定段階に生じた (ドニベシ支場)。
インパクト (プロジェクトの長期的、波及的効果を問う)	投入・成果 (アウトプット) の実績、活動の状況に照らし合わせて、上位目標は、プロジェクトの効果として発現が見込まれるか?		<ul style="list-style-type: none"> 農業協同組合省職員 専門家、カウンターパート 	<ul style="list-style-type: none"> ■質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 現在までのところ、ネパール政府は養蚕振興を継続しようとしている。これは、絹市場が小年間300 M.T.I.にも及ぶ生糸が中国とインドから輸入されている。これは、絹市場が小さくならないことを意味している。しかし、これらと販売競争力をいかにつけるかが必要。 カウンターパートや政府普及員は養蚕農家の収入を向上させるため、養蚕農家を支援したいと考えている。彼らにしっかりとした動機づけを行うためには、海外技術研修や視察が必要。 先進国では絹の生産が減少しているため、絹の価格は下落しない。 絹生産後の活動に、民間企業の巻き込みを図る修正が必要。 大量の絹が中国から輸入されている。ネパールでより多くの絹が生産されれば、輸入が抑えられ、ユニークな絹製品の生産が可能になる。 見込まれる。しかしながら、普及員が養蚕農家を巡回指導しやすいような条件を整備することが必要。具体的には、現在、不十分である普及員のTADA (旅費日当) や車両の燃料代を確保することが必要。 日本などのかつての絹生産国においては、絹生産量が減少している。
	上位目標の達成を阻害する要因はあるか?		<ul style="list-style-type: none"> 農業協同組合省職員 専門家、カウンターパート 	<ul style="list-style-type: none"> ■質問票に対するDOIED職員からの回答は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> 政府は、絹の国際市場の動向に鑑み、絹取引のための仕組みを改定している。 政府は、地元材シルク製品生産に關して民間企業の参入を推進する環境を整えようとしている。 政府は、価格や公平公正な絹取引のための仕組みを必要に応じて改定しようとしている。

評価項目	評価設問		情報源	結果（プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく）
	大項目	小項目		
自立発展性 (JICAの協力終了後の持続性を問う)	協力終了後も、効果あげていくための活動を実施するに足る組織能力はあるか？	運営管理能力は備わっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 組織・運営規約 スタッフ配置表 モニタリング報告書 カウンターパーター家 	<ul style="list-style-type: none"> 政府は、養蚕業、特に繭收穫後の販売や製品化の段階に民間の参入を促進しようとしている。 質問票に対するカウンターパーターからの回答は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト活動の実施段階で、プロジェクト関係者間の意志疎通ができていなかったことによる誤解のため、活動が計画どおりに進まないといったことがあった（ドニベシ支場）。 プロジェクト内部の協働モニタリングや意思決定の仕組みが欠けている（コバシ本場）。 プロジェクト内の専門家側と関係者側（DOIED、カウンターパーター）の調整が欠けている（コバシ本場）。 管理体制にいくつかの問題がみられる（ドニベシ支場）。
		財源確保のための取り組みは順調か。	<ul style="list-style-type: none"> 農業協同組合省予算書 専門家、カウンターパーター 	
	プロジェクトで用いられる技術は受容されつつあるか？	<ul style="list-style-type: none"> カウンターパーター自身による研修能力は向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 普及員活動記録 専門家、カウンターパーター、普及員 	
	移転された技術は実施機関内で普及していくか。		<ul style="list-style-type: none"> 専門家、カウンターパーター、普及員、農家 	<ul style="list-style-type: none"> 質問票に対するカウンターパーターからの回答は下記のとおり。 <ol style="list-style-type: none"> 問題点 <ul style="list-style-type: none"> 技術の普及を進める上で、技術マニュアルが不足している（ドニベシ支場）。 カウンターパーターは農家から農家への技術普及方法について、より真剣に取り組む必要がある（コバシ本場）。 農氏の置かれている状況の分析が不足している（コバシ本場）。 主な問題点は予算不足（ドニベシ支場）。 普及の見込み <ul style="list-style-type: none"> 関連機関内では普及していく（ドニベシ支場）。 プロジェクト対象地域で技術が普及していく（コバシ本場）。 たぶん普及していく（コバシ本場）。 技術が普及していくのは難しい（ドニベシ支場）。

評価項目	評価設問		情報源	結果（プロジェクト作成資料、質問票の回答、インタビューに基づく）
	大項目	小項目		
				<p>■質問票に対する普及担当者（JT/JTA）からの回答は下記のとおり。</p> <p>1. 普及活動の実態について</p> <p>(1) 養蚕農家を訪問する頻度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蚕飼育時期には必ず1回。他は必要に応じて訪問。 ・蚕飼育時期には必ず1回。その他、プログラムに基づきドニベシ支場長からの業務命令があった時。 <p>(2) 普及を担当している養蚕農家数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポケットエリア内の15～16戸。 ・ポケットエリア内の農家。 ・1回で10～12戸を訪問。 <p>(3) 普及活動に充てられる予算（TADA、ガソリン代）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70,000～75,000ルピー。 ・政府の予算総額は160,000ルピー。 ・年間70,000～80,000ルピー。 <p>2. 養蚕農家に対する技術移転の程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域では普及している。しかし、期待していたほどは普及していない。 ・普及していない。 ・普及している。 <p>3. 養蚕農家による移転技術の許容の程度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術は受け入れられている。しかし、期待していたほどは受け入れられていない。 ・受け入れられていない。 ・農家のほとんどに受け入れられている。 <p>■質問票に対するカウンターパーパートからの回答は下記のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に管理されている（ドニベシ支場）。 ・以前供与された冷蔵庫は故障の際、政府から予算が下りるまで修理できないという状況にあった（コバシ本場）。
		<p>機材の維持管理は適切に行われているか。</p>	<p>・機材管理報告書</p> <p>・専門家、カウンターパーパート</p>	

以上

質問票回答

質問対象者	方法	結果	該当ページ
DOIED 向け（政策を立案する側からの回答を期待）	英文質問票はプロジェクトを通じて配布。回答入手後、不明な点は直接聞き取ることによって確認した。	2名から回答を得た。回答は評価グリッドに反映させた。	2～4
カウンターパート向け（実際に専門家と密に活動を行っている側からの回答を期待）	同上	5名から回答を得た。うち2名は連名で回答。回答は評価グリッドに反映させた。	4～11
普及員向け（養蚕農家に技術を普及している JT/JTA からの回答を期待）	JT/JTA は英文が一般的でないため、プロジェクトでネパール語に翻訳したものを配布。ネパール語の回答はプロジェクトで英文に翻訳して頂いた。	3名から回答を得た。回答は評価グリッドに反映させた。	11～15
養蚕農家向け（シルクモビライザー含む）	5つのVDCにおいて聞き取りを実施。聞き取り対象者は養蚕農家及びシルクモビライザーが配置されているVDCでは、併せて聞き取りを行った。	VDC毎に聞き取り結果を整理した。	16～21

Questionnaire to DOA (DOIED)

1. Project Performance

1-1. Is input implemented as planned? (Compare with planned values)

Yes, the input implemented seems as planned.

1-2. Is output produced as planned? (Compare with targets)

Not significantly, as compare with target.

1-3. Are there prospects that the project objective will be achieved? (Compare with targets)

The project objectives will be achieved if the person involved in sericulture will satisfied and performs the task accordance with action plan.

1-4. Are the suitable counterparts assigned to the Project?

The DOIED assigned the suitable counterpart as project required.

2. Item to be confirmed

2-1. Is the Project Strategy consistent with the Government Policy on Sericulture Promotion?

Yes, but not sufficient.

2-2. Does Nepal Government continue to allocate adequate budget to DOIED to achieve the Project Purpose?

Nepal government want to continue to allocate adequate budget but now a days, government feel to drop budget of cocoon procurment. so, sericulture will not achieved progress if privet sector will not buy the cocon.

2-3. Important assumption to achieve the Overall Goal

(1) Does Government's Policy on Sericulture Promotion continue?

Till now, government's poliucy want to coninue the sericulture promotion.

(2) Doesn't the Silk Market get smaller?

Nearly, 300 M.T./Year raw silk is importing from china and India. It shows the silk market is not get smaller, but we need to sale compitative way.

(3) Do Governmental and NGO technicians/staff concerned to the Project Implementation continue to support to Seri-farmers?

Yes they want to implementation continue to support seri-farmer, but they need some mtivation like special foreign training, tour etc.

(4) Doesn't the Silk price take great fall?

Not, because the developed country nearly droped the silk production. Due to this fact the silk price des not fall.

2-4. Important assumption to achieve the Project Purpose

(1) Does the Government revise and introduce cocoon inspection system for trading based on a genuine quality?

yes, the government revise tune tio time according to the International Market

(2) Does the Government create the environment for Private entrepreneur to invest on indigenous silk production?

Government, try to create the environment for private enterprenure to invest on indigenous silk production.

3. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

- ❖ Project Program must be quantifiable as vaule
- ❖ Farmer and technical staff needs some motivation
- ❖ Now the project implemeted in only one district but it need to verify the model to another district also.
- ❖ Dhading is farmous for vetetbale procution, farmes will not adopt sericulture easily in this district, so the project shoulds expand another marginal district where vestibale is not commercialized

Questionnaire to DOA (DOIED)

1. Project Performance

1-1 Is input implemented as planned? (compare with planned values)

Partially; The budget and target doesn't fixed & quantify. So became difficulty to know the target by field start

1-2 Is output produced as planned? (compare with targets)

About 60 % . Farmer training can't conduct as scheduled .

1-3 Are there prospects that the project objective will be achieved? (compare with targets)

Yes, but disturb by their present situation

1-4 Are the suitable counterparts assigned to the Project?

Technical staff of Dhunibesi also should assign for counter part by PSSCRC, Dhunibesi .

2. Item to be confirmed

2-1 Is the Project Strategy consistent with the Government Policy on Sericulture Promotion?

Yes,

2-2 Does Nepal Government continue to allocate adequate budget to DOIED to achieve the Project Purpose?

No, Not approved all program as DOIED proposed in Sericulture program .

2-3 Important assumption to achieve the Overall Goal

(1) Does Government's Policy on Sericulture Promotion continue?

Yes but little modifying by involving private in post Cocoon activities.

(2) Doesn't the Silk Market get smaller?

No lot of silk is importing from China If we produce more silk we can substitute such silk and can produce new unique item .

(3) Do Governmental and NGO technicians/staff concerned to the Project Implementation continue to support to Seri-farmers?

Yes, but need some logistic support for increasing movement to field like TADA, fuel, which is not sufficient in present situation.

(4) Doesn't the Silk price take great fall?

Not, because silk producing country like Japan and other country decreasing silk production

2-4 Important assumption to achieve the Project Purpose

(5) Does the Government revise and introduce cocoon inspection system for trading based on a genuine quality?

Yes, price and grading system is revised time to time and may revise if necessary.

(6) Does the Government create the environment for Private entrepreneur to invest on indigenous silk production?

Government, trying to involve private in sericulture, especially in post cocoon activities. Government Can provide Jaguri, spinning charkha & training for private related with silk production.

3. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

☺ Project Program must be quantifiable

☺ Farmer and technical training and abroad tour and visit to import new technology.

☺ Project should make program for farmer to improve quality garden and rearing house as well as materials.

Project should make facility for production silk and silk materials in rural level .

keshav raj kafle

Questionnaire to Counterparts

1. Self-Evaluation of the Project Performance

1-1 Is input implemented as planned? (compare with planned values)

Ans- 60 % work implemented as Planned.

1-2 Is output produced as planned? (compare with targets)

Ans- 50 % output produced as planned.

1-3 Are there prospects that the project objective will be achieved? (compare with targets)

Ans- Some of the objectives are achieved.

2. Self-Evaluation of the Project Implementation Process

2-1 Are activities implemented as planned?

Ans- Most of the activities are implemented as planned.

2-2 Are there any problems in the method for technology transfer?

Ans- There were some problem transferring technology, that is lack of technical manuals.

2-3 Are there any problems in the project management system such as monitoring system and decision-making process within the project?

Ans- At the time of programme implementation system delayed due to miss uinderstanding in the decision made by Govt/JICA-project.

2-4 Dose the project have a high recognition in the implementing agency?

Ans- Some of the programs are well recognized among the implementation agency.

2-5 Is the degree of participation of the target group and related organizations in the project high? Is the recognition with respect to the project high?

Ans- Maximum population from target group are involved, yes recognition is high.

2-6 Did any other problems occur during the process of implementing the project? What is the cause, if any?

Ans- Some problem had arise during implementation phase. The reasons might be decision in budgetary role.

2-7 Did the training capacity improve as a trainer of trainees (extension staffs such as JT and JTA)?

Ans- Yes, knowledge, attitude, practice had increased in course of training.

2-8 Will the transferred technology spread within the implementing agency?

Ans- Technology were spread within the concern agency.

3. Item to be confirmed

3-1 Status of Important Assumption

(1) Are NGO/s who has enough experiences in community development assigned for Project Implementation?

Ans- NGO has been working just 3 month but the performance has not been evaluated yet.

(2) Do the Nepalese Counterparts assigned for this Project continue to work for the Project?

Ans- In my opinion counterparts assigned should be continue.

(3) Are private entrepreneurs interested and affirmative in the Silk Industry Development?

Ans- Some private entrepreneurs are interested to developed the silk product development process.

3-2 Status of Pre-Conditions

(1) Are necessary number of Nepalese Counterpart staffs assigned?

Ans- Not confirmed

(2) Do the farmers in target area select Sericulture as desirable cash crop?

Ans- In upland condition those farmers selected as desirable cash crop.

(3) Do the Governments' existing services (Supply of i) mulberry sapling, ii) Silkworm Egg, and iii) Antiseptics, etc.) continue during the Project period?

Ans- Yes governments existing services continue during the project period.

(4) Is the insurgent situation in the target area kept normal?

Ans- Now situation is normal.

4. Equipment

4-1 Are the equipments used in the training and technical services utilized?

Ans- Available equipments are used as the technical services.

4-2 Are the equipments appropriately maintained and managed?

Ans- Yes all equipments are properly used and managed.

4-3 Are the maintenance and management record of the equipments kept?

Ans- all types record are properly kept.

5. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

- > In coming years include farmer support programs, so that it helps to increase the quality cocoon production.
- > Publish the different technical manuals for different level & technical support as required.
- > Give more emphasis on product development at village level which increase the farmers income.
- > Emphasis on Human Resources Development Programme.
- > Required to continue next up to 5 years.

By : Madhu Sudan Ghimire, Project Field Coordinator, Chief of PSSCRC, Parental Seed Stock Cocoon Resource Centre, Dhunibesi, Dhading

Questionnaire to Counterparts

1. Self-Evaluation of the Project Performance

1-1 Is input implemented as planned? (compare with planned values)

Ans- It seems that project might have implemented the input comparing with the targets.

1-2 Is output produced as planned? (compare with targets)

Ans- Not significant as expected with the planned values and targets.

1-3 Are there prospects that the project objective will be achieved? (compare with targets)

Ans- The project objectives will be achieved if the project team specially the field coordinator perform the task in accordance with implementation action plan. If the project clearly define the roles and responsibilities of field coordinator with planned, values and target.

2. Self-Evaluation of the Project Implementation Process

2-1 Are activities implemented as planned?

Ans- Project activities might have implemented in the project area.

2-2 Are there any problems in the method for technology transfer?

Ans- The C/P should be very serious in solving the problems for sericulture technology transfer from farmers to farmers.

2-3 Are there any problems in the project management system such as monitoring system and decision making process within the project?

Ans- There is lack of joint monitoring system and decision making process within the project.

2-4 Does the project have a high recognition in the implementing agency?

Ans- As envisaged in the project area, there should be high recognition but it seems to be medium type of recognition while implementing action plan.

2-5 Is the degree of participation of the target group and related organizations in the project high? Is the recognition with respect to the project high?

Ans- As expected, impressive participation not observed because of lack of joint monitoring mechanism with stakeholders.

2-6 Did any other problems occur during the process of implementing the project? What is the cause, if

any?

Ans- Lack of strong monitoring, - Lack of joint effort, - Lack of clear role and responsibility of C/P and related organizations.

2-7 Did the training capacity improve as a trainer of trainees (extension staffs such as JT and JTA)?

Ans- Capacity of extension staffs upgraded to some extent but further quality and skill to be developed by providing specific training.

2-8 Will the transferred technology spread within the implementing agency?

Ans- It is expected to spread the transferred technology in the project area.

3. Item to be confirmed

3-1 Status of Important Assumption

(1) Are NGO/s who has enough experiences in community development assigned for Project Implementation ?

Ans- Khopasi station does not have clear cut idea and suggested to involve the concerned C/P.

(2) Do the Nepalese Counterparts assigned for this Project continue to work for the Project?

Ans- For smooth implementation of the project activities there should be written assignment for the concerned C/P and this kind of arrangement would facilitated for the sustainability of program.

(3) Are private entrepreneurs interested and affirmative in the Silk Industry Development?

Ans- Private entrepreneurs are interested in post cocoon processing.

3-2 Status of Pre-Conditions

(1) Are necessary number of Nepalese Counterpart staffs assigned?

Ans- Not assigned in written form.

(2) Do the farmers in target area select Sericulture as desirable cash crop?

Ans- Farmers accepted sericulture as desirable cash crop in the upland un irrigated area.

(3) Do the Governments' existing services (Supply of i) mulberry sapling, ii) Silkworm Egg, and iii) Antiseptics, etc.) continue during the Project period?

Ans- Strongly suggested to provide existing services to being rural employment generation.

(4) Is the insurgent situation in the target area kept normal?

Ans- The insurgent situation in the target area was normal.

4. Equipment

4-1 Are the equipments used in the training and technical services utilized?

Ans- yes, almost utilized.

4-2 Are the equipments appropriately maintained and managed?

Ans- Sophisticated equipment are not properly maintained and managed.

4-3 Are the maintenance and management record of the equipments kept?

Ans- Not kept properly.

5. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

> Clear the role and responsibilities for C/P and related organization.

- > Materialized and strengthen the monitoring, supervision and evaluation mechanism in program implementation.
- > Strengthen cooperation, coordination and joint effort.
- > Strongly suggested to prepare teaching and extension aids such as leaflets, booklets, folders, pictorial books and manuals based on action research in the project area as per the needs of target area.
- > The project target and implementation action plan should be streamlined / consistent with the government's regular program avoiding duplication.

By:

- 1) Bhakta Raj Palikhe, Chief of SDD, Sericulture Development Division, Khopasi, Kavre
- 2) Narahari Prashad Ghimire, Officer, Sericulture Development Division, Khopasi, Kavre

Questionnaire to Counterparts

1. Self-Evaluation of the Project Performance

1-1 Is input implemented as planned? (compare with planned values)

Ans- Not Sufficient enough

1-2 Is output produced as planned? (compare with targets)

Ans- Not at all.

1-3 Are there prospects that the project objective will be achieved? (compare with targets)

Ans- Uncertain owing to risk and uncertainties like disease outbreak and low mulberry leaf production due to drought.

2. Self-Evaluation of the Project Implementation Process

2-1 Are activities implemented as planned?

Ans- Majority of activities being implemented.

2-2 Are there any problems in the method for technology transfer?

Ans- Yes, No proper situation analysis of the farmers.

2-3 Are there any problems in the project management system such as monitoring system and decision-making process within the project?

Ans- Yes, Lack of proper coordination harmony between donor office and stakeholders.

2-4 Does the project have a high recognition in the implementing agency?

Ans- Unknown

2-5 Is the degree of participation of the target group and related organizations in the project high? Is the recognition with respect to the project high?

Ans- Moderate.

2-6 Did any other problems occur during the process of implementing the project? What is the cause, if any?

Ans- Lack of reconciliation and MOU between donor agency and consumerism.

2-7 Did the training capacity improve as a trainer of trainees (extension staffs such as JT and JTA)?

Ans- Yes.

2-8 Will the transferred technology spread within the implementing agency?

Ans- May be.

3. Item to be confirmed

3-1 Status of Important Assumption

(1) Are NGO/s who has enough experiences in community development assigned for Project Implementation?

Ans- Partially.

(2) Do the Nepalese Counterparts assigned for this Project continue to work for the Project?

Ans- Not sure owing to Nepalese bureaucracy nature of frequent transfer of trained specialist to non sericulture area.

(3) Are private entrepreneurs interested and affirmative in the Silk Industry Development?

Ans- If the required volume of cocoons are easily available.

3-2 Status of Pre-Conditions

(1) Are necessary number of Nepalese Counterpart staffs assigned?

Ans- yes.

(2) Do the farmers in target area select Sericulture as desirable cash crop?

Ans- Not safely in all project area owing to the comparative advantage of vegetable like tomato.

(3) Do the Governments' existing services (Supply of i) mulberry sapling, ii) Silkworm Egg, and iii) Antiseptics, etc.) continue during the Project period?

Ans- Certainly.

(4) Is the insurgent situation in the target area kept normal?

Ans- Almost under normal situation compared prior to the reconciliation agreement with the Nepal communist party (MAOIST)

4. Equipment

4-1 Are the equipments used in the training and technical services utilized?

Ans- Mostly

4-2 Are the equipments appropriately maintained and managed?

Ans- No.

4-3 Are the maintenance and management record of the equipments kept?

Ans- No.

5. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

> It is urged to dispatch the experts from JICA, Who have gained long term expertise on the field of sericulture.

By:

Kaman sing Thapa, Officer, Sericulture Development Division, Khopasi, Kavre.

Questionnaire to Counterparts

1. Self-Evaluation of the Project Performance

1-1 Is input implemented as planned? (compare with planned values)

Ans- At least 35 % as Planned.

1-2 Is output produced as planned? (compare with targets)

Ans- 25 % as planned.

1-3 Are there prospects that the project objective will be achieved? (compare with targets)

Ans- Some prospects project objective will be achieved.

2. Self-Evaluation of the Project Implementation Process

2-1 Are activities implemented as planned?

Ans- 30 % are planned.

2-2 Are there any problems in the method for technology transfer?

Ans- Main Problems is economic problem.

2-3 Are there any problems in the project management system such as monitoring system and decision-making process within the project?

Ans- There are some problems. Ex- Management.

2-4 Dose the project have a high recognition in the implementing agency?

Ans- Some what high.

2-5 Is the degree of participation of the target group and related organizations in the project high? Is the recognition with respect to the project high?

Ans- Target group activities high participate.

2-6 Did any other problems occur during the process of implementing the project? What is the cause, if any?

Ans- Some problems occurs, causase management and decision making process.

2-7 Did the training capacity improve as a trainer of trainees (extension staffs such as JT and JTA)?

Ans- Improved the capacity.

2-8 Will the transferred technology spread within the implementing agency?

Ans- Some What difficult to the transfer technology.

3. Item to be confirmed

3-1 Status of Important Assumption

(1) Are NGO/s who has enough experiences in community development assigned for Project Implementation?

Ans- NGO starts working only three month.

(2) Do the Nepalese Counterparts assigned for this Project continue to work for the Project?

Ans- Continues.

(3) Are private entrepreneurs interested and affirmative in the Silk Industry Development?

Ans- Some private are interested.

3-2 Status of Pre-Conditions

(1) Are necessary number of Nepalese Counterpart staffs assigned?

Ans- I am not confirmed

(2) Do the farmers in target area select Sericulture as desirable cash crop?

Ans- Yes, Some are.

(3) Do the Governments' existing services (Supply of i) mulberry sapling, ii) Silkworm Egg, and iii) Antiseptics, etc.) continue during the Project period?

Ans- continues.

(4) Is the insurgent situation in the target area kept normal?

Ans- Now, normal condition.

4. Equipment

4-1 Are the equipments used in the training and technical services utilized?

Ans- yes, use.

4-2 Are the equipments appropriately maintained and managed?

Ans- Yes.

4-3 Are the maintenance and management record of the equipments kept?

Ans- Yes

5. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

Suggestions :-

1) good management for Seri. farmers

By :

Nilesh Kunwar, Officer (Second Man), Parental Seed Stock Cocoon Resource Centre, Dhunibesi, Dhading

Questionnaire to Extension Staffs (Junior Technician / Junior Technical Assistant)

1. Extension Activities

1-1 How many times do you visit seri-farm every week?

Ans- One time confirmed on the silkworm rearing time and another is as per necessary.

1-2 How many seri-farms do you handle?

Ans- 15-16 farmers on pocket area.

1-3 How much budget is allocated for extension activities such as gasoline or traveling allowance?

Ans- Rs.70,000 – Rs. 75,000.

2. Technical Trainings

2-1 How many times do you attend technical trainings?

Ans- Technical training one time.

2-2 Are the content and frequency of the technical training enough for you to improve your technologies?

Ans- To add more subjects and number times of training.

2-3 What did you learn from the technical training? What kind of technologies are the most useful?

Ans- To learn completely what types of activities are necessary to do for production of quality and learning matters are useful.

2-4 What do you expect from the technical trainings in the remaining half-term of the Project?

Ans- Wants to learn new technologies.

3. Technical Transfer to Seri. Farmers

3-1 What do you think the contents of the technical trainings such as “Zaguri Training”?

(1) Location of the training site.

a. proper? b. not proper? (What is the reason?)

(2) Time, time period, timing, frequency.

a. proper? b. not proper? (What is the reason?)

(3) What do you think about your teaching ability and manner to seri-farmers.

a. satisfactory? b. fair? c. not satisfactory? (What is the reason?)

Ans- Principally & Practically

(4) Is “Technical Guideline and Manual” useful?

a. useful? (how useful?) b. not useful (What is the reason?)

Ans- Principally & Practically

(5) Is “Technical Guideline and Manual” easy to understand? If not, any comments to improve the Manual.

a. easy b. too difficult

3-2 Are the technologies spread to the target group?

Ans- Spread technologies on target areas, but not spread as expected.

3-3 Are the technologies accepted by seri-farmers?

Ans- Accepted but not accepted as expected.

4. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

> Project might have prepared program and plan, after identified of sericulture farmers needs and discussion with central level.

> To explain on the program for third countries training and observation tour etc. to field level technical staffs.

By :

Bhagawan Prashad Pokharel, Junior Technician, PSSCRC, Dhunibesi

Questionnaire to Extension Staffs (Junior Technician / Junior Technical Assistant)

1. Extension Activities

1-1 How many times do you visit seri-farm every week?

Ans- On the rearing time by the order and approval of farm chief going to visit sericulture farmers as program.

1-2 How many seri-farms do you handle?

Ans- Visit each and every sericulture farmers house of pocket area.

1-3 How much budget is allocated for extension activities such as gasoline or traveling allowance?

Ans- Rupees 160,000 budget are allocated for traveling for whole program by the government.

2. Technical Trainings

2-1 How many times do you attend technical trainings?

Ans- Participate two times.

2-2 Are the content and frequency of the technical training enough for you to improve your technologies?

Ans- Subject and number of training are not enough and new subject and contents of the training are necessary.

2-3 What did you learn from the technical training? What kind of technologies are the most useful?

Ans- Learned additional technology.

2-4 What do you expect from the technical trainings in the remaining half-term of the Project?

Ans- New Technology.

3. Technical Transfer to Seri. Farmers

3-1 What do you think the contents of the technical trainings such as “Zaguri Training”?

(1) Location of the training site.

a. proper? **b. not proper?** (What is the reason?)

Ans- Organized training on field level.

(2) Time, time period, timing, frequency.

a. proper? b. not proper? (What is the reason?)

(3) What do you think about your teaching ability and manner to seri-farmers.

a. satisfactory? b. fair? c. not satisfactory? (What is the reason?)

(4) Is “Technical Guideline and Manual” useful?

a. useful? (how useful?) **b. not useful** (What is the reason?)

Ans- Less going technician on farmers level and not received technical manual yet

(5) Is “Technical Guideline and Manual” easy to understand? If not, any comments to improve the Manual.

a. easy b. too difficult

3-2 Are the technologies spread to the target group?

Ans- No

3-3 Are the technologies accepted by seri-farmers?

Ans- No

4. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

> Program should be lunched after identified of the problems of sericulture farmers.

> To organize Zaguri training in pocket area.

- > To manage traveling and daily allowance.
- > To organize third country training and observation tour program to the farmers and technical staffs.
- > To prepare infrastructure on farmers level before launched the program.

By :-

Bidhya Nath Purbe, Junior Technician, PSSCRC, Dhunibesi

Questionnaire to Extension Staffs (Junior Technician / Junior Technical Assistant)

1. Extension Activities

1-1 How many times do you visit seri-farm every week?

Ans- Three to Four times going to sericulture farmers on silkworm rearing season.

1-2 How many seri-farms do you handle?

Ans- 10 to 12 farmer households at one time visit.

1-3 How much budget is allocated for extension activities such as gasoline or traveling allowance?

Ans- Rupees 70,000 to 80,000 budget are allocated per year for traveling.

2. Technical Trainings

2-1 How many times do you attend technical trainings?

Ans- I will participate one time on the training within two years period.

2-2 Are the content and frequency of the technical training enough for you to improve your technologies?

Ans- Not received the training about technical knowledge improvement.

2-3 What did you learn from the technical training? What kind of technologies are the most useful?

Ans- Not received those types of training.

2-4 What do you expect from the technical trainings in the remaining half-term of the Project?

Ans- Hoping to received technical knowledge and skill development training.

3. Technical Transfer to Seri. Farmers

3-1 What do you think the contents of the technical trainings such as “Zaguri Training”?

Ans- Training on Dhunibesi, Kalaguthi and local based on Nalang

(1) Location of the training site.

a. proper? b. not proper? (What is the reason?)

Ans- Good for reeling yarn production on farmers level.

(2) Time, time period, timing, frequency.

a. proper? b. not proper? (What is the reason?)

Ans- Training to 10 persons period 10 days on Falgun, Kartik (October, February)

(3) What do you think about your teaching ability and manner to seri-farmers.

a. satisfactory? b. fair? c. not satisfactory? (What is the reason?)

Ans- Myself have knowledge and skill of Zaguri reeling.

(4) Is “Technical Guideline and Manual” useful?

a. useful? (how useful?) b. not useful (What is the reason?)

Ans- Only used guideline.

(5) Is “Technical Guideline and Manual” easy to understand? If not, any comments to improve the Manual.

- a. easy b. too difficult

Ans- Easy to understand if received.

3-2 Are the technologies spread to the target group?

Ans- Yes.

3-3 Are the technologies accepted by semi-farmers?

Ans- Accepted by most of the farmers.

4. Comments and Suggestions in the remaining half-term of the Project.

- > To manage in country and third country training program to field level technician.
- > To get knowledge about new technology.
- > To include supported program to sericulture farmers level for cocoon production.
- > To support on necessary program to local based for silk products.
- > At least a farmer is selected as leader farmer by their own farmer groups for technical extension on local based.

By:-

Tara Timilsina, Assistant Junior Technician, PSSCRC, Dhunibesi

聞き取り結果表(1)

対象 VDC	クンプル VDC
訪問日	2009年6月4日(木)
場所	養蚕を行っている農家
方法	国道直近で養蚕を行っている女性宅において聞き取りを実施した。
内容	
<p>1. 繭の生産性と品質について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蚕期毎に2箱の蚕を購入し飼育。1年に4期あるため、年間8箱を購入している。 ・ 繭の販売で得られる収入は年間25,000NRs.(注釈：この額は公務員の1月の給料の倍に相当する。) ・ 前回の蚕期には、ここでサニテックスのデモンストレーションが行われた。そのため病気の発生はなかった。 ・ 蚕の飼育環境を改善するため、蚕室を建てた。建設経費15,000NRs.のうち、ドニベシ支場から12,500NRs.助成された。 <p>2. 研修について</p> <p>3. その他、得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ここは、道路に近い立地条件にあるため、野菜を栽培し販売することによって収入が向上している。 ・ ドニベシ支場から技術指導を受けていること、蚕生産から収入が得られることがわかったことから、養蚕を続けていきたいとのことであった。 ・ クンプル VDC では、以前14戸の農家が養蚕を行っていたが、多くの農家は野菜栽培にシフトしている。現在、養蚕を行っている農家は4戸。 ・ この女性は、魚とりのカーストにあるとのこと。 <p style="text-align: right;">以上</p>	

聞き取り結果表(2)

対象 VDC	サンコシ VDC
訪問日	2009年6月4日(木)
場所	養蚕を最近始めた農家 村の青空集会場
方法	養蚕を最近始めた農家の男性から聞き取りを実施。 その後、村の女性10名程度に集まっていたき、聞き取りを実施した。
内容	

養蚕を最近始めた農家の男性

1. 繭の生産性と品質について

- ・桑を 1,000 本入手して植えたものの、現在、400 本のみが生育し、600 本は枯死した。600 本が枯死した原因は、桑の生育期に雨が少なかったこと、植え方が正しくなかったことだと考えている。
- ・問題が起きた時は、ドニベシのギメレ所長に携帯電話で相談にのってもらおうとのこと。
- ・前回の蚕期には、2,500 匹を飼育したが、飼育は難しいとは思わなかったとのこと。
- ・今年は、500 本の桑を申し込んでいる状況にある。桑が順調に生育すれば、養蚕を始めたいとのこと。その時は少なくとも半箱を飼育したい。

2. 研修について

- ・昨年の秋に 15 日間の養蚕基礎研修を受けた。
- ・次回の研修では、桑が十分に生育しなかったこともあり、桑の育成方法の研修に参加したい。
- ・今後学びたい技術は、稚蚕の育て方、病気の防除方法である。

上記の男性に加え、村の女性 10 名程度から聞き取り。女性の内訳は養蚕を試行的に行っている女性と、最近桑を植え始めた女性である。

1. 繭の生産性と品質について

- ・この村では、乾季の餌のない時期に、家畜を放し飼いにする。その家畜がせっかく植えた桑の葉を食べてしまい、枯死してしまうことが問題であるとのこと。
- ・養蚕を行っている 2 名のうち、1 名は研修受講後、繭の生産量が増え、1 名は品質が一定しない(いい時もあれば、悪いときもある)とのことであった。
- ・JT/JTA が品質向上のための技術指導に来るか尋ねたところ、サンコシ VDC は養蚕が盛んでないため、来ていないとのこと。

2. 研修について

- ・この村からは、これまでに 7 名がドニベシ支場での研修に参加。研修期間は 15 日間。7 名のうち、養蚕を行っている者が 2 名、試行的に行っている者が 3 名である。
- ・研修内容については、研修期間も研修時期もほどよい。
- ・これからは桑栽培技術の研修を受講したいとのこと。
- ・技術マニュアルはまだ入手していないとのこと。

以上

聞き取り結果表(3)

対象 VDC	サラン VDC
訪問日	2009年6月5日(金)
場所	サラン VDC の集会場
方法	シルクモビライザーの男性2名から聞き取りを実施。 その後、女性2名から聞き取りを実施した。
<p>内容</p> <p>■シルクモビライザーの男性2名からの聞き取り</p> <p>1. プロジェクトが終わったあとの養蚕の自立発展性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在プロジェクトから、シルクモビライザーとして一人月額3,000~3,500NRsが支給されている。 ・サラン VDC のこのグループ(グループ名はアカラレリン)は、グループ化がしっかりとなされており、グループ内の規則が定められていること、グループ内で基金が積み立てられていることから(現時点の基金総額は20万NRs)、プロジェクトが終わったあともシルクモビライザーとしての活動費を捻出できると考えている。参考までに、ドニベシ支場へ行く際も、グループ内の基金から交通費が支給されている。また、基金は、事業を行おうとするものに貸し、利息をつけて返却してもらう方法をとっている。 ・現在グループは27人で構成されている。基金の積み立て方法は、一人当たり5NRs捻出するとともに(月に一度開かれるミーティング時に納める)、研修参加時に支給される日当のうち、5%は基金に繰り入れること、繭販売収入の20%は基金に繰り入れること、等の規則を定めている。 また、グループの構成者がヤギを放し飼いにし、桑畑に損害を与えてしまった場合は罰金が徴収され、これも基金に繰り入れることになっている。 ・このグループでグループ化が成功した要因は、以前 UNDP が本グループの支援を行っており、UNDP のプロジェクトが終了する際に、ドニベシ支場から本グループあて、プロジェクト終了後は自助努力で養蚕を含めた村づくりを行ってくださいという旨の文書が出されたことによる。 ・既存の養蚕技術は得ているため、プロジェクトが終わったあともシルクモビライザーとして村人をリードしていく自信はある。JT/JTA が来てくれなくても大丈夫であると考えている。但し、新しい技術は、今後もドニベシ支場の研修に参加して勉強したい。 ・現在抱えている問題点は、病気の発生をコントロールできないこと、シルクモビライザーとして、肥料、農薬等の配布に追われているため、評価が十分にできないことが挙げられる。評価はシルクモビライザーではなく、他の人が実施してほしい。また、このグループから座繰り研修に5名の女性が参加した。しかしながら、その効果は今のところ表れていない(座繰りが他の女性に広まっていないとのこと)。 <p>2. その他、得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、この山の中の村にまで、業者がトラクターで野菜を買い付けに来るようになった。正直なところ、繭を販売するより、野菜を栽培し販売したほうが年間収 	

入は多くなる。

■女性 2 名からの聞き取り

1. 繭の生産性と品質について

- ・研修を本人または、夫が受けたため、研修受講後は繭の生産量が増加したとのこと。
- ・但し、1 名の女性は、春 1 蚕期は雨が少なかったせいもあり、桑が思うように生育せず、生産量は減少したとのこと。1 名の女性は、生産量は環境条件によって増えたり減ったりもするとの回答であった。
- ・繭の品質については、2 名とも向上したとの回答である。その要因に、研修で学んだ蚕室の掃除方法を挙げていた。

2. 研修について

- ・2 名の女性は共に座繰り研修に参加している。研修期間と時期を尋ねたところ、2 名とも適切であるとの回答であったが、1 名の女性は、可能であればもう少し期間が欲しいとのこと。その理由として、研修期間 10 日間のうち、最初の 2 日間は何も分からず、ようやく分かってきた頃に研修期間が終了することを挙げていた。
- ・研修を行う側の能力や教え方について尋ねたところ、2 名とも中レベルであると回答した。座繰り研修に対する要望事項として、女性の 1 人は、もう少し丁寧に分かりやすく教えて欲しいこと、大声を出して受講生が萎縮するような教え方は改善の余地があることを指摘していた。
- ・今後受講したい研修について尋ねたところ、1 名はナラン村に行き、機織りを見てみたいこと、1 名は、機織りと共に糸引き、蚕の飼い方の研修を受講したいとのことであった。

以上

聞き取り結果表 (4)

対象 VDC	ナラン VDC
訪問日	2009 年 6 月 11 日 (木)
場所	ナラン VDC の集会場
方法	養蚕を行なっている男性グループ、養蚕を行なっている女性グループ、シルクモビライザーのグループの 3 グループに分け聞き取りを実施した。
内容	<p>■養蚕を行なっている男性からの聞き取り (参加者は 7 名)</p> <p>1. 繭の生産性と品質について</p> <ul style="list-style-type: none">・ドニベシ支場での研修を受けてから 10 年になるが、繭の生産量は増加したとのこと。・品質は向上した。

- ・研修を受講して、どのように飼育技術が向上したのかを尋ねたところ、以前は桑の葉のみを給餌していた。研修参加後は、枝が付いたまま桑を給餌するようになった。その結果、極度の桑葉の乾燥を防ぐことができ、蚕の死亡割合が低くなったとのこと。

また、システマティックな研修を受けられるようになった結果、蚕の飼育過程において、何が良くて何が悪いかを見分けられるようになったとのこと。まぶし技術を学んだこと、稚蚕に対する給餌方法を知ることができたこと、衛生管理方法を見ることができたことは非常に有効であったとの回答があった。

2. 研修について

- ・技術研修マニュアルは 11 年前の研修で配布されたものを大切に使っている。最新の技術が書かれた技術マニュアルを早く配布して欲しいとの要望があった。とにかく、良い技術を見て吸収したいとのこと。

3. その他、得られた情報

- ・繭の生産量を増加させる最も良い方法は、家屋とは別に蚕室を新設することであることはわかっている。ただ、そうしたくても、建設のための助成金は全ての農家に行き渡るわけではないので、現在やっている方法を継続するしかない。

- ・養蚕はコーン栽培などに比べて約 2 倍の利益をもたらすとのこと。

- ・政府からの養蚕に対する補助金がストップした場合、養蚕を続けるかを尋ねたところ、それは自分の家計収入の状況によるとの回答があった。お金の余裕があれば、必要な薬品等も購入できるため続けるが、お金の余裕がない場合は、養蚕はやらないとの回答があった。

■養蚕を行なっている女性からの聞き取り（参加者は 20 名程度）

1. 繭の生産性と品質について

- ・繭の生産量は、半ボックス当たり 9~10 kg から 14 kg である。
- ・研修受講後は繭の損傷がみられなくなったか、損傷が減っている。
- ・その理由は、幼虫の適切な飼育方法を学んだからである。

2. 研修について

- ・ドニベシ支場でも良いが、各村で実施するのもよい。
- ・研修期間や研修時期は適切。
- ・研修実施者の能力や教え方には満足している。但し、研修の参加者は技術を知らないから参加するわけで、このような受講者に対して、研修実施者が「こんなことも知らないのですか」というような優位に立ったような発言は改めて欲しい旨の回答があった。
- ・技術マニュアルは誰も入手していない。

■シルクモビライザーからの聞き取り（参加者は下記、 の 2 名）

シルクモビライザーとして 2 年の経験がある。下の村であるナランバイレニ担当。現在、プロジェクトスタッフとして活動する Lalita 氏の後任。上の村であるサランジャルキニ担当。

- ・蚕を飼育しているかの問いに対し、 は 1 箱飼育、 は CRC での飼育経験はあ

るが自ら飼ったことはないとの回答。

- ・シルクモビライザーとしての活動に追われる中、どのように蚕を飼育しているのかの問いに対し、朝夕に普及活動を行い、昼間に自分の蚕の世話をするという回答であった。
- ・プロジェクトが終わった後もシルクモビライザーとしての活動を継続するかの問いに対し、グループから給料が支給される話はないが、給料なしでも蚕の面倒をみる予定であるとの回答であった。
- ・普及員（JT/JTA）の来訪頻度を尋ねたところ、稚蚕の時に3回（CRCに来る）、壮蚕の時に1回（農家を5～10戸巡回）、合計で年間16回来訪すること。
- ・新しい技術の習得方法について尋ねたところ、コパシ本場で開催される研修に年1回程度参加して習得することであった。

以上

聞き取り結果表（5）

対象 VDC	バイレニ VDC
訪問日	2009年6月11日（木）
場所	養蚕を再開した農家
方法	国道直近で養蚕を行っている男性の蚕室を訪問した。
内容	<p>1. 得られた情報</p> <ul style="list-style-type: none">・同氏はバイレニで養蚕を開始し、民間企業とのリンケージを持ち合わせていたほか、自ら工房を開設して婦人を雇用するなど、養蚕業に関していわばモデルケースを作り上げていた人である。・同氏は数年前に新天地を求めてタライへ行ったものの、リージョナリズムに翻弄されタライには留まれなくなった。そのため、バイレニに戻り再スタートを切った段階にある。移住に伴い土地を売ってしまったため、これから一步一步進んで行くとのことであった。

以上

